

(そ - 2) 北部第2ポンプ場更新工事
設計図面目録 (建築工事)

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
《意匠》		
A-1	建築工事特記仕様書 1	—
A-2	建築工事特記仕様書 2	—
A-3	建築工事特記仕様書 3	—
A-4	建築工事特記仕様書 4	—
A-5	建築工事特記仕様書 5	—
A-6	建築工事特記仕様書 6	—
A-7	建築工事特記仕様書 7	—
A-8	建築工事特記仕様書 8	—
A-9	建築工事 配置図	S=1/150
A-10	仕上表、面積表	—
A-11	平面図	S=1/150
A-12	仕上表、立面図	S=1/150
A-13	断面図	S=1/150
A-14	1 階平面詳細図	S=1/50
A-15	2 階平面詳細図	S=1/50
A-16	矩計図	S=1/50
A-17	建具表、建具キープラン	S=1/50, 200
A-18	内部階段詳細図	S=1/50
A-19	外部階段詳細図 (1)	S=1/30
A-20	外部階段詳細図 (2)	S=1/10, 50
A-21	展開図 1	S=1/100
A-22	展開図 2	S=1/100
A-23	展開図 3	S=1/100
A-24	部分詳細図 1	S=1/2, 20
A-25	部分詳細図 2	S=1/5, 20
A-26	部分詳細図 3	S=1/5, 20, 50
A-27	1 階 貫通孔位置図 (参考)	S=1/50
《構造》		
S-1	新構造設計特記仕様その 1	—
S-2	新構造設計特記仕様その 2	—
S-3	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図 (1)	—
S-4	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図 (2)	—
S-5	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図 (3)	—
S-6	柱 状 図	S=1/150
S-7	杭 伏 図	S=1/150
S-8	1階、2階、R階床梁伏図	S=1/150

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
《構造》		
S-9	軸組図 (1)	S=1/150
S-10	軸組図 (2)	S=1/150
S-11	基礎リスト (1)	S=1/50
S-12	基礎リスト (2)	S=1/50
S-13	1階、2階柱リスト	S=1/40
S-14	大梁リスト	S=1/40
S-15	小梁・壁・柱リスト	S=1/40
S-16	断面配筋詳細図 (1)	S=1/50
S-17	断面配筋詳細図 (2)	S=1/50
S-18	断面配筋詳細図 (3)	S=1/50
S-19	B 通り配筋詳細図	S=1/50
S-20	雑配筋詳細図 (1)	S=1/20
S-21	雑配筋詳細図 (2)	S=1/30
S-22	雑詳細図	S=1/30
《付帯機械設備》		
AM-1	建築機械設備特記仕様書 (1)	—
AM-2	建築機械設備特記仕様書 (2)	—
AM-3	空調換気設備 凡例・機器表	—
AM-4	空調換気設備 1 階・2 階配管平面図	S=1/100
AM-5	空調換気設備 1 階・2 階ダクト平面図	S=1/100
AM-6	空調換気設備 R 階ダクト平面・断面図	S=1/100
AM-7	給排水衛生設備 凡例・機器表・1 階平面図	S=1/100
AM-8	給排水衛生設備 2 階平面図	S=1/100
《付帯電気設備》		
AE-1	建築電気設備特記仕様書	—
AE-2	電灯設備 凡例 器具姿図 盤結線図	—
AE-3	電灯設備 平面図	S=1/100
AE-4	コンセント設備 平面図	S=1/100
AE-5	電灯設備 断面図	S=1/100
AE-6	動力設備 盤結線図 平面図	S=1/100
AE-7	屋外電灯設備 平面図	S=1/100
《解体工事》		
K-1	解体工事 既設建屋解体図 (1)	S=1/50
K-2	解体工事 既設建屋解体図 (2)	S=1/50

4 地業工事へ続き	3 鋼杭地業	寸法、寸法、継手等 (4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)	種類 杭径 (mm) 板厚 (mm) 杭長 (mm) 継手数 セツト数 長期設計支持力 (kN/本) 備考	試験杭 上杭 中杭 下杭 本杭 上杭 中杭 下杭	・特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.5)(4.4.4) ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式でα=250を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 α=()、β=()、γ=() 工法 ・中掘り拡大根固め工法 試験杭 試験杭の位置 図示による() 杭の精度 水平方向の位置ずれ ※評定等の内容による 杭の傾斜 ※評定等の内容による 杭の継手の工法 (4.4.3)(4.4.5)(7.2.5) ・溶接継手 形状 ・JIS A 5525による 溶接材料 ・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの） 工法 ※評定等を受けた工法 検査 ※評定等により定められた項目 施工 ※評定等をされた施工管理基準による 杭頭の処理 (4.3.8)(4.4.6) ・処理しない ・処理する 処理方法（切断をとまなう補強方法含む） ・図示による() 杭頭の中詰め材料 (4.3.8) ・基礎のコンクリートと同調合のもの 工法 (4.5.1)(4.5.5) ・アースドリル工法（安定液 ※使用する ・使用しない） ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張り ・行う ・行わない） 併用する工法 (4.5.1)(4.5.6) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管の種類 ・SKK400 ・SKK490 ・拡底杭工法（安定液 ・使用する ・使用しない） 寸法等 (4.2.2)	鋼管厚 (mm) 鋼管径 (mm) 軸径 (mm) 拡底径 (mm) 杭長 (mm) セツト数 長期設計支持力 (kN/本) 備考	試験杭 本杭	試験杭 (4.5.5) 試験杭の位置 ・図示による() 孔壁の保持状況（孔壁測定） (4.5.5) 測定箇所 ・試験杭()箇所及び本杭()箇所 杭の支持層への根入れ深さ ・図示による() 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の内容による 杭の傾斜 ・1/100以内 ・評定等の内容による 鉄筋の種類 (4.5.4) 種類の記号 呼び径 (mm) 備考 ・SD295A ・SD345 ・ 帯筋 (4.5.4) ・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）2.2） 鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.4) ・100mm 鉄筋かごの補強 (4.5.4) ・図示による() ・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50 (mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75 (mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋の接触部を溶接する	5 鉄筋工事（構造図優先）	① 鉄筋 (5.2.1) 鉄筋の種類 種類の記号 呼び径 (mm) 備考 ○SD295A ※D16以下 ○SD345 ※D19以上 ・ ・ 鉄線の形状等 (5.2.2) 種類 種類の記号 網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm) 使用部位 ・溶接金網 ・鉄筋格子 鉄筋の継手及び定着 (5.3.4)(5.5.2)(5.6.3) 部位 継手の方法 呼び径 (mm) 柱及び梁主筋 ○ガス圧接 ・機械式継手 ○溶接継手 ○重ね継手 耐力壁の鉄筋 ○重ね継手 ・ 基礎、耐圧スラブ、土圧壁 ○重ね継手 ○ガス圧接 上記以外 () ・重ね継手 ・ 継手位置 (5.3.4) ○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）1.1、2.1、3.1、3.4、3.5、4.2） 基礎梁主筋の継手位置 ・図1.2 ・図1.3 ・図1.4 ・図示による() 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ (5.3.4) ○図示による() 耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4) ○標準仕様書表5.3.2による ・標準仕様書 5.3.4(3)(7)による ・図示による() 鉄筋の定着長さ (5.3.4) ※標準仕様書表5.3.4Iによる 最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） (5.3.5) ○標準仕様書 表5.3.6Iによる 柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ・あり 適用箇所() 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等） ・適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm ○水槽部は70mm 各部配筋 (5.3.7) ※図示による	② 溶接金網 (5.2.2) 種類 種類の記号 網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm) 使用部位 ・溶接金網 ・鉄筋格子 鉄筋の継手及び定着 (5.3.4)(5.5.2)(5.6.3) 部位 継手の方法 呼び径 (mm) 柱及び梁主筋 ○ガス圧接 ・機械式継手 ○溶接継手 ○重ね継手 耐力壁の鉄筋 ○重ね継手 ・ 基礎、耐圧スラブ、土圧壁 ○重ね継手 ○ガス圧接 上記以外 () ・重ね継手 ・ 継手位置 (5.3.4) ○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）1.1、2.1、3.1、3.4、3.5、4.2） 基礎梁主筋の継手位置 ・図1.2 ・図1.3 ・図1.4 ・図示による() 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ (5.3.4) ○図示による() 耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4) ○標準仕様書表5.3.2による ・標準仕様書 5.3.4(3)(7)による ・図示による() 鉄筋の定着長さ (5.3.4) ※標準仕様書表5.3.4Iによる 最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） (5.3.5) ○標準仕様書 表5.3.6Iによる 柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ・あり 適用箇所() 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等） ・適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm ○水槽部は70mm 各部配筋 (5.3.7) ※図示による	7 機械式継手 (5.5.2) 適用箇所 ・図示による() H12建告第1463号に適合する性能 (5.5.2) ・A級 機械式継手の種類 (5.5.2) ・図示による() 鉄筋相互のあき (5.3.5)(5.5.2) ・図示による() 施工完了後の継手部の試験 (5.5.2) ・図示による() 不合格となった継手部への措置 (5.5.2) ・図示による() 適用箇所 (5.6.3) ・図示による() H12建告第1463号に適合する性能 (5.6.3) ・A級 溶接継手の工法 ・図示による() 鉄筋相互のあき (5.6.3) ・図示による() 溶接完了後の継手部の試験 (5.6.3) ・図示による() 不合格となった継手部への措置 (5.6.3) ・図示による() 8 溶接継手 (5.6.3) 適用箇所 ・図示による() H12建告第1463号に適合する性能 (5.6.3) ・A級 溶接継手の工法 ・図示による() 鉄筋相互のあき (5.6.3) ・図示による() 溶接完了後の継手部の試験 (5.6.3) ・図示による() 不合格となった継手部への措置 (5.6.3) ・図示による()	⑥ 圧接完了後の試験 (5.4.10)(5.4.11) 外観試験 ※行う（全ての圧接部） 抜取試験 (5.4.10)(5.4.11) ※超音波探傷試験 試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。 試験の箇所数：1ロットに対して30か所とし、ロットから無作為に抜き取る。 ・引張試験 試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200か所を超えるときは200か所ごととする。 試験の箇所数：1ロットに対して（・3本 ・5本）とする。	⑦ コンクリートの仕上り 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4) 種類 適用箇所 ・A種 ※図示による() ○B種 ※図示による() ・C種 ※図示による() コンクリートの仕上げの平たんさ (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4) 種類 適用箇所 ・a種 ※図示による() ○b種 ※図示による() ・c種 ※図示による() ⑦ 打増し厚さ （打放し仕上げ部） 打増し厚さ ○打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） ○20mm ○50 ・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・20mm 打増し範囲 ・図示による() ⑧ 型枠 せき板の材料及び厚さ ○合板（※12mm 図 ○断熱材の兼用した型枠 使用箇所 ○図示による() ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による() 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による() スリーブの材種・規格等 ・図示による() 9 軽量コンクリート (6.10.1)(表6.10.1) 種類 ・1種 ・2種 適用箇所 ・図示による() スラブ ※21cm 10 寒中コンクリート (6.11.1) 適用期間 ・図示による() ・積算温度を基に定める場合 ・図示による() 11 暑中コンクリート (6.12.2) 構造体強度補正值 (S) ※6N/mm ² 12 マスコンクリート (6.13.1) 適用箇所 ・図示による() セメントの種類 (6.13.2) ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種G ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 混和材料 (6.13.2) ・混和剤 混和剤の種類 ※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤 スラブ (6.13.2) ※15cm 構造体強度補正值 (s) (6.13.2) ※表6.13.1による
	4 場所打ち コンクリート杭地業	⑤ 砂利地業 (4.6.2) ⑥ 捨コンクリート地業 (4.6.4) 7 床下防湿層 (4.6.5)	5 鉄筋工事（構造図優先）	① コンクリートの類別等 (6.2.1) コンクリートの種別 ※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート） ※普通コンクリート (6.2.1~4) 設計基準強度 (N/mm ²) スラブ (cm) 適用箇所 ○24 ・15又は18 ・18○8~12 水槽に関わる部分 ○24 ・15又は18 ○18 一般部 ○24 ・15又は18 ・18○8~12 基礎、地中梁 ○18 ○15 ・18 捨てコンクリート ・ 構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による 種類 (6.3.1) ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 適用箇所（※下記以外全て () 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする ・高炉セメントB種G 適用箇所（・1FLより下部（立上り部含む） () ・フライアッシュセメントB種G 適用箇所() ③ 骨材 (6.3.1) アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B（コンクリート中のアルカリ総量が3.0 kEq/m 以下） ④ 混和材料 (6.3.1) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による ○混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による 打継ぎの位置 (6.6.4) 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ・図示による() 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による() 目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) ○標準仕様書 9.7.3(1)(7)~(9)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による() ひび割れ誘発目地の位置、形状 (6.8.1) ○図示による()	② セメント (6.3.1) 種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 適用箇所（※下記以外全て () 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする ・高炉セメントB種G 適用箇所（・1FLより下部（立上り部含む） () ・フライアッシュセメントB種G 適用箇所() ③ 骨材 (6.3.1) アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B（コンクリート中のアルカリ総量が3.0 kEq/m 以下） ④ 混和材料 (6.3.1) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による ○混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による 打継ぎの位置 (6.6.4) 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ・図示による() 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による() 目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) ○標準仕様書 9.7.3(1)(7)~(9)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による() ひび割れ誘発目地の位置、形状 (6.8.1) ○図示による()	⑤ 打継ぎの位置、 ひび割れ誘発目地、 打継目地 (6.6.4) 打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ・図示による() 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による() 目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) ○標準仕様書 9.7.3(1)(7)~(9)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による() ひび割れ誘発目地の位置、形状 (6.8.1) ○図示による()	⑧ コンクリートの仕上り 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4) 種類 適用箇所 ・A種 ※図示による() ○B種 ※図示による() ・C種 ※図示による() コンクリートの仕上げの平たんさ (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4) 種類 適用箇所 ・a種 ※図示による() ○b種 ※図示による() ・c種 ※図示による() ⑦ 打増し厚さ （打放し仕上げ部） 打増し厚さ ○打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） ○20mm ○50 ・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・20mm 打増し範囲 ・図示による() ⑧ 型枠 せき板の材料及び厚さ ○合板（※12mm 図 ○断熱材の兼用した型枠 使用箇所 ○図示による() ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による() 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による() スリーブの材種・規格等 ・図示による() 9 軽量コンクリート (6.10.1)(表6.10.1) 種類 ・1種 ・2種 適用箇所 ・図示による() スラブ ※21cm 10 寒中コンクリート (6.11.1) 適用期間 ・図示による() ・積算温度を基に定める場合 ・図示による() 11 暑中コンクリート (6.12.2) 構造体強度補正值 (S) ※6N/mm ² 12 マスコンクリート (6.13.1) 適用箇所 ・図示による() セメントの種類 (6.13.2) ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種G ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 混和材料 (6.13.2) ・混和剤 混和剤の種類 ※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤 スラブ (6.13.2) ※15cm 構造体強度補正值 (s) (6.13.2) ※表6.13.1による							
				工 事 件 名	（そー2）北部第2ポンプ場更新工事									
				工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第2ポンプ場）									
				図 面 名	建築工事特記仕様書2	縮 尺	—	分 割	A- 2/27					
				甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2		マイクNo.						

6 コンクリート工事へ 続き	⑬ 無筋コンクリート	コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種☑ ・フライアッシュセメントB種☑ 設計基準強度 ※18(N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ・標準仕様書 6.14.1(4)(7)～(h)による ○図示による() 14 流動化コンクリート 適用箇所 ・図示による() 15 コンクリートの単位 水量測定 ・行う ・行わない 実施要領 (1)単位水量の測定は、150ℓに1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(イ)(ロ)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1)測定した単位水量が、計画調査書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/㎡の範囲にある場合はそのまま施工する。 2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/㎡の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後設計値±15kg/㎡以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3)設計値±20kg/㎡を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/㎡以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/㎡以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 4)3)の不都合生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4)単位水量管理についての記録を書面(計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。	(6.2.1)(6.14.1) (6.3.1) (6.14.1) (6.14.1) (6.14.1) (6.15.1)	⑰ 溶接材料 8 ターンバックル 9 デッキプレート 10 スタッ 11 レール及びその付属品 ⑱ 柱底均しモルタル ⑲ 製作精度	溶接材料 ○標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・図示による() 種類 建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト ・ 建築用ターンバックル胴 ※割枠式 ・ ねじの呼び ・図示による() 材質、形状及び寸法 <table><tr><th></th><th>適用箇所</th><th>材質・形状・寸法</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・デッキプレート単独の構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 鉄骨部材への溶接方法 ・図示による() 種類等 <table><tr><th>呼び名</th><th>呼び長さ (mm)</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>・16</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・19</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・22</td><td></td><td></td></tr></table> 形状及び寸法等 ・図示による() モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料、調合等 材料、調合等 ※標準仕様書7.2.9(2)(7)から(イ)による ・ ・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※平12建告第1464号第二号イ(2)による アンダーカットの寸法 ※平12建告第1464号第二号イ(3)による 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 14 鉄骨の仮組 仮組を行う範囲 ・図示による() 15 溶接技能者の技量付加試験 試験の要領 ・図示による() 16 溶接接合 開先 ・図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1～2) エンドタブを切断する箇所及び切断範囲 適用箇所 ・図示による() エンドタブを切断する場合の仕上げは標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)による スカラップの形状 ・図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1～4) 低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・図示による() 17 溶接部の試験 平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ・抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・JASS 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5 <table><tr><th>節</th><th>全て</th><th></th><th></th></tr><tr><td>検査水準</td><td>※第6水準</td><td></td><td></td></tr></table> ・工事現場溶接の場合 ※全数 ⑳ 錆止め塗装 塗料の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による() 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・図示による() ・標準仕様書7.8.2(1)による 塗料の種別 ・鉄鋼面の錆止め塗料の種別 屋外 ・A種 屋内 ・A種 ・B種 ○亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料の種別 ○A種 ・B種 ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別 (表18.3.1) ・A種 ・B種 ・耐火被覆が接着する面の塗料の種別 ・		適用箇所	材質・形状・寸法	備 考	・デッキプレート単独の構法				・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法												呼び名	呼び長さ (mm)	適 用 箇 所	・16			・19			・22			節	全て			検査水準	※第6水準			(7.2.5) (7.2.6) (7.2.6) (7.2.7) (7.7.8) (7.2.8) (7.2.9) (7.3.3) (7.3.10) (7.6.3) (7.6.4) (7.6.7) (7.6.7) (7.6.12) (7.8.2)	8 コンクリートブロック・ALCパネル・ 押出成形セメント板工事	19 耐火被覆 種類、材料、工法等 <table><tr><th>種 類</th><th>材 料 ・ 工 法</th><th>性能 (耐火時間)</th><th>適用箇所 (部位・部分)</th></tr><tr><td rowspan="4">・耐火材吹付け</td><td>・乾式吹付けロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・半乾式吹付けロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・湿式ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・耐火板張り</td><td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・耐火材巻付け</td><td>・高断熱ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ラス張りモルタル塗り</td><td>―</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・耐火塗料</td><td></td><td></td></tr></table> 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ○図示による() 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ○図示による() 建方 (及び付属鉄骨) 用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ○A種 ・B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 厚さ ○50 種別 ※A種 ・ ボルト接合方法 ・	種 類	材 料 ・ 工 法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール			・半乾式吹付けロックウール			・湿式ロックウール			・			・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板			・			・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			・			・ラス張りモルタル塗り	―			・耐火塗料			(7.9.2～8) (7.10.3) (7.10.3) (7.10.3)(表7.10.1) (7.10.3)(表7.10.2) (7.11.2)	9 防水工事	4 押出成形セメント板 (ECP)	(8.5.2～5)(表8.5.1)(表8.5.2) <table><tr><th>パネルの種類</th><th>形状</th><th>厚さ (mm)</th><th>幅 (mm)</th><th>工法の種別</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">・外壁パネル</td><td>・F (フラットパネル)</td><td>・50 ・60 ・</td><td rowspan="3">600</td><td rowspan="3">・A種 ・B種</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・D (デザインパネル)</td><td>・50 ・60 ・</td></tr><tr><td>・T (タイルベースパネル)</td><td>60</td></tr><tr><td rowspan="3">・間仕切壁パネル</td><td>・F (フラットパネル)</td><td>・50 ・60 ・</td><td rowspan="3">600</td><td rowspan="3">・B種 ・C種</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・D (デザインパネル)</td><td>・50 ・60</td></tr><tr><td>・T (タイルベースパネル)</td><td>60</td></tr></table> 外壁パネルの工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法) ・適用しない パネル幅の最小限度 (mm) ※300 ・300未満は図示 () パネルの相互の目地幅 (mm) 長辺の目地幅 ・8以上 ・図示 短辺の目地幅 ・15以上 ・図示 出隅及び入隅のパネル接合目地 ※伸縮調整目地 (シーリング材を充填) 目地幅 (mm) (・15 ・図示) 原則として、欠き込み等は行わない。やむを得ず行う場合の開口の限度 ・図示 () 耐火構造以外の目地及びすき間の処理 ※パネルの製造所の仕様による	パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種別	備考	・外壁パネル	・F (フラットパネル)	・50 ・60 ・	600	・A種 ・B種		・D (デザインパネル)	・50 ・60 ・	・T (タイルベースパネル)	60	・間仕切壁パネル	・F (フラットパネル)	・50 ・60 ・	600	・B種 ・C種		・D (デザインパネル)	・50 ・60	・T (タイルベースパネル)	60	9.2.2～5) (表9.2.3～9)	1 アスファルト防水 屋根保護防水 防水層の種別 <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>断熱材☑</th><th>絶縁用シート</th><th>立上り部の保護</th></tr><tr><td>・A-1</td><td></td><td rowspan="6">/</td><td rowspan="6">※ポリイソプレン厚さ0.15mm以上 ・</td><td rowspan="6">・乾式保護材 ・コンクリート押え</td></tr><tr><td>・A-2</td><td></td></tr><tr><td>・A-3</td><td></td></tr><tr><td>・B-1</td><td></td></tr><tr><td>・B-2</td><td></td></tr><tr><td>・B-3</td><td></td></tr><tr><td>・AI-1</td><td></td><td>(厚さ)</td><td rowspan="6">※フラット・傾斜 70g/㎡程度 ・</td><td rowspan="6"></td></tr><tr><td>・AI-2</td><td></td><td>・25mm</td></tr><tr><td>・AI-3</td><td></td><td>・50mm</td></tr><tr><td>・BI-1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・BI-2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・BI-3</td><td></td><td></td></tr></table> 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9.2.3から表9.2.8による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9.2.5から表9.2.8による 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm 以上 床タイル張り ※水下 60mm 以上 立上り部の保護 ・乾式保護材 窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。 金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。 ・保護れんが ※TIS R 1250 (普通れんが及び化粧れんが) ・ 屋上排水溝 ※図示	種別	施工箇所	断熱材☑	絶縁用シート	立上り部の保護	・A-1		/	※ポリイソプレン厚さ0.15mm以上 ・	・乾式保護材 ・コンクリート押え	・A-2		・A-3		・B-1		・B-2		・B-3		・AI-1		(厚さ)	※フラット・傾斜 70g/㎡程度 ・		・AI-2		・25mm	・AI-3		・50mm	・BI-1			・BI-2			・BI-3											
		適用箇所	材質・形状・寸法	備 考																																																																																																																																																																			
	・デッキプレート単独の構法																																																																																																																																																																						
	・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法																																																																																																																																																																						
	呼び名	呼び長さ (mm)	適 用 箇 所																																																																																																																																																																				
	・16																																																																																																																																																																						
	・19																																																																																																																																																																						
	・22																																																																																																																																																																						
節	全て																																																																																																																																																																						
検査水準	※第6水準																																																																																																																																																																						
種 類	材 料 ・ 工 法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)																																																																																																																																																																				
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール																																																																																																																																																																						
	・半乾式吹付けロックウール																																																																																																																																																																						
	・湿式ロックウール																																																																																																																																																																						
	・																																																																																																																																																																						
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																																																																																																																																																						
	・																																																																																																																																																																						
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																																																																																																																																																						
	・																																																																																																																																																																						
・ラス張りモルタル塗り	―																																																																																																																																																																						
	・耐火塗料																																																																																																																																																																						
パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種別	備考																																																																																																																																																																		
・外壁パネル	・F (フラットパネル)	・50 ・60 ・	600	・A種 ・B種																																																																																																																																																																			
	・D (デザインパネル)	・50 ・60 ・																																																																																																																																																																					
	・T (タイルベースパネル)	60																																																																																																																																																																					
・間仕切壁パネル	・F (フラットパネル)	・50 ・60 ・	600	・B種 ・C種																																																																																																																																																																			
	・D (デザインパネル)	・50 ・60																																																																																																																																																																					
	・T (タイルベースパネル)	60																																																																																																																																																																					
種別	施工箇所	断熱材☑	絶縁用シート	立上り部の保護																																																																																																																																																																			
・A-1		/	※ポリイソプレン厚さ0.15mm以上 ・	・乾式保護材 ・コンクリート押え																																																																																																																																																																			
・A-2																																																																																																																																																																							
・A-3																																																																																																																																																																							
・B-1																																																																																																																																																																							
・B-2																																																																																																																																																																							
・B-3																																																																																																																																																																							
・AI-1		(厚さ)	※フラット・傾斜 70g/㎡程度 ・																																																																																																																																																																				
・AI-2		・25mm																																																																																																																																																																					
・AI-3		・50mm																																																																																																																																																																					
・BI-1																																																																																																																																																																							
・BI-2																																																																																																																																																																							
・BI-3																																																																																																																																																																							
7 鉄骨工事へ 構造図優先	① 鉄骨製作工場 ② 施工管理技術者 ③ 鋼材 ④ 高力ボルト 5 普通ボルト ⑥ アンカーボルト	鉄骨製作工場の加工能力 ・適用する ・適用しない 材質等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所 (主要な部分)</th><th>規格</th></tr><tr><td>SS400</td><td>外部鉄骨階段</td><td>○JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 高力ボルトの種類 ○トルシア形高力ボルト ・JIS高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト ・ ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1～1 縁端距離及びボルト間隔) ・ 摩擦面の処理方法等 溶融亜鉛めっき面以外 ※標準仕様書7.4.2(1)による ・ 溶融亜鉛めっき面 ○プラスト処理 ・りん酸塩処理 ・すべり試験 試験の方法等 ・図示による() ボルト及びナットの材料 ※標準仕様書表7.2.3による ・ 座金 ・標準仕様書7.2.3(4)による ボルトの形状等 (ねじの呼び) ・図示による() ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1～1 縁端距離、ボルト間隔) ・ 適用 ○構造用アンカーボルト 種類 ○SS400 形状、寸法 ○図示による() ・建方用アンカーボルト 種類 ・ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による 形状、寸法 ・図示による() ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1～1 縁端距離、ボルト間隔) ・	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格	SS400	外部鉄骨階段	○JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・													(7.1.3) (7.1.3)(7.1.4) (7.2.1) (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2) (7.12.5) (7.4.2) (7.2.3) (7.2.3) (7.2.3) (7.3.2) (7.2.4)(7.10.3) (7.3.2)	⑳ 錆止め塗装 21 軽量形鋼構造	1 補強コンクリート ブロック造 ブロックの種類 <table><tr><th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th><th>正味厚さ (mm)</th><th>ギョーラル呼び寸法 (mm)</th><th>化粧の有無</th><th>適用箇所</th><th>備考</th></tr><tr><th></th><th></th><th>長さ</th><th>高さ</th><th></th><th></th></tr><tr><td>※空洞ブロックC(16)</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td></tr></table> モルタルの割合 (容積比) 目地巾が10mm程度 ※表8.2.1による 上記以外 各部の配筋 ※図示 モルタルの割合 (容積比) 目地巾が10mm程度 ※表8.2.1による 上記以外 各部の配筋 ※図示 ブロックの種類 <table><tr><th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th><th>正味厚さ (mm)</th><th>ギョーラル呼び寸法 (mm)</th><th>化粧の有無</th><th>(表8.3.1)以外の適用箇所</th><th>備考</th></tr><tr><th></th><th></th><th>長さ</th><th>高さ</th><th></th><th></th></tr><tr><td>※空洞ブロックC(16)</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・無 ・有</td><td></td></tr></table> モルタルの割合 (容積比) 目地巾が10mm程度 ※表8.2.1による 上記以外 各部の配筋 ※図示 モルタルの割合 (容積比) 目地巾が10mm程度 ※表8.2.1による 上記以外 各部の配筋 ※図示 パネルの種類 <table><tr><th>パネルの区分</th><th>単位荷重 (N/㎡)</th><th>厚さ (mm)</th><th>幅 (mm)</th><th>長さ (mm)</th><th>耐火性能</th><th>表面加工</th><th>構法の種別</th></tr><tr><td>・外壁用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>有 (1) 時間</td><td>・平 ・意匠</td><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td>・間仕切壁用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>・有 (1) 時間 ・無</td><td>・平 ・意匠</td><td>・C種 ・D種 ・E種</td></tr><tr><td>・屋根用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>有 (0.5) 時間</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・床用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>有 () 時間</td><td>平</td><td>F種</td></tr></table> 外壁パネルの構法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法) ・適用しない パネル幅の最小限度 (mm) ※300 ・300未満は図示 () パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地の目地幅 目地幅 (mm) ・10～20mm ・図示 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない	断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	ギョーラル呼び寸法 (mm)	化粧の有無	適用箇所	備考			長さ	高さ			※空洞ブロックC(16)				・無 ・有		・				・無 ・有		・				・無 ・有		断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	ギョーラル呼び寸法 (mm)	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考			長さ	高さ			※空洞ブロックC(16)				・無 ・有		・				・無 ・有		・				・無 ・有		パネルの区分	単位荷重 (N/㎡)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別	・外壁用パネル		・100			有 (1) 時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種	・間仕切壁用パネル		・100			・有 (1) 時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種	・屋根用パネル		・100			有 (0.5) 時間			・床用パネル		・100			有 () 時間	平	F種	(8.2.2～5) (8.2.3) (8.2.5) (8.3.2)～(8.3.4) (8.2.3) (8.2.5) (8.4.2～5)(表8.4.2～4) (8.2.3) (8.2.5)	3 ALCパネル	(8.4.2～5)(表8.4.2～4) <table><tr><th>パネルの区分</th><th>単位荷重 (N/㎡)</th><th>厚さ (mm)</th><th>幅 (mm)</th><th>長さ (mm)</th><th>耐火性能</th><th>表面加工</th><th>構法の種別</th></tr><tr><td>・外壁用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>有 (1) 時間</td><td>・平 ・意匠</td><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td>・間仕切壁用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>・有 (1) 時間 ・無</td><td>・平 ・意匠</td><td>・C種 ・D種 ・E種</td></tr><tr><td>・屋根用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>有 (0.5) 時間</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・床用パネル</td><td></td><td>・100</td><td></td><td></td><td>有 () 時間</td><td>平</td><td>F種</td></tr></table> 外壁パネルの構法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法) ・適用しない パネル幅の最小限度 (mm) ※300 ・300未満は図示 () パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地の目地幅 目地幅 (mm) ・10～20mm ・図示 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない	パネルの区分	単位荷重 (N/㎡)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別	・外壁用パネル		・100			有 (1) 時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種	・間仕切壁用パネル		・100			・有 (1) 時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種	・屋根用パネル		・100			有 (0.5) 時間			・床用パネル		・100			有 () 時間	平	F種	(8.2.2～5) (8.2.3) (8.2.5) (8.3.2)～(8.3.4) (8.2.3) (8.2.5)
種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格																																																																																																																																																																					
SS400	外部鉄骨階段	○JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・ ・JIS規格による ・																																																																																																																																																																					
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	ギョーラル呼び寸法 (mm)	化粧の有無	適用箇所	備考																																																																																																																																																																		
		長さ	高さ																																																																																																																																																																				
※空洞ブロックC(16)				・無 ・有																																																																																																																																																																			
・				・無 ・有																																																																																																																																																																			
・				・無 ・有																																																																																																																																																																			
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	ギョーラル呼び寸法 (mm)	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考																																																																																																																																																																		
		長さ	高さ																																																																																																																																																																				
※空洞ブロックC(16)				・無 ・有																																																																																																																																																																			
・				・無 ・有																																																																																																																																																																			
・				・無 ・有																																																																																																																																																																			
パネルの区分	単位荷重 (N/㎡)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別																																																																																																																																																																
・外壁用パネル		・100			有 (1) 時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種																																																																																																																																																																
・間仕切壁用パネル		・100			・有 (1) 時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種																																																																																																																																																																
・屋根用パネル		・100			有 (0.5) 時間																																																																																																																																																																		
・床用パネル		・100			有 () 時間	平	F種																																																																																																																																																																
パネルの区分	単位荷重 (N/㎡)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別																																																																																																																																																																
・外壁用パネル		・100			有 (1) 時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種																																																																																																																																																																
・間仕切壁用パネル		・100			・有 (1) 時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種																																																																																																																																																																
・屋根用パネル		・100			有 (0.5) 時間																																																																																																																																																																		
・床用パネル		・100			有 () 時間	平	F種																																																																																																																																																																
工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事																																																																																																																																																																					
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)																																																																																																																																																																					
図 面 名		建築工事特記仕様書3	縮 尺	—	分 割	A- 3/27																																																																																																																																																																	
甲府市上下水道局		管理番号	R 6 そー2		マイクNo.																																																																																																																																																																		

9
防水工事

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	防湿層	仕上塗料	高日射反射率防水の適用[G]
・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS1-T1		・ 25mm	・ 設ける (改質アスファルト製造所の仕様による) ・ 設けない	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
・AS1-J1					・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
断熱材の種類
押入金物
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
・改質アルファルトシートの製造所の指定の種類及び設置数量
・種類 () 設置数量 (個)

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材[G]	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
・S-F1				・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
○S-F2 ・S-M1	屋上・水槽上部				・
・S-M2 ・S-M3 ・S1-F1			(厚さ) ・ 25mm	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
・S1-F2 ・S1-M1					・
・S1-M2		※発泡ポリイソレンシート		・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	保護層	
		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・ 塗り厚さ 工法	・ 床塗り ※7mm以下 ・ 下地モルタル塗り

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
立上り面のシートの厚さ (S-M2及びS1-M2で接着工法の場合)
※1.5mm
固定金具の材質及び形状
材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
厚さ(mm) ※0.4以上
断熱材の種類
断熱工法の場合の防湿用フィルム
・設置する
・設置しない
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
・ルーフィングシートの製造所の仕様による
・種類 () 設置数量 (個)
防水下地・P-Cコンクリート部材下地の場合の処理
目地処理 ※図示
入隅部の増張り (S-F1,S1-F1の場合)
※図示
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

4 塗膜防水

防水層の種類

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層	高日射反射率防水の適用
・X-1		・ 種類 使用量		・
○X-2	庇・排気塔上部	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による		
・Y-1	※地下外壁防水			
・Y-2	※屋内防水			・適用する ・適用しない

ウレタンゴム系塗膜防水 X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び設置数量
・主材料の製造所の仕様による
・種類 () 設置数量 (個)

ゴムアスファルト系塗膜防水 Y-1,Y-2
工程数及び各工程の使用量
・主材料の製造所の仕様による

5 ケイ酸質系塗布膜防水

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-U1		・C-UP	

防水層の下地 (壁及び天井) ・コンクリート打放 (B種)
下地処理 (コンクリートの打継処理) ・標準仕様書9.6.4(2) (7)
(9.7.2) (表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.11による
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)による
接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

10 石工事

1 施工

防水層の種類

種別	施工箇所	天然石	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形					

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 300型 ・ 400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品

2 石材等

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 300型 ・ 400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品

3 外壁湿式工法

受金物 材質 ※SUS304
形状及び寸法

・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm

石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
下地ごしらえ ※流し工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法

ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1.1による
シーリング材の目地寸法 ※図示

4 内壁空積工法

受金物 材質 ※SUS304
形状及び寸法

・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm

石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する
伸縮調整目地 位置 ※6φごと
シーリング材の目地寸法 ※図示

5 乾式工法

取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
だば用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(2) (7)による
外壁の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない

アンカーの材質及び径 ※ステンレス(SUS 304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※8以上
シーリング材 ・適用する (※標準仕様書9.7)による
伸縮調整目地 位置 ※図示

6 床及び階段の石張り

床石張りの表面処理 ・適用する
階段張りの表面処理 ・適用する
目地 一般目地 目地幅(mm) ※図示
伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6㎡程度ごと及び他部材との取合い部

・適用しない
・適用しない
・図示
・適用しない
・図示

7 アーチの石張り

取付け法 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
外壁湿式工法又は内壁空積工法の取付け金物 ・標準仕様書10.2.2(1)による
乾式工法の取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS 304)径6mm長さ80mm (加工物)
吊りボルト ※ステンレス(SUS 304)M10化粧ナット付き
・設けない
石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
アンカーの材質及び径 ※ステンレス(SUS 304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部

8 笠木、甲板等の石張り

取付け法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法
外壁湿式工法の取付け金物 ・標準仕様書10.2.2(1)による
乾式工法の取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
石裏面処理 ・適用する
乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(2)による
石裏の補強用モルタル ・適用する
アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS 304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ※標準仕様書表11.1.1による
2 セメントモルタルによるタイル張り
(11.2.2) (11.2.3) (11.2.7)

3 有機系接着剤によるタイル張り
(11.3.2～4) (11.3.7)

12 木工事

表面仕上げの種別

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	
・H-A種	
・H-B種	
・H-C種	

2 製材

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※2級		※A種 ・B種	
			※2級		※A種 ・B種	

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※上小節		※A種 ・B種	
			※小節以上		※A種 ・B種	

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	防湿層	仕上塗料	高日射反射率防水の適用[G]
・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS1-T1		・ 25mm	・ 設ける (改質アスファルト製造所の仕様による) ・ 設けない	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
・AS1-J1					・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
断熱材の種類
押入金物
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
・改質アルファルトシートの製造所の指定の種類及び設置数量
・種類 () 設置数量 (個)

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材[G]	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
・S-F1				・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
○S-F2 ・S-M1	屋上・水槽上部				・
・S-M2 ・S-M3 ・S1-F1			(厚さ) ・ 25mm	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
・S1-F2 ・S1-M1					・
・S1-M2		※発泡ポリイソレンシート		・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	保護層	
		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・ 塗り厚さ 工法	・ 床塗り ※7mm以下 ・ 下地モルタル塗り

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
立上り面のシートの厚さ (S-M2及びS1-M2で接着工法の場合)
※1.5mm
固定金具の材質及び形状
材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
厚さ(mm) ※0.4以上
断熱材の種類
断熱工法の場合の防湿用フィルム
・設置する
・設置しない
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
・ルーフィングシートの製造所の仕様による
・種類 () 設置数量 (個)
防水下地・P-Cコンクリート部材下地の場合の処理
目地処理 ※図示
入隅部の増張り (S-F1,S1-F1の場合)
※図示
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

5 ケイ酸質系塗布膜防水

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-U1		・C-UP	

防水層の下地 (壁及び天井) ・コンクリート打放 (B種)
下地処理 (コンクリートの打継処理) ・標準仕様書9.6.4(2) (7)
(9.7.2) (表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.11による
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)による
接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

10 石工事

1 施工

防水層の種類

種別	施工箇所	天然石	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形					

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 300型 ・ 400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品

2 石材等

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 300型 ・ 400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品

3 外壁湿式工法

受金物 材質 ※SUS304
形状及び寸法

・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm

石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
下地ごしらえ ※流し工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法

ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1.1による
シーリング材の目地寸法 ※図示

4 内壁空積工法

受金物 材質 ※SUS304
形状及び寸法

・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm

石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する
伸縮調整目地 位置 ※6φごと
シーリング材の目地寸法 ※図示

5 乾式工法

取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
だば用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(2) (7)による
外壁の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない

アンカーの材質及び径 ※ステンレス(SUS 304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※8以上
シーリング材 ・適用する (※標準仕様書9.7)による
伸縮調整目地 位置 ※図示

6 床及び階段の石張り

床石張りの表面処理 ・適用する
階段張りの表面処理 ・適用する
目地 一般目地 目地幅(mm) ※図示
伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6㎡程度ごと及び他部材との取合い部

・適用しない
・適用しない
・図示
・適用しない
・図示

7 アーチの石張り

取付け法 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
外壁湿式工法又は内壁空積工法の取付け金物 ・標準仕様書10.2.2(1)による
乾式工法の取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS 304)径6mm長さ80mm (加工物)
吊りボルト ※ステンレス(SUS 304)M10化粧ナット付き
・設けない
石裏面処理 ・適用する
裏打ち処理 ・適用する
アンカーの材質及び径 ※ステンレス(SUS 304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部

8 笠木、甲板等の石張り

取付け法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法
外壁湿式工法の取付け金物 ・標準仕様書10.2.2(1)による
乾式工法の取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
石裏面処理 ・適用する
乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(2)による
石裏の補強用モルタル ・適用する
アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS 304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質: 寸法:)

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ※標準仕様書表11.1.1による
2 セメントモルタルによるタイル張り
(11.2.2) (11.2.3) (11.2.7)

3 有機系接着剤によるタイル張り
(11.3.2～4) (11.3.7)

12 木工事

表面仕上げの種別

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	
・H-A種	
・H-B種	
・H-C種	

2 製材

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※2級		※A種 ・B種	
			※2級		※A種 ・B種	

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※上小節		※A種 ・B種	
			※小節以上		※A種 ・B種	

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	防湿層	仕上塗料	高日射反射率防水の適用[G]
・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS1-T1		・ 25mm	・ 設ける (改質アスファルト製造所の仕様による) ・ 設けない	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
・AS1-J1					・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
断熱材の種類
押入金物
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
・改質アルファルトシートの製造所の指定の種類及び設置数量
・種類 () 設置数量 (個)

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材[G]	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
・S-F1				・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
○S-F2 ・S-M1	屋上・水槽上部				・
・S-M2 ・S-M3 ・S1-F1			(厚さ) ・ 25mm	・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・
・S1-F2 ・S1-M1					・
・S1-M2		※発泡ポリイソレンシート		・ 製造所の指定による ・ 製造所の仕様による	・

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	保護層	
		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・ 塗り厚さ 工法	・ 床塗り ※7mm以下 ・ 下地モルタル塗り

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
立上り面のシートの厚さ (S-M2及びS1-M2で接着工法の場合)
※1.5mm
固定金具の材質及び形状
材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
厚さ(mm) ※0.4以上
断熱材の種類
断熱工法の場合の防湿用フィルム
・設置する
・設置しない
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
・ルーフィングシートの製造所の仕様による
・種類 () 設置数量 (個)
防水下地・P-Cコンクリート部材下地の場合の処理
目地処理 ※図示
入隅部の増張り (S-F1,S1-F1の場合)
※図示
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

5 ケイ酸質系塗布膜防水

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-U1		・C-UP	

防水層の下地 (壁及び天井) ・コンクリート打放 (B種)
下地処理 (コンクリートの打継処理) ・標準仕様書9.6.4(2) (7)
(9.7.2) (表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.11による
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)による
接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

10 石工事

1 施工

防水層の種類

種別	施工箇所	天然石	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形					

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・ 300型 ・ 400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品

2 石材等

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・ 1等品 ・ 2等品		・ 正方形に近い矩形				

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・						

12 木工工事	4 造作用単板積層材G ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ ・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 施工箇所 厚さ (mm) 表面の化粧加工 防虫処理の適用 ・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・適用する ・無し (等級: ・1等 ・2等 ・3等) ・適用しない 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 施工箇所 厚さ (mm) 表面の化粧加工 含水率 防虫処理の適用 ・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ※14%以下 ・適用する ・無し (等級: ・1等 ・2等 ・3等) ※14%以下 ・適用しない 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・C L T (直交集成板)G 施工箇所 品名 曲げ性能 (強度等級) 種別 接着性能 (使用環境) 樹種 寸法 (mm) 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)	7 防腐・防蟻処理 ・防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材 適用部位: () ・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 適用部位 ・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 適用部位: () ・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理 適用部位: () 8 間仕切軸組に用いる木材 ・杉又は松 9 床組に用いる木材 ・土間スラブの土台、転ばし大引き及び転ばし根太は除く ・杉又は松 10 窓、出入口、その他に用いる木材 ・ひのき ・松又は杉 11 絶甲板及び上がまちに用いる木材 ・ひのき 12 壁及び天井に用いる木材 ・杉又は松	13 屋根及びびとい工事 1 長尺金属板葺 施工箇所 板及び寸法の種類 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 厚さ (mm) 屋根葺き形式 備考 ※JIS G 3322 の屋根用346 下葺き材料 ・アスファルトルーフィング940 ・改質アスファルトルーフィング下葺き (・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 雪止め ・設置する 図示 () 2 折板葺 施工箇所 形式 山高、山びげによる区分 耐力による区分 材料による区分 厚さ (mm) 軒生面戸板 ・重ね形 ・はざ締め形 ・かん合形 材料 板及びコイルの種類 () 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 () タイトフレームに JIS G 3302 以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理 (標準仕様書表14.2.2による ・F種 ・F種) 断熱材 ・有り (種別: 厚さ (mm): 防火性能: 時間) ・無し 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 折板のけらば納め ※けらば包みによる方法 ・ 3 粘土瓦葺 施工箇所 種類 製造による区分 形状による区分 寸法による区分 大きさ 産地 役物瓦の種類 雪止め瓦 ・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない 凍害試験 ・行う ・行わない 瓦杭木 材質 ※杉 寸法 ※幅21×高さ15 (mm) 以上 棟補強用心材 材質 ※杉 寸法 ※幅40×高さ30 (mm) 以上 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 瓦杭木の留付け工法 ※図示 棟の工法 ・7寸丸伏せ棟又はF型用冠瓦伏せ棟 ・のし積み棟 ④とい といの材種 ・配管用銅管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ・とい受金物 ・とい受金物の材質、形状、取付け間隔 ※表13.5.2iによる ・足金物の材質、形状、取付け間隔 ※表13.5.2iによる ・多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔 ※0.5m以下 ・ロックウール保温管のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 銅管製といの防露巻き ・適用する (工法: ※標準仕様書 表13.5.4iによる) ・適用しない	14 金属工事 1 ステンレスの表面仕上げ ② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 ③ 鉄鋼の亜鉛めっき 4 軽量鉄骨天井下地 5 軽量鉄骨壁下地 6 金属成形板張り ⑦ アルミニウム製笠木 8 手すり及びタラップ 種類 ○250形 ・300形 ・350形 表面処理 種別 (BB-1) 種 色合等 ○標準色 (・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー) ・特注色 笠木の固定金具の工法等 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 手すりの種別 ・ステンレス製 SUS 304 (表面処理 ・HL程度) ・鋼製 (表面処理 ・溶融亜鉛めっきC種) タラップの種別 ・ステンレス製 SUS 304 (表面処理 ※研磨なし) ・鋼製 (表面処理 ※溶融亜鉛めっきC種)	15 左官工事 1 ラス系下地 2 せっこうボード、その他のボード下地 3 こまい下地 4 木ずり下地 ⑤ モルタル塗り モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料 () 既製目地材 ・設ける 施工箇所 () 形状 (※図示) ・設けない 床の目地 (目地割 ※2m 程度 (最大目地間隔3m程度)) ・設けない (種類 ※押し目地) 外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ・適用する ・適用しない 6 セルフレベリング材塗り ・せっこう系 ・セメント系 ⑦ 仕上塗材仕上げ 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 仕上塗材の種類 種類 呼び名 防火材料 仕上りの形状及び工法等 ・薄付け仕上塗材 ・外装薄塗材S1 ・砂壁状 ・可とう形外装薄塗材S ・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り) ・外装薄塗材E ・さざ波状 ・可とう形外装薄塗材E ・平たん状 ・防水形外装薄塗材E ・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り) ・外装薄塗材S ・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り) ・内装薄塗材C ・砂壁状じゅらく ・内装薄塗材L ・京壁状じゅらく ・内装薄塗材S1 ・ ・内装薄塗材E 吸放湿性 ・適用する ・適用しない ・内装薄塗材W 耐湿性 ・適用する ・適用しない ・厚付け仕上塗材 ・外装厚塗材C ・吹出し ・凸部処理 ・平たん状 ・外装厚塗材S1 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし ・外装厚塗材E 吸放湿性 ・適用する ・適用しない ・内装厚塗材C 上塗材 ・適用する ・適用しない ・内装厚塗材L ・ ・内装厚塗材G ・ ・内装厚塗材S1 ・ ・内装厚塗材E ・ ○複層仕上塗材 ・複層塗材CE ・ゆず肌状 ○凸部処理 ・凹凸状 ・可とう形複層塗材CE ・ ・複層塗材S1 上塗材 ・複層塗材E 耐候性 ※耐候形3種 ・複層塗材RE 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ○複層塗材CE 樹脂 ※アクリル系 ・防水形複層塗材E 外観 ※つやあり ・つやなし ・メリカ ・防水形複層塗材RE ・ ・軽量骨材仕上塗材 ・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材 ・ 8 A L Cパネルの場合の下地処理 9 マスチック塗材塗り 種別 ・A種 ・B種 10 せっこうプラスター塗り 材料 下塗り及び中塗りに用いるせっこうプラスター ・既調合プラスター ・現場調合プラスター 上塗り ・既調合プラスター (上塗り用) ・しゅくい塗り	工 事 件 名 (そー2) 北部第2ポンプ場更新工事 工 事 場 所 甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場) 図 面 名 建築工事特記仕様書5 縮 尺 ー 分 割 A- 5/27 甲府市上下水道局 管理番号 R 6ーそー2 マイクロNo.
------------	---	---	---	---	---	---

15 左官工事 〈続き〉	11しっくい塗り	(15.10.1)	下地 ※木ずり、こまい土壁塗り、せっこうラスボード又はせっこうボード ・ 材料 ・現場調査材料 ・既調査材料（しっくいの塗材の種類等：） 調査及び塗厚 木づり下地 ※標準仕様書表15.10.1による こまい土壁下地 ※標準仕様書表15.10.2による	(15.10.2) (15.10.3)												
	12こまい壁塗り	(15.11.7)	工法 ・土物仕上げ（・水こね土物1工法 ・水こね土物2工法 ・のりさし土物工法 ・のりこね土物工法） ・砂壁仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法 ・大津仕上げ（・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき工法） 材料 土壁用ののりの種類 ※つものた 砂壁用ののりの種類 ※ふのり 色土の種類 ・土物仕上げ（ ） ・大津仕上げ（ ） 調査 下塗りの調査 ※標準仕様書表15.11.2による 塗厚 ※標準仕様書表15.11.8による ・図示（建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合） 工程 こまい壁 ※A種 ・B種	(15.11.8) (15.11.2) (15.11.3) (15.11.4) (15.11.5) (表15.11.9)												
	13ロックウール吹付け	(15.12.2) (15.12.3)	ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による） 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による） 吹付け厚さ（mm） ・図示 ・25													
	①防火戸	(16.1.3)	※建具表による													
	2 見本の製作等	(16.1.4)	建具見本の製作 ・行う（建具符号： ） ・行わない 建具見本の程度 ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・納まり等が分かる程度のもの 特殊な建具の仮組 ・行う（建具符号： ） ・行わない													
	3 防犯建物部品	(16.1.6)	・適用する（※適用箇所は建具表による） ・適用しない													
	④アルミニウム製建具	(16.2.2) (16.2.4) (16.2.5)	性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による） 耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 （※建具表による ・図示） 外部に面する建具の種類 ・A種 ○B種 ・C種 ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ・耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ） 表面処理 外部に面する建具 種類 ・BB-1種 ○BB-2種 着色 ○標準色 ・特注色 屋内の建具 種類 ・BC-1種 ・BC-2種 着色 ・標準色 ・特注色 結露水の処理方法 ※図示 水切り板、ぜん板 ※図示	(表16.2.1) (表14.2.1) (表14.2.1)												
	⑤網戸等	(16.2.3)	<table><tr><th>種 類</th><th>材 種</th><th>線 径</th><th>網 目</th></tr><tr><td>○防虫網</td><td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS 316）製</td><td>※0.25mm以上</td><td>※16～18メッシュ</td></tr><tr><td>・防鳥網</td><td>ステンレス（SUS 304）線材</td><td>1.5mm</td><td>網目寸法15mm</td></tr></table>	種 類	材 種	線 径	網 目	○防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS 316）製	※0.25mm以上	※16～18メッシュ	・防鳥網	ステンレス（SUS 304）線材	1.5mm	網目寸法15mm	
	種 類	材 種	線 径	網 目												
	○防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS 316）製	※0.25mm以上	※16～18メッシュ												
・防鳥網	ステンレス（SUS 304）線材	1.5mm	網目寸法15mm													
6 樹脂製建具	(16.2.5) (16.3.2～5) (表16.3.1) (表16.3.2)	性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による） ・建具の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・木下地（・D種 ・E種） ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 ・A-T種 ・T-B種 ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種 表面色 ・標準色 ・特注色 水切り板、ぜん板 ※図示 ガラス ※複層ガラス														
⑦鋼製建具	(16.2.2) (16.4.2～4) (表16.4.2)	性能値等（建具符号は建具表による） 簡易気密型ドアセット ○適用する（建具符号は建具表による） ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ○S-5 ・S-6 ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ・耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ） 大型建具 ※適用しない（表16.4.2による） ○適用する（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による）														
8 鋼製軽量建具	(16.2.2) (16.5.2～4)	性能値等（建具符号は建具表による） 簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号は建具表による） ・適用しない ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ・耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ） 材料 鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 鋼板の厚さ（mm） ※標準仕様書表16.5.1による ・図示 召合せ、縦小口包み板の材質 ・建具表による														

9 ステンレス製建具	10 木製建具	(16.7.2～4)	性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による） 簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号は建具表による） ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ・耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ） 鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1 表面仕上げ ※H L ・鏡面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ	(16.2.2) (16.4.2) (16.6.2～5)												
			建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による） ・フラッシュ戸 表面材の合板の種類 <table><tr><th>合板の種類</th><th>樹種・規格等</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・普通合板[G]</td><td>表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※77合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）</td><td></td></tr><tr><td>・天然木化粧合板[G]</td><td>樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）</td><td></td></tr><tr><td>・特殊加工化粧合板[G]</td><td>化粧加工の方法 （・オパール・イ ・ブリッド・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）</td><td></td></tr></table> 表面板の厚さ ※表16.7.6による ・かまち戸 かまち樹種（ ） 鍍板樹種（ ） 見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・ふすま 工法 ・Ⅰ型 ・Ⅱ型 上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリアー塗装） 見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・戸ふすま 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による		合板の種類	樹種・規格等	備 考	・普通合板[G]	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※77合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）		・天然木化粧合板[G]	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）		・特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法 （・オパール・イ ・ブリッド・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）	
			合板の種類		樹種・規格等	備 考										
			・普通合板[G]		表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※77合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）											
			・天然木化粧合板[G]		樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）											
			・特殊加工化粧合板[G]		化粧加工の方法 （・オパール・イ ・ブリッド・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）											
			枠、くつずりの材料 ・建具表による													
			金物の種類・見え掛り部の材質等 ※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による 金属製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.2による 樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.3による 握り金、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ○建具表による 錠前類 ○建具表による クロウザ類 ○建具表による													
			マスターキー ○製作する ・製作しない その他の鍵 ※各室3本1組 ・ 鍵筒 ※有り ・無し													
			自動ドア開閉装置の性能値 自動ドアの種類 性能 引き戸用検出装置の種類 凍結防止 防錆 ・SSLD-1 ※耐電圧、温度上昇、 ・光線（反射）センサー ・行う ・SSLD-2 耐久性（サイクル）は ・熱線センサー （適用箇所は 防錆 ・DSLD-1 標準仕様書表16.9.1による ・音波センサー 建具表による） ・DSLD-2 による ・光電センサー ・適用しない ・電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ													
多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置（表16.9.2） 開閉方法 ※片開き 耐電圧、温度上昇、耐久性（サイクル）、防錆、電源 ※標準仕様書表16.9.2による ・耐電圧（ ） 温度上昇（ ） ・耐久性（ ） 防錆（ ） 電源（ ）																
引き戸用検出装置（表16.9.3） 放射無線周波数電磁界耐性、耐電圧、防錆、防滴、電源 ※標準仕様書表16.9.3による ・放射無線周波数電磁界耐性（ ） 耐電圧（ ） 防錆（ ） 防滴（ ） 電源（ ）																
戸の開閉方式 ※図示																
14 自閉式上吊り引戸装置	(16.10.3)	性能 ※標準仕様書表16.10.1による														
15 重量シャッター	(16.11.2) (16.11.3)	シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度（ ）N/m ² ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度（ ）N/m ² ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉方式の種類 ※上部電動式（手動併用） ・上部手動式 保護装置の設置箇所 ※建具表による 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量 ※Z12又はF12														

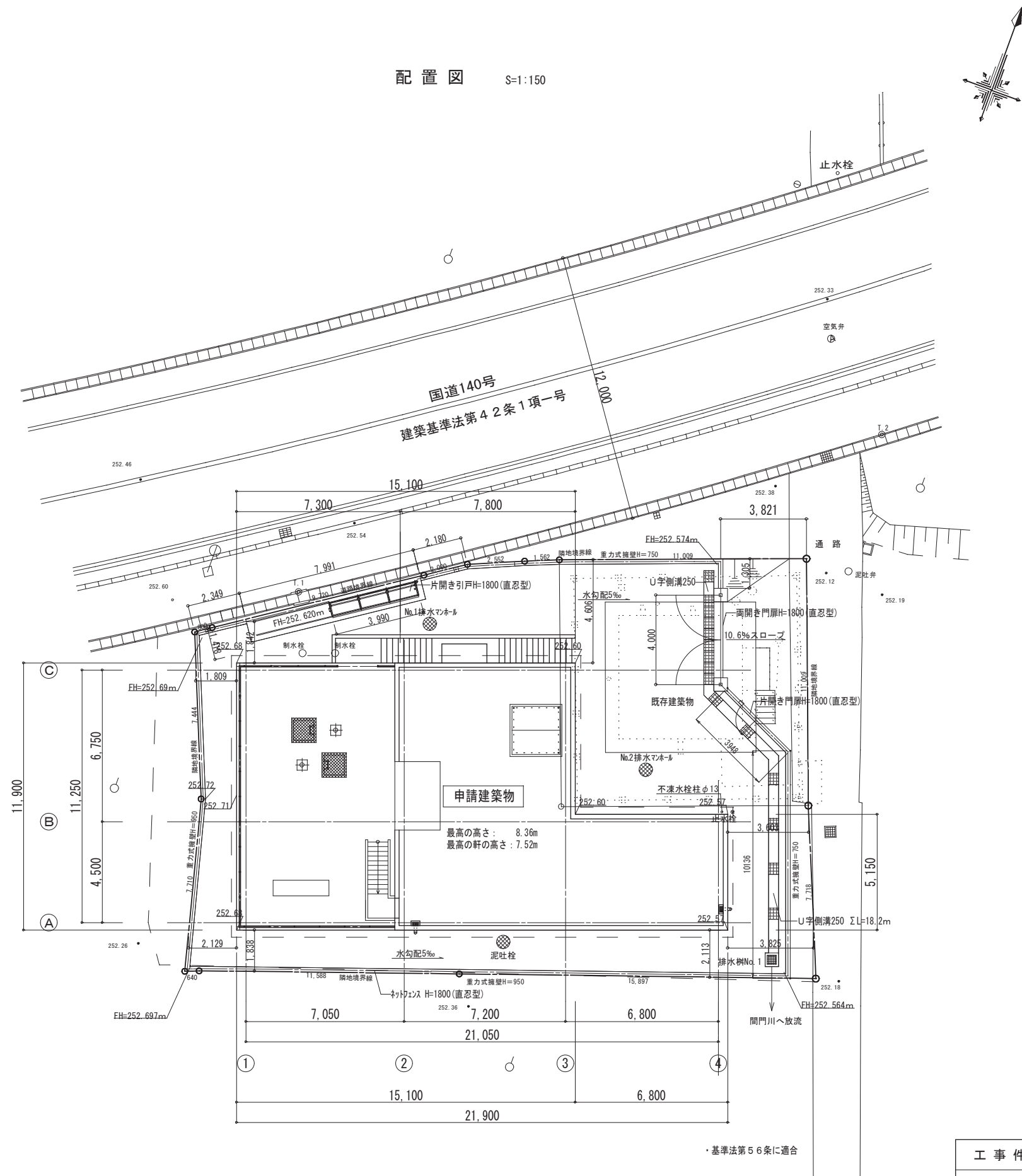
16 軽量シャッター	17 オーバーヘッドドア	(16.12.2～4) (表16.12.1)	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） 耐風圧強度（ ）N/m ² 電動式の場合の保護装置の設置箇所 ※建具表による スラットの材質 ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量 ※Z06又はF06 ・JIS G 3322（塗装溶融55％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量 ※AZ90 スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形	(16.13.2) (16.13.3)																																																							
			<table><tr><th>セクション材料による区分</th><th>耐風圧区分 (Pa)</th><th>開閉方式による区分</th><th>収納形式による区分</th><th>ガイドレールの材質</th></tr><tr><td>※スチールタイプ</td><td>・125</td><td>※バランス式</td><td>・スタンダード形</td><td>※溶融亜鉛めっき鋼板</td></tr><tr><td>・アルミニウムタイプ</td><td>・100</td><td>・チェーン式</td><td>・ローヘッド形</td><td>・ステンレス鋼板</td></tr><tr><td>・ファイバーグラスタイプ</td><td>・75</td><td>・電動式</td><td>・ハイルフト形</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・50</td><td></td><td>・パーチャル形</td><td></td></tr></table> 電動式の場合の保護装置の設置箇所 ※建具表による		セクション材料による区分	耐風圧区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質	※スチールタイプ	・125	※バランス式	・スタンダード形	※溶融亜鉛めっき鋼板	・アルミニウムタイプ	・100	・チェーン式	・ローヘッド形	・ステンレス鋼板	・ファイバーグラスタイプ	・75	・電動式	・ハイルフト形			・50		・パーチャル形																															
			セクション材料による区分		耐風圧区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質																																																			
			※スチールタイプ		・125	※バランス式	・スタンダード形	※溶融亜鉛めっき鋼板																																																			
			・アルミニウムタイプ		・100	・チェーン式	・ローヘッド形	・ステンレス鋼板																																																			
			・ファイバーグラスタイプ		・75	・電動式	・ハイルフト形																																																				
					・50		・パーチャル形																																																				
			適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による。 (9.7) (16.14.2～4) (表16.14.1) ・合わせガラス <table><tr><th>品 種</th><th>構成種類</th><th>特性による種別</th></tr><tr><td>※フロート合わせガラス</td><td>※フロート板合わせガラス</td><td>・Ⅰ類</td></tr><tr><td>・網入磨き合わせガラス</td><td>・熱線吸収、フロート板合わせガラス</td><td>・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-2類</td></tr><tr><td></td><td>・網入磨き、フロート板合わせガラス</td><td>・Ⅲ類</td></tr><tr><td></td><td>・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス</td><td></td></tr></table> ・強化ガラス 材料板ガラスの種類による名称 種類 特性による種別 ※フロート強化ガラス ※フロート強化ガラス ・Ⅰ類 ・Ⅲ類 ・型板強化ガラス ※型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス <table><tr><th>品 種</th><th>性能による種別</th><th>色 調</th></tr><tr><td>※熱線吸収フロート板ガラス</td><td>1種 ・2種</td><td>・</td></tr><tr><td>・熱線吸収網入磨き板ガラス</td><td></td><td>・</td></tr></table> ・複層ガラス <table><tr><th>断熱性</th><th>日射取得性、日射遮蔽性</th><th>乾燥気体の種類</th></tr><tr><td>・T1 ・T2 ・T3</td><td>・G ・</td><td>・空気</td></tr><tr><td>・T4 ・T5 ・T6</td><td>・S ・</td><td>・アルゴン</td></tr></table> ・熱線反射ガラス <table><tr><th>品 種（色調）</th><th>日射熱遮へい性</th><th>耐久性</th><th>材料板ガラスの種類</th></tr><tr><td>※熱線反射ガラス（ ）</td><td>・1種</td><td>A種</td><td>・フロート板ガラス</td></tr><tr><td>・高性能熱線反射ガラス（ ）</td><td>・2種</td><td>・A種 ・B種</td><td>・網入磨き板ガラス</td></tr><tr><td></td><td>・3種</td><td>B種</td><td>・線入磨き板ガラス</td></tr></table> 反射皮膜面 ※内面 ・外面 映像調整 ・行わない ・行う ・倍強度ガラス <table><tr><th>種 類</th><th>色 調</th></tr><tr><td>※フロート倍強度ガラス</td><td></td></tr><tr><td>・熱線吸収倍強度ガラス</td><td></td></tr></table>		品 種	構成種類	特性による種別	※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス	・Ⅰ類	・網入磨き合わせガラス	・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-2類		・網入磨き、フロート板合わせガラス	・Ⅲ類		・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス		品 種	性能による種別	色 調	※熱線吸収フロート板ガラス	1種 ・2種	・	・熱線吸収網入磨き板ガラス		・	断熱性	日射取得性、日射遮蔽性	乾燥気体の種類	・T1 ・T2 ・T3	・G ・	・空気	・T4 ・T5 ・T6	・S ・	・アルゴン	品 種（色調）	日射熱遮へい性	耐久性	材料板ガラスの種類	※熱線反射ガラス（ ）	・1種	A種	・フロート板ガラス	・高性能熱線反射ガラス（ ）	・2種	・A種 ・B種	・網入磨き板ガラス		・3種	B種	・線入磨き板ガラス	種 類	色 調	※フロート倍強度ガラス		・熱線吸収倍強度ガラス	
			品 種		構成種類	特性による種別																																																					
			※フロート合わせガラス		※フロート板合わせガラス	・Ⅰ類																																																					
・網入磨き合わせガラス	・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-2類																																																									
	・網入磨き、フロート板合わせガラス	・Ⅲ類																																																									
	・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス																																																										
品 種	性能による種別	色 調																																																									
※熱線吸収フロート板ガラス	1種 ・2種	・																																																									
・熱線吸収網入磨き板ガラス		・																																																									
断熱性	日射取得性、日射遮蔽性	乾燥気体の種類																																																									
・T1 ・T2 ・T3	・G ・	・空気																																																									
・T4 ・T5 ・T6	・S ・	・アルゴン																																																									
品 種（色調）	日射熱遮へい性	耐久性	材料板ガラスの種類																																																								
※熱線反射ガラス（ ）	・1種	A種	・フロート板ガラス																																																								
・高性能熱線反射ガラス（ ）	・2種	・A種 ・B種	・網入磨き板ガラス																																																								
	・3種	B種	・線入磨き板ガラス																																																								
種 類	色 調																																																										
※フロート倍強度ガラス																																																											
・熱線吸収倍強度ガラス																																																											
ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ（mm） アルミニウム製 ○シーリング材 ・ガスケット ※建具の製造所の仕様による ・グレイジングチャンネル形 鋼製及び鋼製軽量 ○シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ステンレス製 ・シーリング材 ※建具の製造所の仕様による																																																											
<table><tr><th>表面形状</th><th>呼び寸法</th><th>厚 さ</th><th>色 調</th><th>目地幅 (mm)</th><th>伸縮調整</th><th>防火性能</th></tr><tr><td rowspan="5">・正方形</td><td rowspan="5">○200×200</td><td>・125×125</td><td>80</td><td>・ ・ ・</td><td>※8～15 外側</td><td rowspan="5">※6m以下 ごとに 10～25 ・図示 ・</td><td rowspan="5">※無し ・有り</td></tr><tr><td>・160×160</td><td>95</td><td>・ ・ ・</td><td>・15～25</td></tr><tr><td>・125</td><td>・ ・ ・</td><td>・</td><td>※6以上</td></tr><tr><td>・320×320</td><td>95</td><td>・ ・ ・</td><td>・</td></tr><tr><td>・250×125</td><td>80</td><td>・ ・ ・</td><td>・</td></tr><tr><td>・長方形</td><td></td><td>・320×160</td><td>95</td><td>・ ・ ・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。 壁用金属枠及び補強材 ○設ける（形状 ※図示 ・ ） ・設けない 力骨 材質 ※ステンレス鋼（SUS 304） 寸法 ※径5.5mm 形状 ※はしご形状複筋及び単筋 化粧目地モルタルの色（ ） 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・Ⅰ ・Ⅰ.15 ・Ⅰ.3 ）倍の風圧力に対応した工法） ・適用しない 目地部の横力骨の納り ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示	表面形状	呼び寸法	厚 さ	色 調	目地幅 (mm)	伸縮調整	防火性能	・正方形	○200×200	・125×125	80	・ ・ ・	※8～15 外側	※6m以下 ごとに 10～25 ・図示 ・	※無し ・有り	・160×160	95	・ ・ ・	・15～25	・125	・ ・ ・	・	※6以上	・320×320	95	・ ・ ・	・	・250×125	80	・ ・ ・	・	・長方形		・320×160	95	・ ・ ・																							
表面形状	呼び寸法	厚 さ	色 調	目地幅 (mm)	伸縮調整	防火性能																																																					
・正方形	○200×200	・125×125	80	・ ・ ・	※8～15 外側	※6m以下 ごとに 10～25 ・図示 ・	※無し ・有り																																																				
		・160×160	95	・ ・ ・	・15～25																																																						
		・125	・ ・ ・	・	※6以上																																																						
		・320×320	95	・ ・ ・	・																																																						
		・250×125	80	・ ・ ・	・																																																						
・長方形		・320×160	95	・ ・ ・																																																							
⑬ ガラス	(16.14.5)																																																										

17 カーテンウォール工事	1 取付方法、性能等	(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)	取付方法 ・層間方式 ・柱、梁方式 ・方立方式 ・スパンドレル方式 性能 <table><tr><th>耐震性能</th><th>水密性</th><th>気密性</th><th>遮音性</th><th>断熱性</th><th>耐火性能</th><th>耐温度差性</th></tr><tr><td>水平方向 (kH) 垂直方向 (kV)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・1.0</td><td>・0.5</td><td></td><td></td><td></td><td>・30分</td><td>・80</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・1時間</td><td>・70</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・60</td></tr></table> 耐風圧性能 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・Ⅰ ・Ⅰ.15 ・Ⅰ.3 ）倍の風圧力に対応した工法） ・適用しない 主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く） <table><tr><th>支点間距離 (h)</th><th>耐風圧性能</th></tr><tr><td>4m以下</td><td>・たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量20mm以下であること</td></tr><tr><td>4mを超える</td><td>・</td></tr></table> 層間変位追随性 <table><tr><th>建築物の構造種別</th><th>層間変位量 (h=支点間距離)</th><th>変位後の状態</th></tr><tr><td>鉄骨造</td><td>・ ±(1/200)×h以上</td><td rowspan="4"></td></tr><tr><td>鉄筋コンクリート造</td><td>・ ±(1/300)×h以上</td></tr><tr><td>鉄骨鉄筋コンクリート造</td><td>・</td></tr></table> シーリング材 下表以外は標準仕様書表9.7.1による <table><tr><th>被着体の組合せ</th><th colspan="2">シーリング材の種類</th></tr><tr><td></td><td>記号</td><td>主成分による区分</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ガラスの取付け 構造ガスケット ・適用する（施工箇所 ・図示 ・ ） 材質 ・クロロブレン系 ・EPM系 ・シリコン系 形状 ・H型 ・Y型 ・C型 寸法 (mm) ガラス板厚（ ）、支持棒の厚さ（ ）、ウェブの寸法（ ） ・適用しない 断熱材[G] 種類（ ） 厚さ (mm)（ ） 施工箇所 ・図示 耐火材料 <table><tr><th>施工部位</th><th>種 別</th><th>規格等</th></tr><tr><td>・ファスナー部</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・取付けブラケット</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・パネル目地部</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・層間ふさぎ</td><td></td><td></td></tr></table> 性能の確認方法及び判定方法 ・行う ・行わない（資料による承諾） 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による 金属材料の種類 ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材 （アルミニウム材の場合） 規格等 標準仕様書表16.2.3による 種別 ・ （標準仕様書表14.2.1） 着色 ・標準色 ・特注色 映像調整 ・行う ・行わない 形状及び仕上げ 製品の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.1による 見え掛り部の仕上げ ガラス溝の寸法、形状等 ※カーテンウォールの製造所の仕様 取付け 躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差 鉛直方向 ※±10mm 垂直方向 ※±25mm カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差 目地の幅 ※±3mm 目地の芯の通り ※±2mm 目地両側の段差 ※±2mm 各階の基準壁から各部材までの距離 ※±3mm	耐震性能	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性	水平方向 (kH) 垂直方向 (kV)							・1.0	・0.5				・30分	・80	・	・				・1時間	・70							・60	支点間距離 (h)	耐風圧性能	4m以下	・たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量20mm以下であること	4mを超える	・	建築物の構造種別	層間変位量 (h=支点間距離)	変位後の状態	鉄骨造	・ ±(1/200)×h以上		鉄筋コンクリート造	・ ±(1/300)×h以上	鉄骨鉄筋コンクリート造	・	被着体の組合せ	シーリング材の種類			記号	主成分による区分							施工部位	種 別	規格等	・ファスナー部			・取付けブラケット			・パネル目地部			・層間ふさぎ		
			耐震性能	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性																																																																								
			水平方向 (kH) 垂直方向 (kV)																																																																														
			・1.0	・0.5				・30分	・80																																																																								
・	・				・1時間	・70																																																																											
						・60																																																																											
支点間距離 (h)	耐風圧性能																																																																																
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量20mm以下であること																																																																																
4mを超える	・																																																																																
建築物の構造種別	層間変位量 (h=支点間距離)	変位後の状態																																																																															
鉄骨造	・ ±(1/200)×h以上																																																																																
鉄筋コンクリート造	・ ±(1/300)×h以上																																																																																
鉄骨鉄筋コンクリート造	・																																																																																
被着体の組合せ	シーリング材の種類																																																																																
	記号	主成分による区分																																																																															
施工部位	種 別	規格等																																																																															
・ファスナー部																																																																																	
・取付けブラケット																																																																																	
・パネル目地部																																																																																	
・層間ふさぎ																																																																																	
2 メタルカーテンウォール	(17.2.2) (17.2.3) (17.2.5)																																																																																

工 事 件 名	（そー２）北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第2ポンプ場）					
図 面 名	建築工事特記仕様書 6	縮 尺	—	分 割	A- 6/27	
甲府市上下水道局		管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.		

17 カーテンウォール工事 《続き》	3 PCカーテンウォール図によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2～5) (表17.3.1) (表17.3.2)	適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2～5) (表17.3.1) (表17.3.2)	材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランブ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 1)※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295A 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 綱目寸法 先付けの材料 ・表面仕上材 ・セラミックタイル ・石材 (・花こう岩 ・大理石) ・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール 形状及び仕上げ 製品の見え掛り部の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.3による ・上記以外 辺長 (mm) 対角線長の差 (mm) 版厚 (mm) 開口部内法寸法 (mm) ねじれ、そり (mm) 曲がり (mm) 面の凹凸 (mm) 先付け金物の位置 (mm) カーテンウォールの仕上げ 構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm) 取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.2による	4 特殊機能床 (19.2.2) シート種別 厚さ、寸法、形状 (mm) 性能 種類 ・帯電防止床シート ・帯電防止床タイル ・視覚障害者用床タイル ・耐動荷重性床シート ・防滑性床シート ・防滑性床タイル	5 ビニル幅木 (19.2.2) 材質 ・軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ・70 ・100 厚さ (mm) ※1.5以上	6 ゴム床タイル (19.2.2) 種類 () 色柄 () 厚さ (mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法 (mm) ()	7 カーベツト敷き (19.3.3) (19.3.4) (表19.3.1) (表19.3.2) ・織じゅうたん 種 別 バイル形状 織り方 色柄等 帯電性 備 考 ・A種 ・カッパイル ・ウルトカベツト ・無地 ・適用する ・B種 ・ループバイル ・グリップバイル ・柄物 ・適用しない ・C種 ・カッパイル併用 ・7ねみじかベツト (標準品) 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm 織じゅうたんの接合方法 ※ヒツトボンド工法 ・タフテツドカーベツト バイル形状 バイル長さ (mm) 工法 帯電性 備考 ・カッパイル ・ ※全面接着工法 ・適用する ・ループバイル ・ ・グリッパ一工法 ・適用しない ・レペルループバイル ・ ・カッパイル、ループ併用 ・ 下敷き材 (グリッパ一工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm ・ニードルパンチカーベツト 厚さ (mm) () 帯電性 ・適用する ・適用しない 備考 () ・タイルカーベツト バイル形状 種類 施工箇所 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 備考 ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・ ・カッパイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・ ・カッパイル、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・ タイルカーベツトの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・ 階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・ 見切り、押え金物 ・適用する (材質、形状等 ※図示 ・ ・適用しない	9 畳敷き (19.6.2) (表19.6.1) 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (畳床: ・KT-I ・KT-II ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N) 下地の種類 ・標準仕様書表12.6.1による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロア図) 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。	10 せっこうボード、 その他ボード及び 合板張り (19.7.2) (19.7.3) (表19.7.1) 種 類 JIS記号 厚さ (mm)、規格等 ・硬質木毛セメント板G HW ・15 ・20 ・25 ・ ・中質木毛セメント板G MW ・15 ・20 ・25 ・ ・普通木毛セメント板G NW ・15 ・20 ・25 ・ ・硬質木片セメント板G HF ・12 ・15 ・18 ・21 ・ ・普通木片セメント板G NF ・30 ・ ・けい酸加減板 0.8FK 172 (無石棉) ・6 ・8 1.0FK ・ロックバルヒ化粧吸音板 DR ・フラツトタイプ (・9 (不燃) ・12 (不燃) ・ ・凹凸タイプ (・12 (不燃) ・15 (不燃) ・) ・ロックバルヒ吸音ボ一ド1号 RW-B ・25 ・ ・グラスバルヒ吸音ボ一ド32K GW-B ・25 (ガラス加減包) ・ ・せっこうボ一ド GB-R ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・ ・不燃積層せっこうボ一ド GB-NC 9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバチ模様) ・シジツグ「せっこうボ一ド」 GB-S 12.5 (不燃) ・強化せっこうボ一ド GB-F ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・せっこう加減ボ一ド GB-L 9.5 ・化粧せっこうボ一ド (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (・柱目 ・板目) 専用下地材有り ・化粧せっこうボ一ド (トラバチ模様) GB-D 9.5 (準不燃) 表面の材種 生地、透明塗料塗り (※9の程度 ・ 不透明塗料塗り (※10の程度 ・) 板面の品質 () 厚さ (mm) () 接着の程度 () ・防虫処理 ・天然木化粧合板G 樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ (mm) () ・防虫処理 ・特殊加工化粧合板G 化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 () タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ (mm) () ・防虫処理 ・JIS K 6903 による厚さ (※1.2 ・) ・メラミン樹脂化粧板 ・メラミン樹脂化粧板 ・メラミン樹脂化粧板 MDF ・3 ・7 ・9 ・12 ・ ・ハードボ一ド (素地)G HB ・無研磨板 (・スリッボ一ド ・パネル) ・研磨板 (・スリッボ一ド ・パネル) ・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・ハードボ一ド (化粧)G IB A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 せっこうボード等の下地 ※図示 ・ 遮音シール材 ・適用する (・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド) ・適用しない 合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 合板類の張付け ※B種 ・A種 せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による	11 壁紙張り (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・	20 ユニ ット 及び その 他の 工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2) 施工箇所 構 法 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備 考 ・置敷式 ・支柱調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000N ・5,000N ・帯電防止床タイル ・タイルカーベツト 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(a)による 帯電防止性能 ・U値 (クラス1) ・U値 (クラス2) 漏えい抵抗 ・R≧1×10 ⁶ Ω 表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 (仕上げ:) スロープ及びボーダー ・製造所の仕様による ・図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・20～30パーセント ・図示 配線取り出し開口 ・パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1箇所以上 ・図示 空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・なし ・あり (形式、施工箇所: 図示)	2 可動間仕切 (20.2.3) 構造形式 構成基材の種類 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性能 (dB/500Hz) 防火性能 スタツド パネル 材質 パネル表面 仕上げ ・スタッツ式 (内蔵) ・鋼板 ・0.6 ・メラミン樹脂 ・0 ・スタッツ式 (露出) 焼付又はアクリル樹脂焼付 ・12 ・スタッツ式パネル式 ・壁紙張り ・20 ・パネル式 ・36 パネル内に取付ける建具 ・あり (※図示 ・) ・なし 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	3 移動間仕切 (20.2.4) 走行方向 操作方法 圧縮装置の 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性 操作方 法 操作方 法 材質 パネル表面 仕上げ (dB/500Hz) ・平行方向 ・手動式 ・プッシュ式 ・鋼板 ・焼付塗装 ・36未満 ・移動式 ・電動式 ・ハンドル式 ・ ・壁紙張り ・36以上 ・二方向 ・部分電動式 移動式 パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による 遮音性は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ハンガーレール ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ランナー ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・	4 トイレブース (20.2.5) 表面材の材質 脚 部 形 状 ドアエッジ 材 質 ・メラミン樹脂系化粧板 ※幅木タイプ ・アルミニウム製 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・ステンレス製 ・ 表面材と同材 ・ 製造所の仕様 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	5 視覚障害者用床タイル (11.2.2) (19.2.2) 施工箇所 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ・塩化ビニル製 ・300×300 ・7.0 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ブロックパターンは JIS T 9251 による
	18 塗装工事	① 材料 (18.1.3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする ・次の箇所を除き防火材料とする (箇所) ② 素地ごしらえ (18.2.2～7) (表18.2.1～7) 下地面等 種 別 木部 不透明塗料塗りの場合 ※A種 ・B種 透明塗りの場合 ※B種 ・A種 鉄鋼面 ※C種 ・A種 ・B種 垂れめっき鋼面 ・A種 ・B種 モルタル面及びプラスター面 ※B種 ・A種 コンクリート面 (DP以外) 及び A L C パネル面 ※B種 ・A種 コンクリート面 (DP) 及び押出成形セメント板面 ・A種 ・B種 せっこうボード面及び目地: 継目処理工法 ※A種 ・B種 その他ボード面 目地: 継目処理工法以外 ※B種 ・A種 ③ 錆止め塗料塗り (18.3.2) (18.3.3) (表18.3.1～4) 下地面等 工程の種類 塗料の種類 鉄鋼面 見え掛り部分 ※A種 ・B種 下記以外の場合 見え隠れ部分 ※B種 ・A種 ※A種 ・B種 EP-Gの場合 ・A種 ・B種 垂れめっき鋼面 鋼製建具 ※A種 ・B種 ※A種 ・B種 ・C種 鋼製建具以外 ※B種 ・A種 ※B種 ・A種 ・C種 EP-Gの場合 ※C種 ・A種 ・B種 ④ 塗装 (18.4.1～13.2) (表18.4.1～13.1) 塗 装 種 別 塗料の種類 ○合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 木部屋外 ※A種 ・B種 ※1種 ・2種 木部屋内 ※B種 ・A種 ※1種 ・2種 鉄鋼面 ※B種 ・A種 ※1種 ・2種 垂れめっき鋼面 — ※1種 ・2種 ・クリヤラッカー塗り (CL) ※B種 ・A種 — ・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD) ※B種 ・A種 — ○耐水性塗料塗り (DP) 鉄鋼面 — 上塗り等級 () 級 垂れめっき鋼面 — 上塗り等級 () 級 コンクリート面及び押出成形セメント板面 ・A種 ・B種 ・C種 — コンクリート面等 ※B種 ・A種 — ○つや有合成樹脂エマulsionペイント塗り (EP-G) 屋内の鉄鋼面 ※B種 ・A種 — ・合成樹脂エマulsionペイント塗り (EP) ※B種 ・A種 — ・合成樹脂エマulsion模様塗料塗り (EP-T) ※B種 ・A種 — ・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) ※B種 ・A種 — ・オイルステイン塗り (OS) — ・ ・木材保護塗料塗り (WP) 屋外 ※B種 ・A種 — 高日射反射率塗料 (G) の適用 ※適用する ・適用しない 適用箇所 ※屋上、屋上面の金属面 ・	19 内装工事	1 接着剤 (19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合 ・図示 2 ビニル床シート (19.2.2) (19.2.3) 種類の記号 色柄 厚さ (mm) 備考 ※FS (複層ビニル床シート) ・無地 ※2.0 ・ マーブル柄 ・ 柄物 目地処理する場合の工法 ・熱溶接工法 ・ 3 ビニル床タイル (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※KT (コンポジションビニル床タイル) ・無地 ・300×300 ※2.0 ・ TT (単層ビニル床タイル) ・柄物 ・450×450 ・2.5 ・ FT (複層ビニル床タイル) ・500×500 ・3.0 ・ FOA (置敷きビニル床タイル) ・ FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	4 フローリング張り (19.5.2～6) (表19.5.1～5) 単層フローリング 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ 仕上塗装 間伐材等の適用 ・フローリングボード1等 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・フローリングブロック1等 ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 複合フローリング 種 類 工 法 樹種 種別 防湿処理 仕上塗装 間伐材等の適用 ※天然木化粧 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ・A種 ・適用する ・塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ・B種 ・適用しない ・無塗装品 ・接着工法 ・C種 フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・行う (施工箇所) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り ・行わない	9 断熱材 (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・	20 ユニ ット 及び その 他の 工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2) 施工箇所 構 法 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備 考 ・置敷式 ・支柱調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000N ・5,000N ・帯電防止床タイル ・タイルカーベツト 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(a)による 帯電防止性能 ・U値 (クラス1) ・U値 (クラス2) 漏えい抵抗 ・R≧1×10 ⁶ Ω 表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 (仕上げ:) スロープ及びボーダー ・製造所の仕様による ・図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・20～30パーセント ・図示 配線取り出し開口 ・パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1箇所以上 ・図示 空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・なし ・あり (形式、施工箇所: 図示)	2 可動間仕切 (20.2.3) 構造形式 構成基材の種類 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性能 (dB/500Hz) 防火性能 スタツド パネル 材質 パネル表面 仕上げ ・スタッツ式 (内蔵) ・鋼板 ・0.6 ・メラミン樹脂 ・0 ・スタッツ式 (露出) 焼付又はアクリル樹脂焼付 ・12 ・スタッツ式パネル式 ・壁紙張り ・20 ・パネル式 ・36 パネル内に取付ける建具 ・あり (※図示 ・) ・なし 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	3 移動間仕切 (20.2.4) 走行方向 操作方法 圧縮装置の 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性 操作方 法 操作方 法 材質 パネル表面 仕上げ (dB/500Hz) ・平行方向 ・手動式 ・プッシュ式 ・鋼板 ・焼付塗装 ・36未満 ・移動式 ・電動式 ・ハンドル式 ・ ・壁紙張り ・36以上 ・二方向 ・部分電動式 移動式 パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による 遮音性は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ハンガーレール ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ランナー ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・	4 トイレブース (20.2.5) 表面材の材質 脚 部 形 状 ドアエッジ 材 質 ・メラミン樹脂系化粧板 ※幅木タイプ ・アルミニウム製 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・ステンレス製 ・ 表面材と同材 ・ 製造所の仕様 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	5 視覚障害者用床タイル (11.2.2) (19.2.2) 施工箇所 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ・塩化ビニル製 ・300×300 ・7.0 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ブロックパターンは JIS T 9251 による				
	19 内装工事	1 接着剤 (19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合 ・図示 2 ビニル床シート (19.2.2) (19.2.3) 種類の記号 色柄 厚さ (mm) 備考 ※FS (複層ビニル床シート) ・無地 ※2.0 ・ マーブル柄 ・ 柄物 目地処理する場合の工法 ・熱溶接工法 ・ 3 ビニル床タイル (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※KT (コンポジションビニル床タイル) ・無地 ・300×300 ※2.0 ・ TT (単層ビニル床タイル) ・柄物 ・450×450 ・2.5 ・ FT (複層ビニル床タイル) ・500×500 ・3.0 ・ FOA (置敷きビニル床タイル) ・ FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	4 フローリング張り (19.5.2～6) (表19.5.1～5) 単層フローリング 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ 仕上塗装 間伐材等の適用 ・フローリングボード1等 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・フローリングブロック1等 ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 複合フローリング 種 類 工 法 樹種 種別 防湿処理 仕上塗装 間伐材等の適用 ※天然木化粧 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ・A種 ・適用する ・塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ・B種 ・適用しない ・無塗装品 ・接着工法 ・C種 フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・行う (施工箇所) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り ・行わない	9 断熱材 (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・	20 ユニ ット 及び その 他の 工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2) 施工箇所 構 法 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備 考 ・置敷式 ・支柱調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000N ・5,000N ・帯電防止床タイル ・タイルカーベツト 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(a)による 帯電防止性能 ・U値 (クラス1) ・U値 (クラス2) 漏えい抵抗 ・R≧1×10 ⁶ Ω 表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 (仕上げ:) スロープ及びボーダー ・製造所の仕様による ・図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・20～30パーセント ・図示 配線取り出し開口 ・パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1箇所以上 ・図示 空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・なし ・あり (形式、施工箇所: 図示)	2 可動間仕切 (20.2.3) 構造形式 構成基材の種類 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性能 (dB/500Hz) 防火性能 スタツド パネル 材質 パネル表面 仕上げ ・スタッツ式 (内蔵) ・鋼板 ・0.6 ・メラミン樹脂 ・0 ・スタッツ式 (露出) 焼付又はアクリル樹脂焼付 ・12 ・スタッツ式パネル式 ・壁紙張り ・20 ・パネル式 ・36 パネル内に取付ける建具 ・あり (※図示 ・) ・なし 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	3 移動間仕切 (20.2.4) 走行方向 操作方法 圧縮装置の 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性 操作方 法 操作方 法 材質 パネル表面 仕上げ (dB/500Hz) ・平行方向 ・手動式 ・プッシュ式 ・鋼板 ・焼付塗装 ・36未満 ・移動式 ・電動式 ・ハンドル式 ・ ・壁紙張り ・36以上 ・二方向 ・部分電動式 移動式 パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による 遮音性は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ハンガーレール ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ランナー ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・	4 トイレブース (20.2.5) 表面材の材質 脚 部 形 状 ドアエッジ 材 質 ・メラミン樹脂系化粧板 ※幅木タイプ ・アルミニウム製 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・ステンレス製 ・ 表面材と同材 ・ 製造所の仕様 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	5 視覚障害者用床タイル (11.2.2) (19.2.2) 施工箇所 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ・塩化ビニル製 ・300×300 ・7.0 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ブロックパターンは JIS T 9251 による						
	19 内装工事	1 接着剤 (19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合 ・図示 2 ビニル床シート (19.2.2) (19.2.3) 種類の記号 色柄 厚さ (mm) 備考 ※FS (複層ビニル床シート) ・無地 ※2.0 ・ マーブル柄 ・ 柄物 目地処理する場合の工法 ・熱溶接工法 ・ 3 ビニル床タイル (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※KT (コンポジションビニル床タイル) ・無地 ・300×300 ※2.0 ・ TT (単層ビニル床タイル) ・柄物 ・450×450 ・2.5 ・ FT (複層ビニル床タイル) ・500×500 ・3.0 ・ FOA (置敷きビニル床タイル) ・ FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	4 フローリング張り (19.5.2～6) (表19.5.1～5) 単層フローリング 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ 仕上塗装 間伐材等の適用 ・フローリングボード1等 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・フローリングブロック1等 ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 複合フローリング 種 類 工 法 樹種 種別 防湿処理 仕上塗装 間伐材等の適用 ※天然木化粧 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ・A種 ・適用する ・塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ・B種 ・適用しない ・無塗装品 ・接着工法 ・C種 フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・行う (施工箇所) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り ・行わない	9 断熱材 (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・	20 ユニ ット 及び その 他の 工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2) 施工箇所 構 法 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備 考 ・置敷式 ・支柱調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000N ・5,000N ・帯電防止床タイル ・タイルカーベツト 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(a)による 帯電防止性能 ・U値 (クラス1) ・U値 (クラス2) 漏えい抵抗 ・R≧1×10 ⁶ Ω 表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 (仕上げ:) スロープ及びボーダー ・製造所の仕様による ・図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・20～30パーセント ・図示 配線取り出し開口 ・パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1箇所以上 ・図示 空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・なし ・あり (形式、施工箇所: 図示)	2 可動間仕切 (20.2.3) 構造形式 構成基材の種類 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性能 (dB/500Hz) 防火性能 スタツド パネル 材質 パネル表面 仕上げ ・スタッツ式 (内蔵) ・鋼板 ・0.6 ・メラミン樹脂 ・0 ・スタッツ式 (露出) 焼付又はアクリル樹脂焼付 ・12 ・スタッツ式パネル式 ・壁紙張り ・20 ・パネル式 ・36 パネル内に取付ける建具 ・あり (※図示 ・) ・なし 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	3 移動間仕切 (20.2.4) 走行方向 操作方法 圧縮装置の 総厚さ (mm) 表面仕上材 遮音性 操作方 法 操作方 法 材質 パネル表面 仕上げ (dB/500Hz) ・平行方向 ・手動式 ・プッシュ式 ・鋼板 ・焼付塗装 ・36未満 ・移動式 ・電動式 ・ハンドル式 ・ ・壁紙張り ・36以上 ・二方向 ・部分電動式 移動式 パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による 遮音性は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ハンガーレール ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・図示 ランナー ・標準仕様書20.2.4(3)(a)による ・	4 トイレブース (20.2.5) 表面材の材質 脚 部 形 状 ドアエッジ 材 質 ・メラミン樹脂系化粧板 ※幅木タイプ ・アルミニウム製 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・ステンレス製 ・ 表面材と同材 ・ 製造所の仕様 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・	5 視覚障害者用床タイル (11.2.2) (19.2.2) 施工箇所 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ・塩化ビニル製 ・300×300 ・7.0 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ・磁器質タイル (Ⅰ類) ・300×300 ・ ・せっ器質タイル (Ⅱ類) ・ ・レジンコンクリート製 ・300×300 ・ ・コンクリート製 ブロックパターンは JIS T 9251 による						
	19 内装工事	1 接着剤 (19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合 ・図示 2 ビニル床シート (19.2.2) (19.2.3) 種類の記号 色柄 厚さ (mm) 備考 ※FS (複層ビニル床シート) ・無地 ※2.0 ・ マーブル柄 ・ 柄物 目地処理する場合の工法 ・熱溶接工法 ・ 3 ビニル床タイル (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※KT (コンポジションビニル床タイル) ・無地 ・300×300 ※2.0 ・ TT (単層ビニル床タイル) ・柄物 ・450×450 ・2.5 ・ FT (複層ビニル床タイル) ・500×500 ・3.0 ・ FOA (置敷きビニル床タイル) ・ FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	4 フローリング張り (19.5.2～6) (表19.5.1～5) 単層フローリング 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ 仕上塗装 間伐材等の適用 ・フローリングボード1等 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・ ・フローリングブロック1等 ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.1による ・塗装品 ・無塗装品 複合フローリング 種 類 工 法 樹種 種別 防湿処理 仕上塗装 間伐材等の適用 ※天然木化粧 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ・A種 ・適用する ・塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ・B種 ・適用しない ・無塗装品 ・接着工法 ・C種 フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・行う (施工箇所) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り ・行わない	9 断熱材 (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・	20 ユニ ット 及び その 他の 工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2) 施工箇所 構 法 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備 考 ・置敷式 ・支柱調整式 ・500×500 ・1.0G ・0.6G ・3,000N ・5,000N ・帯電防止床タイル ・タイルカーベツト 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(a)による 帯電防止性能 ・U値 (クラス1) ・U値 (クラス2) 漏えい抵抗 ・R≧1×10 ⁶ Ω 表面仕上材の品質、性能は、標準										

配置図 S=1:150



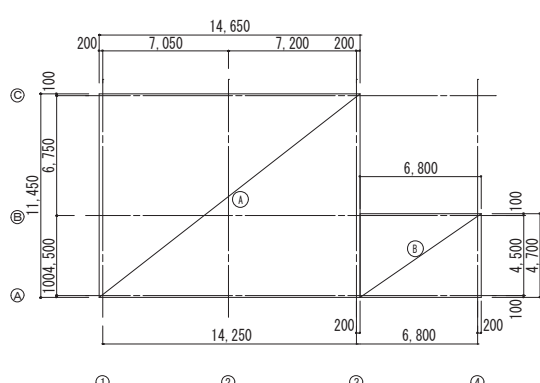
・基準法第56条に適合

A 2 ⇒ A 3 版

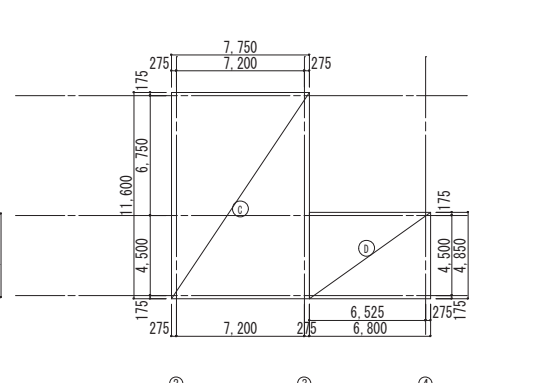
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	建築工事 配置図	縮 尺	1 : 150	分 割	A- 9/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.			

外部仕上表					
屋上・水槽上部	水勾配用モルタル塗りの上、塩ビシート防水(高耐久)接着工法：S-F2 高反射塗料塗り			玄関入口 庇	
外 壁	コンクリート打放し(B)の上、複層塗材(RE) <2-01-12> 地下部：超速硬化型ウレタン防水			天端・鼻先・ケラバ	天端：直均しの上、ウレタン系塗膜防水（X-2）鼻先・ケラバ：打放し（B）の上、ウレタン系塗膜防水（X-2）、
巾木・外壁(水槽部)	コンクリート打放し(B)の上、水性高耐候性フッ素樹脂クリアー塗り・ボーダー部(斜線)H=500：複層塗材(RE)			軒天	コンクリート打放(B)の上、複層塗材(RE)
誘発・打継目地	PU-2 <2-02-9>・PU-2 <2-02-8>	誘発・打継目地 (水槽部分)	PU-2 <2-02-9>・PU-2 <2-02-8>	外階段	
				床・巾木	段部：モルタル金ごて厚30、排水溝(W50)：コンクリート直均しのまま、巾木(H=100)：打放し(B)仕上 ノンスリップ：ノンスリップタイル
パラペット	アルミ製笠木、W=250 <5-03-2>			手摺	壁：コンクリート打放(B)の上、複層塗材(RE)、天端：コンクリート直均しの上、複層塗材(RE)
縦 樋	カラーVP管 100A			マシン搬入口	ステンレス製ハッチ(既製品) 2000×2000
鉄骨階段	溶融亜鉛メッキ製	手摺(水槽上部)	アルミ製 H1100 アンカー方式	窓、出入口等 建具	アルミサッシ・スチールドア・ガラスブロック、防水扉

階	室 名	床	巾 木	高さ	壁			柱型	天 井	梁型	備 考
			仕 上 げ		下地	腰	壁		仕 上 げ		
1 階	受水槽	無筋コンクリート (H=200～0) 直均しの上【C】 ポリウレア防食材塗り【C】			R C		コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】	同 左	コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】		FRP蓋【C】、タラップ【C】 釜場：1000角・H=200
	貯留槽	無筋コンクリート (H=200～0) 直均しの上【C】 ポリウレア防食材塗り【C】			R C		コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】	同 左	コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】	同 左	マンホール(900φ)【C】、タラップ【C】 釜場：1000角・H=300
	送水ポンプ室	無筋コンクリート (H=200) 直均しの上【C】 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)【P】			R C		コンクリート打放し(B)の上、 結露防止塗料塗り	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	ポンプ基礎【C】、鋼製グレーチング(T-2)枠共 排水ピット：1000角・H=800
2 階	搬出入室	コンクリート直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		コンクリート打放し(B)仕上	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	マシンハッチ：スチール製(綿鋼板)、防水、T-2 1500×2000 天井吊りフック：1 t
	電気室	無筋コンクリート (H=300) 直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)・帯電防止塗料	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		複合板 (PFt=25+GB-Rt=12.5) 張りの上、EP-G 一部LGS下地の上、複合板 (PFt=25+GB-Rt=12.5) 張、EP-G 2通下部・3通一部：コンクリート打放(B)の上、EP-G	同 左	複合板 (PFt=25+GB-Rt=12.5) 張りの上、 EP-G	同 左	ビット・ビット蓋(綿鋼板)枠共
	発電機室	無筋コンクリート (H=300) 直均しの上、【P】 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)【P】	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り【P】	300	R C		コンクリート打放し(B)の上、 グラスウールGC張り t=50	同 左	コンクリート打放し(B)の上、 グラスウールGC張り t=50	同 左	マンホール(900φ)【C】、鋼製グレーチング(T-2)枠共：排水溝、排水目皿 機械基礎、防油堤【P】
	換気室	無筋コンクリート (H=300) 直均し仕上			R C L G S		コンクリート打放し(B)仕上 一部LGS下地の上、GB-R張	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	転落防止用・ステンレス製手摺 32φ：FL+700、1400 2本
	次亜室	無筋コンクリート (H=300) 直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り・耐薬品性塗料	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		複合板 (PFt=25+0.8FKt=6) 張りの上、EP-G 2通下部：コンクリート打放(B)の上、EP-G		複合板 (PFt=25+0.8FKt=6) 張りのまま	同 左	機械基礎、防液堤 多目的流し【AM】、ライニング<6-28-3>
	階段	段部・踊場：コンクリート直均しの上、 下部：無筋コンクリート (H=200) 直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		コンクリート打放し(B)仕上	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	ノンスリップ：ステンレス製 W=50、手摺：樹脂製 34φ 排水目皿
	廊下	無筋コンクリート (H=300) 直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		コンクリート打放し(B)仕上	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	
略号	GB-R：せっこうボード PF：ポリスチレンフォーム【C】土工事 <○-○-○>公共建築工事標準図 O. 8 F K：けい酸カルシウム板 E P-G：つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り【P】プラント工事										



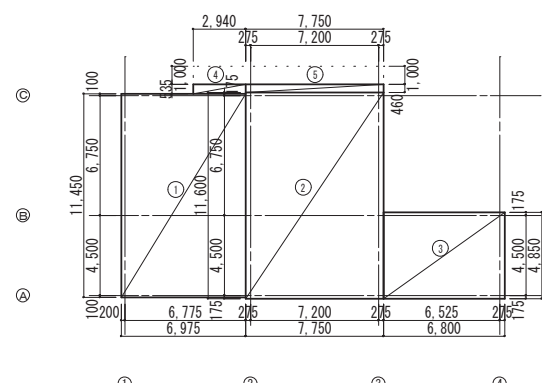
1階求積図



2階求積図

延床面積

(A) 14.65 × 11.45=167.74
(B) 6.80 × 4.70= 31.96
1階床面積 計 199.70㎡
(C) 7.75 × 11.60= 89.90
(D) 6.80 × 4.85= 32.98
2階床面積 計 122.88㎡
延床面積 合計 322.58㎡

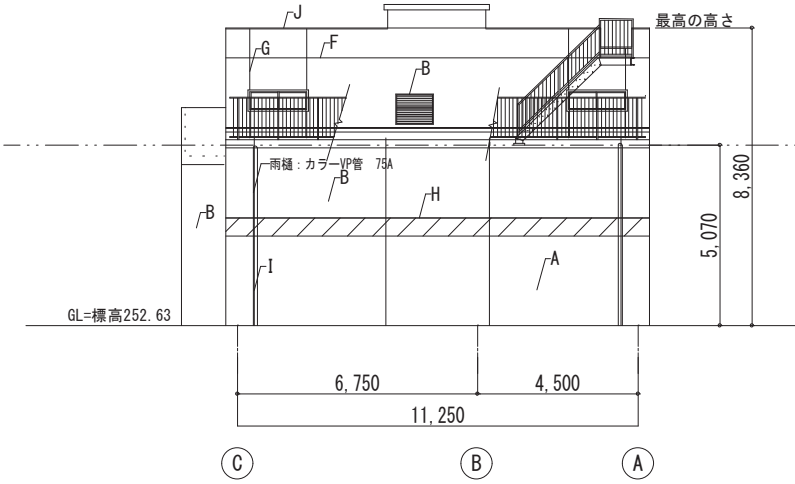


建築面積求積図

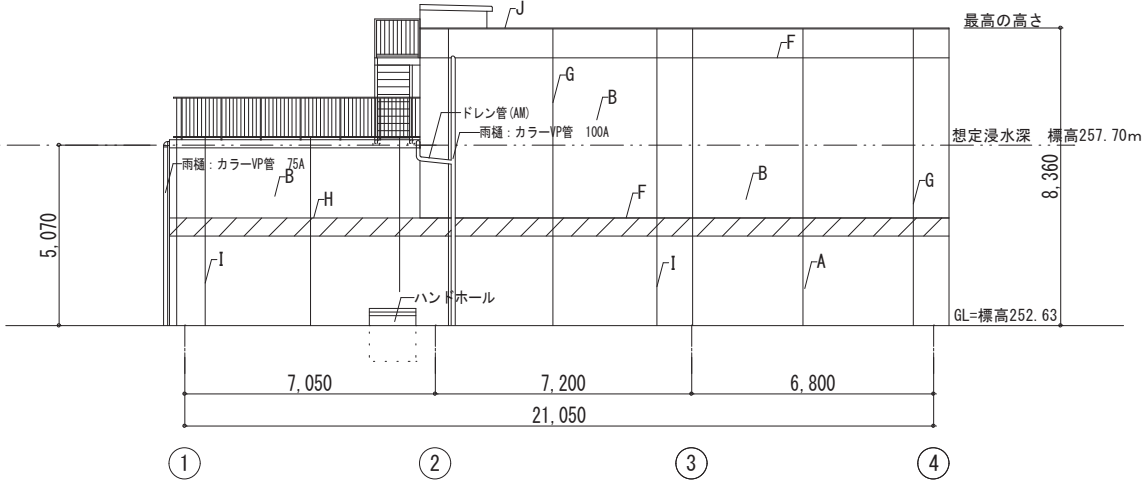
建築面積

1 6.975 × 11.45= 79.86
2 7.75 × 11.60= 89.90
3 6.80 × 4.85= 32.98
4 2.94 × 0.535= 1.57
5 7.75 × 0.46= 3.56
建築面積 合計 207.87㎡

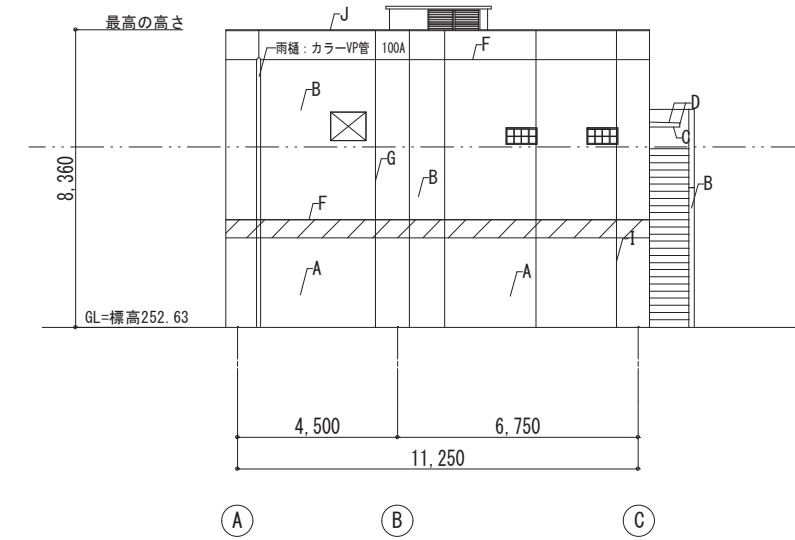
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	仕上表、面積表	縮 尺	—	分 割	A-10/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マシNo.		



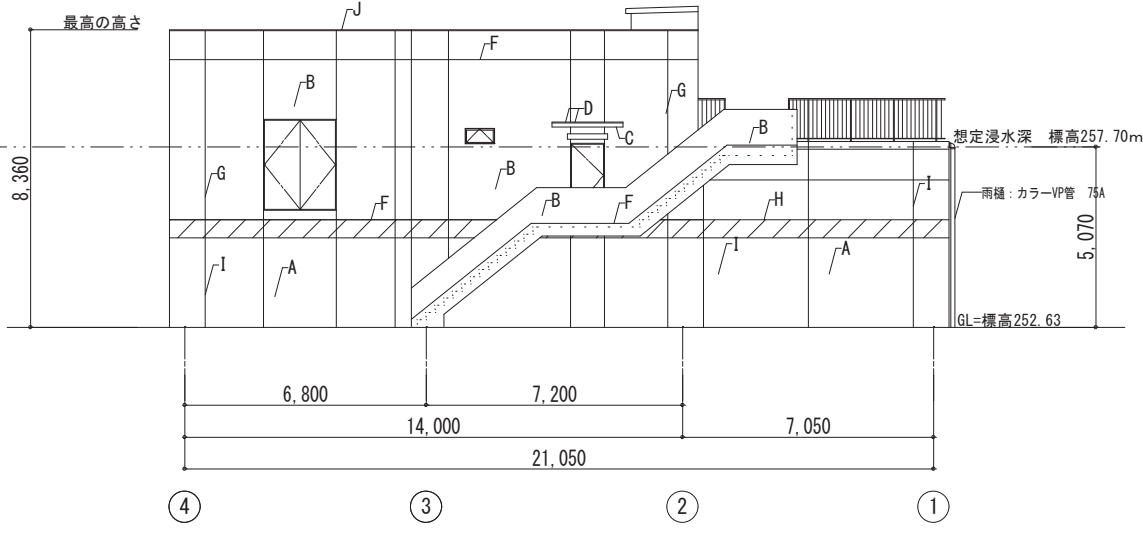
西 立面図 S=1:150



南 立面図 S=1:150



東 立面図 S=1:150



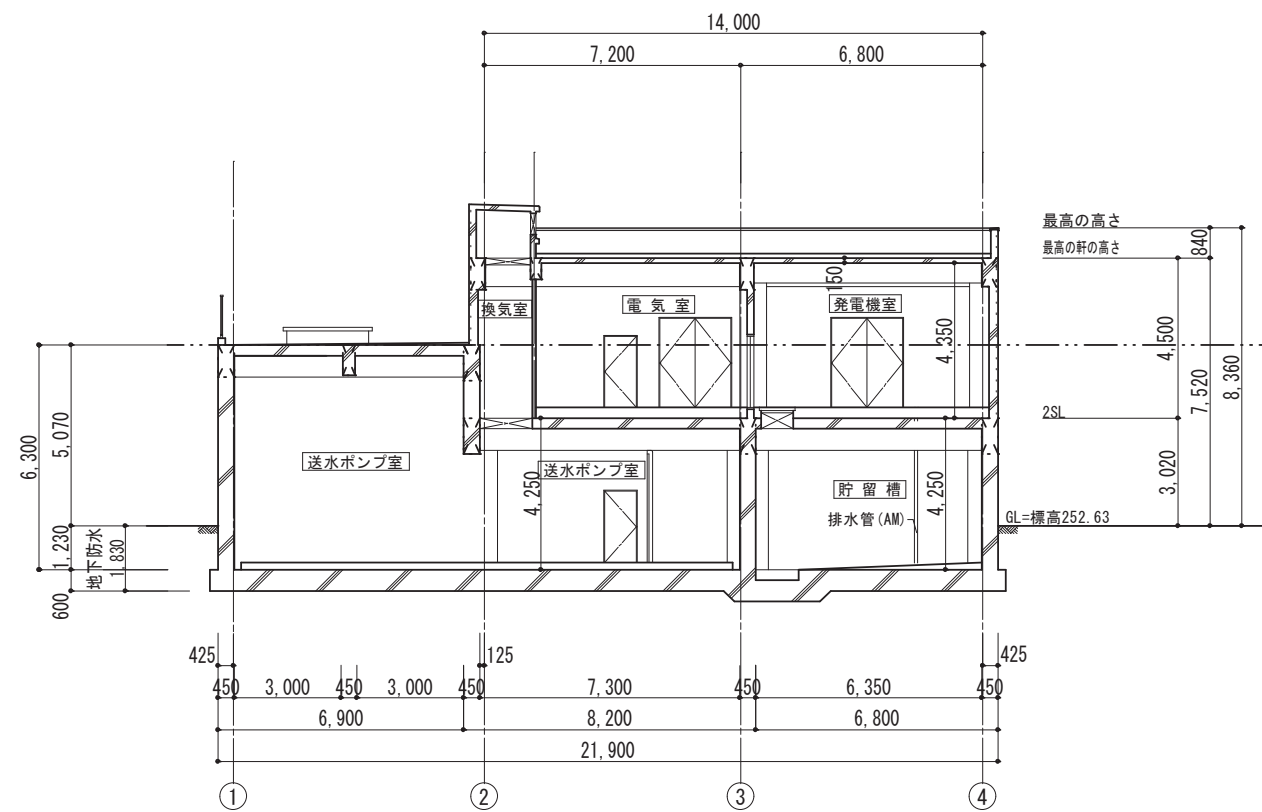
北 立面図 S=1:150

外部仕上表

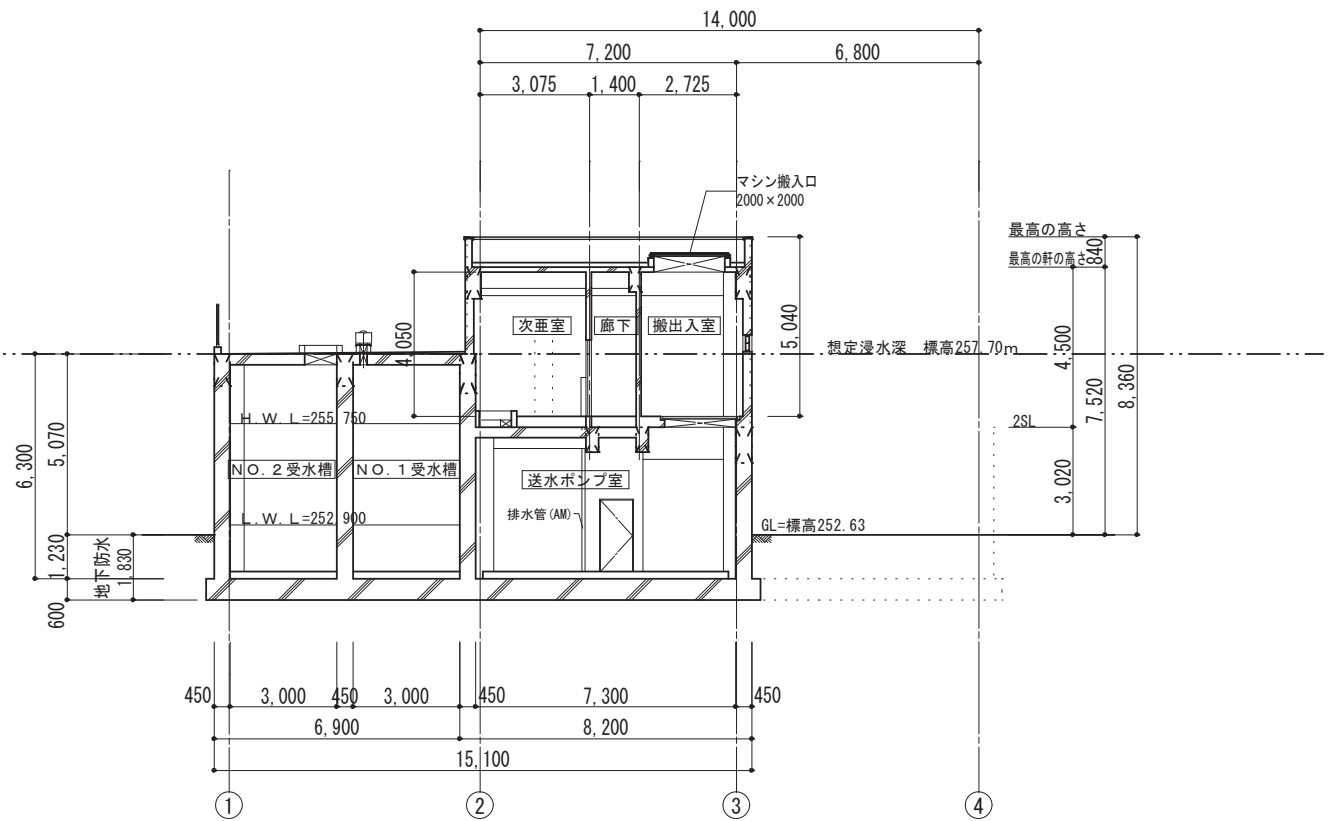
A	巾木、外壁(水槽階部分)	コンクリート打放し(B)の上、水性高耐候性フッ素樹脂クリアー塗り・ボーダー部(斜線)H=500:複層仕上塗材RE
B	外壁(2階部分)	コンクリート打放し(B)の上、複層仕上塗材RE
C	軒天	コンクリート打放し(B)の上、複層仕上塗材RE
D	庇	鼻先:打放し(B)の上、ウレタン系塗膜防水(X-2)、天端:直均しの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)
E	屋根・水槽上部	塩ビシート防水(高耐久)接着工法 高反射塗料塗り
F	目地	打継目地[2-02-8]PU-2
G	目地	ひび割れ誘発目地[2-02-9]PU-2
H	目地(水槽部分)	打継目地[2-02-8]PU-2
I	目地(水槽部分)	ひび割れ誘発目地[2-02-9]PU-2
J	笠木	アルミ製笠木

A 2 ⇒ A 3 版

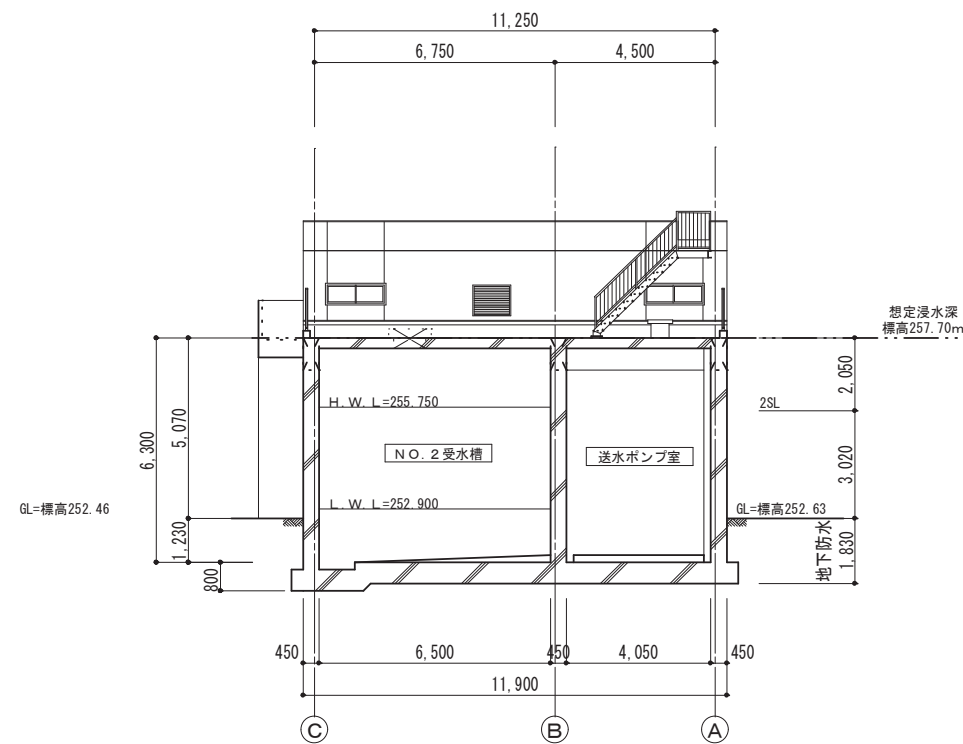
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	仕上表、立面図	縮 尺	1 : 150	分 割	A-12/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			



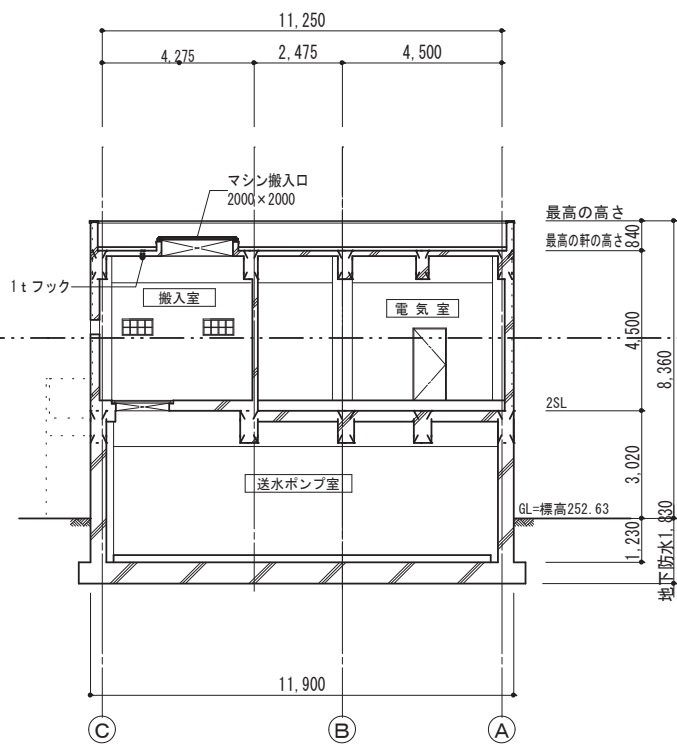
a-a断面図 S=1:150



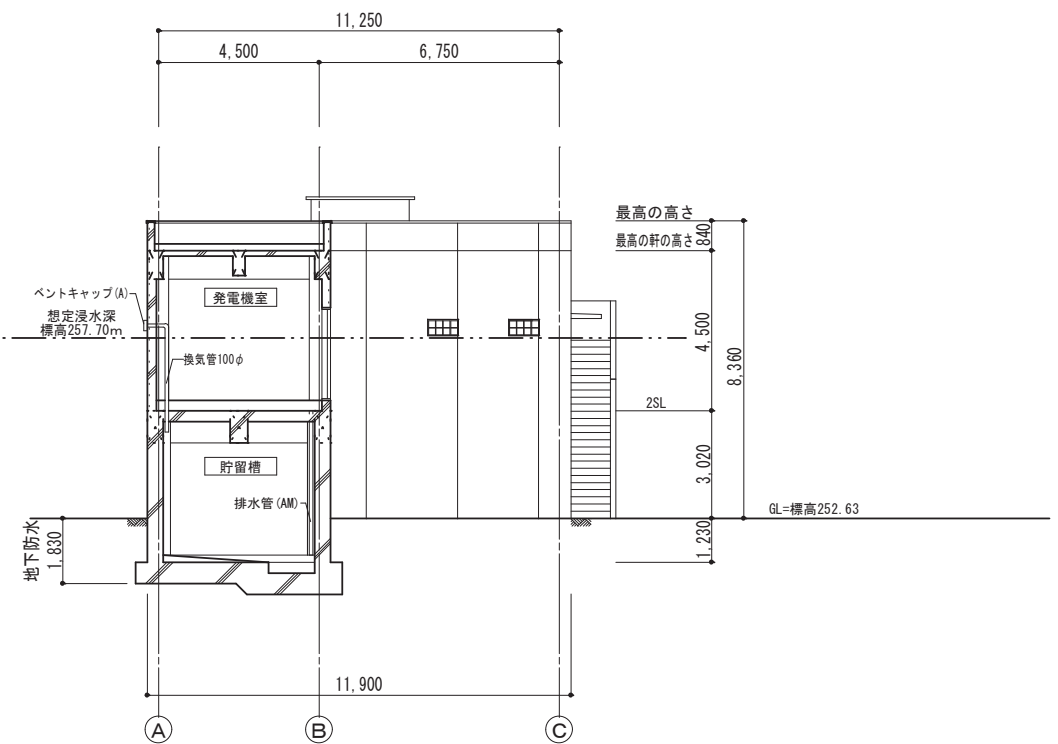
b-b断面図 S=1:150



C-C断面図 S=1:150



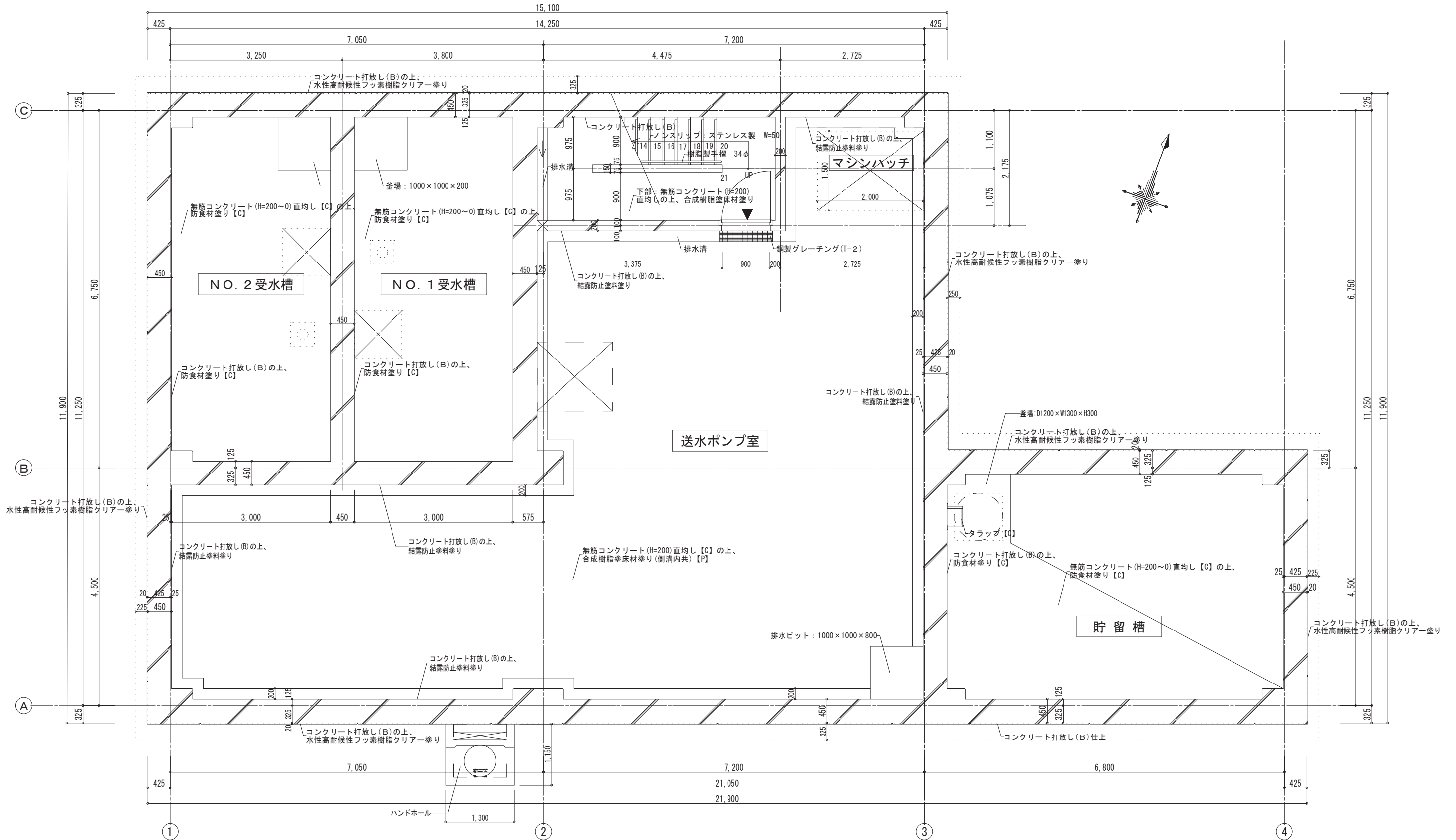
d-d断面図 S=1:150



e-e断面図 S=1:150

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	断 面 図	縮 尺	1 : 150	分 割	A-13/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マツカNo.			

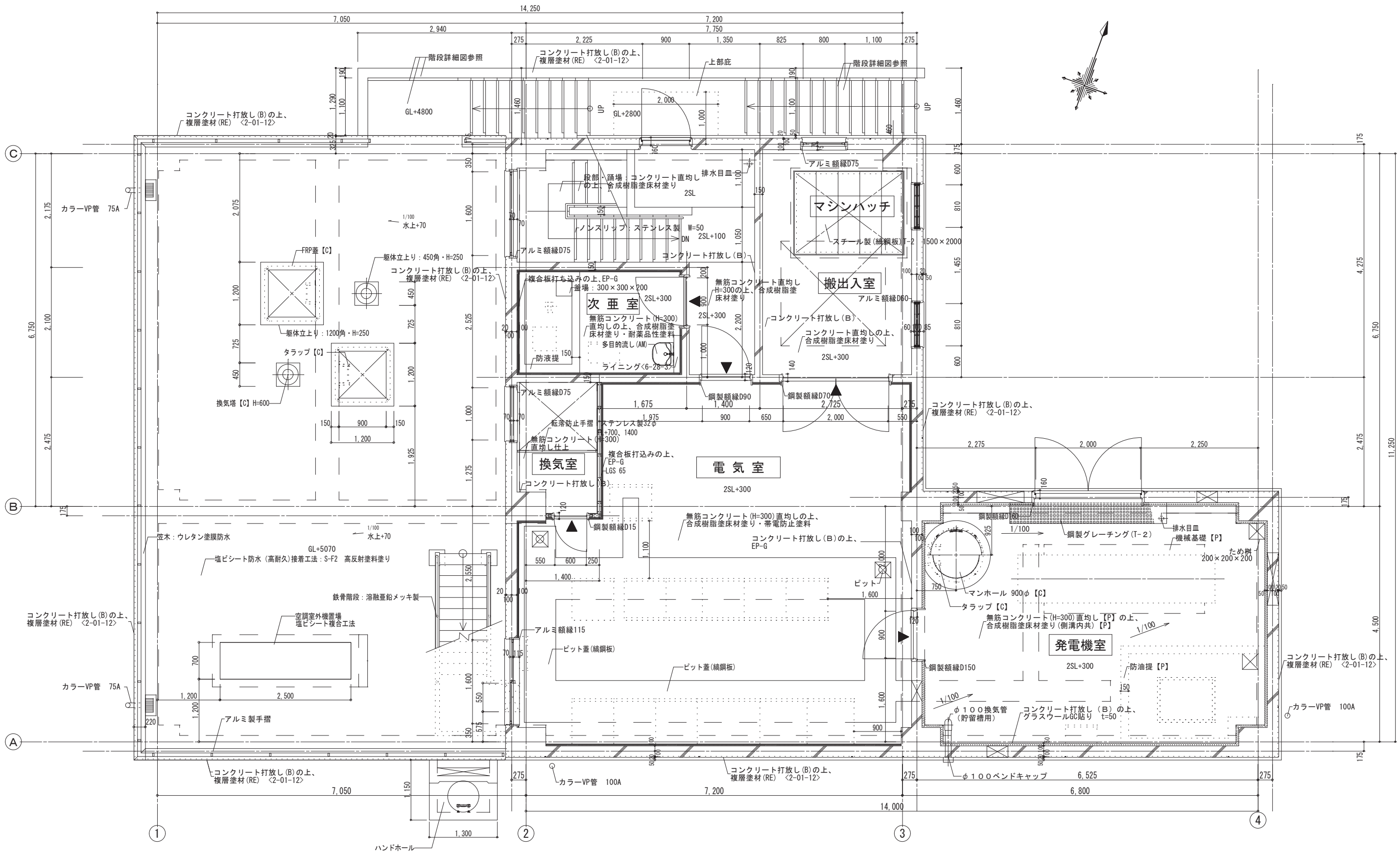


1階平面詳細図 S=1:50

▶ 室名札 : <8-43-1>300×60

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名		1階平面詳細図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-14/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.				

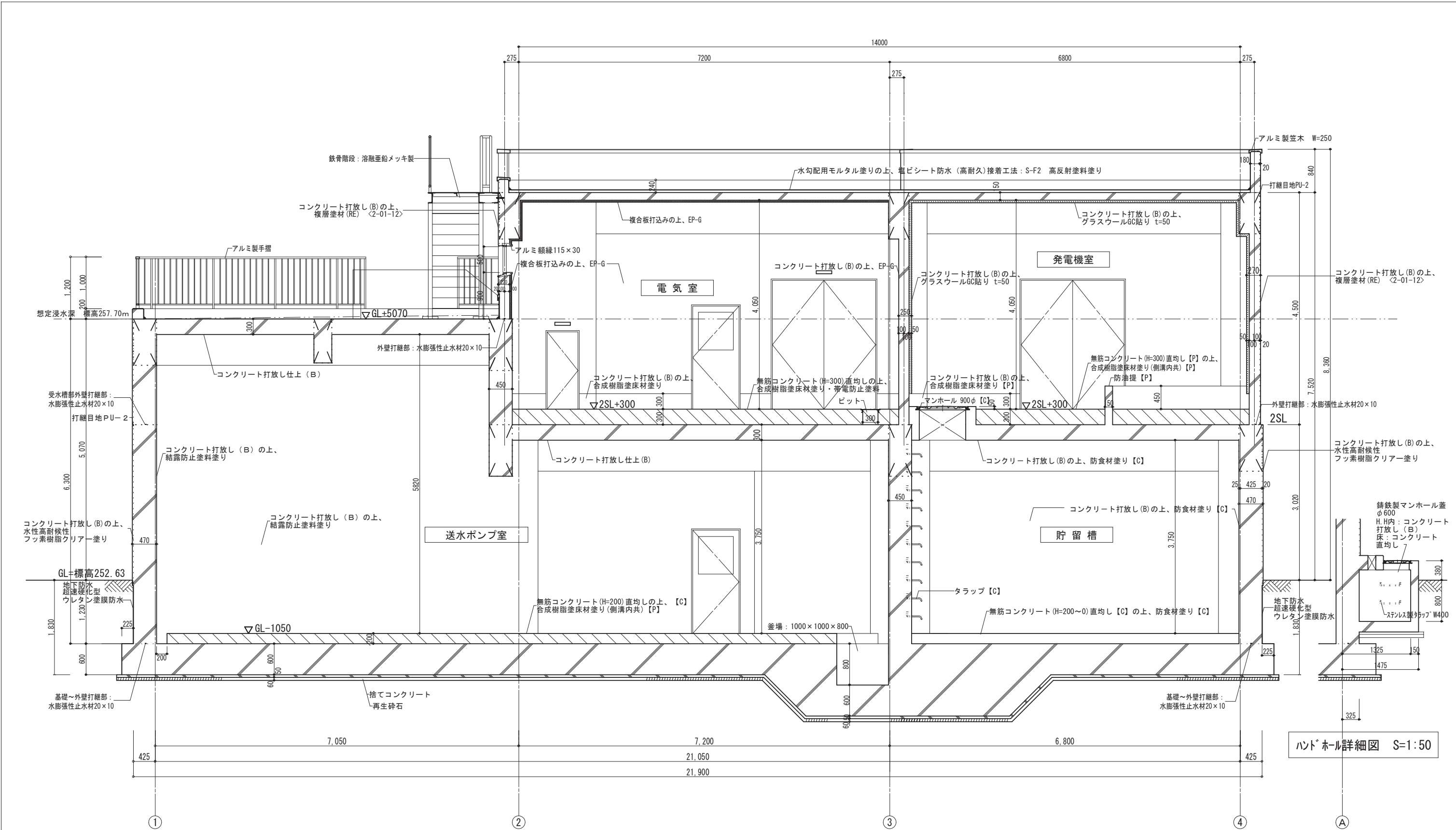


2階平面詳細図 S=1:50

室名札 : <8-43-1>300×60

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	2階平面詳細図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-15/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.			



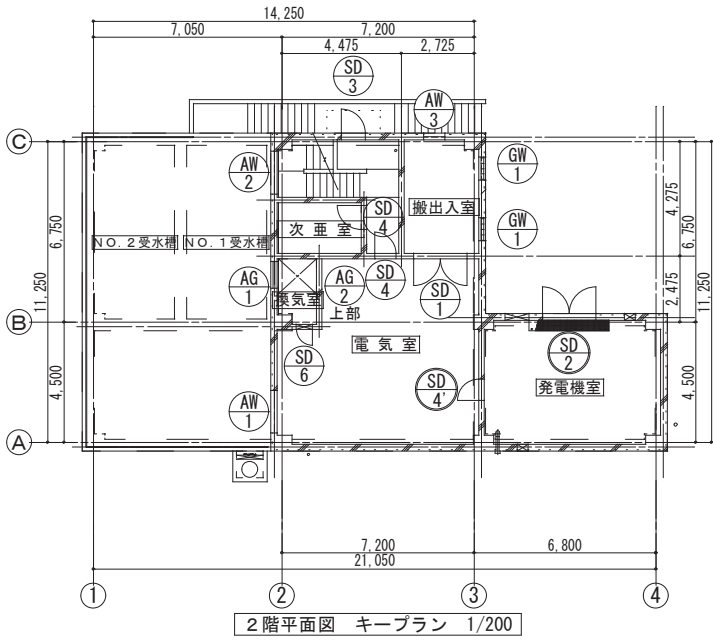
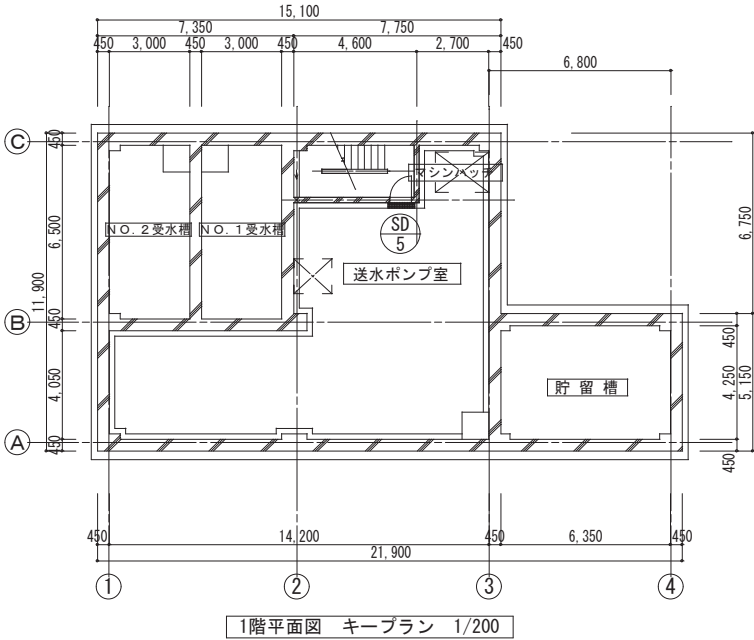
矩計図 S=1:50

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名		矩 計 図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-16/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2		マイクNo.			

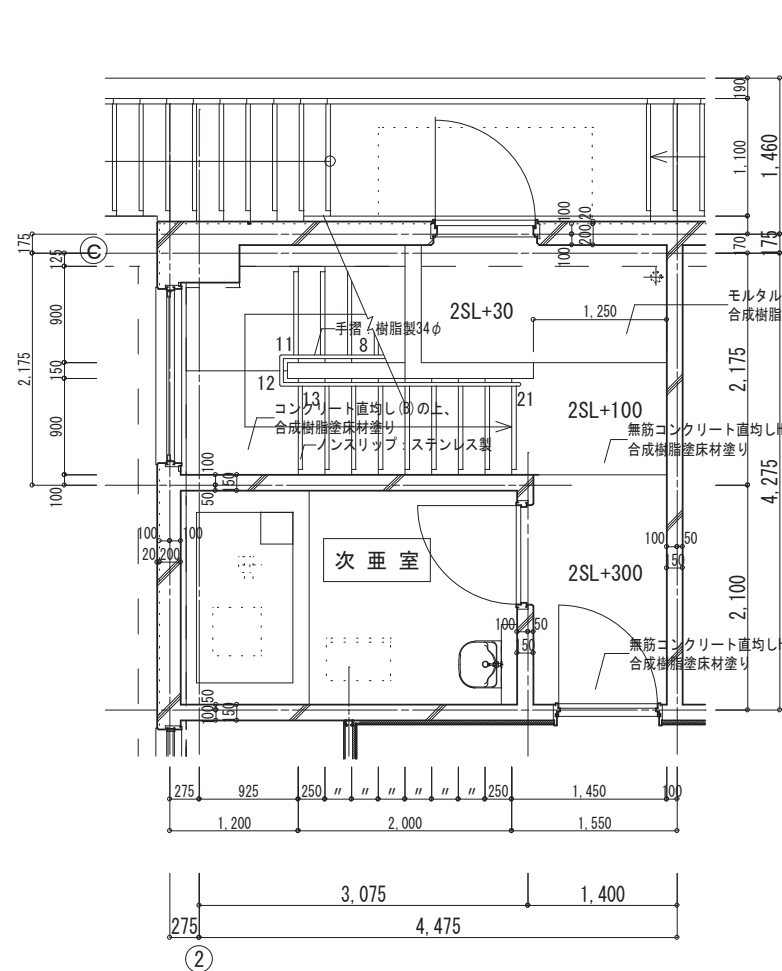
記号・数量	<div><div>AW1</div>アルミ製引違窓</div> 1	<div><div>AW2</div>アルミ製ハメ殺し窓</div> 1	<div><div>AW3</div>アルミ製突出し窓</div> 1	<div><div>GW1</div>アルミ製ガラスブロック枠</div> 2	<div><div>SD1</div>鋼製両開き扉 (SAT・簡易気密扉)</div> 1	<div><div>SD2</div>鋼製両開き防水扉 (防火設備)</div> 1
使用場所	電気室	階段室	搬出入室	搬出入室	搬出入室	発電機室
形状・寸法						
仕上	B-2	B-2	B-2	B-2	t=2.3スチールフラッシュ SOP	t=2.3スチールフラッシュ SOP
建具見込					60	50
枠見込	70	70	70	100	140	160
硝子	PW6.8	PW6.8	PW6.8	ガラスブロック (195角、95D)		大型戸当たり、片面締りハンドル、両面締りハンドル
金物	附属金物 1 式	附属金物 1 式	附属金物 1 式	附属金物 1 式	大型戸当たり、内蔵型上げ落し、丁番 (3枚)	大型上げ落し、丁番 (3枚)
備考	アルミ製額縁D115、水切り : D100、網戸	アルミ製額縁D75、水切り : D100	アルミ製額縁D75、水切り : D100、網戸	アルミ製額縁D60、水切り : D85	鋼製額縁D70、SOP、沓摺 : ステンレス製	鋼製額縁D130、SOP、沓摺 : ステンレス製
記号・数量	<div><div>SD3</div>鋼製片開き防水扉</div> 1	<div><div>SD4</div>鋼製片開き扉</div> <div><div>SD4'</div>鋼製片開き扉 (防火設備)</div> 4-2 4' -1	<div><div>SD5</div>鋼製片開き扉</div> 1	<div><div>SD6</div>鋼製片開き戸 (SAT・簡易気密扉)</div> 1	<div><div>AG1</div>アルミ製ガラリ</div> 1	<div><div>AG2</div>アルミ製ガラリ</div> 1
使用場所	玄関	次亜室、電気室、発電機室	送水ポンプ室	換気室	換気室	排気塔
形状・寸法						
仕上	t=1.6スチールフラッシュ SOP	t=1.6スチールフラッシュ SOP	t=1.6スチールフラッシュ SOP	t=1.6スチールフラッシュ SOP	B-2	B-2
建具見込	50	40	40	40		
枠見込	160	120	100	120	70	70
硝子		FW6.8		FW6.8		
金物	両面締りハンドル、丁番 (3枚)	シリンダー錠、レバーハンドル、丁番、DC、戸当たりゴム	シリンダー錠、レバーハンドル、丁番、DC、戸当たりゴム	シリンダー錠、レバーハンドル、丁番、DC	附属金物 1 式	附属金物 1 式
備考	沓摺 : ステンレス製	鋼製額縁4-D90・4' -D150、SOP、沓摺 : ステンレス製	沓摺 : ステンレス製	鋼製額縁D140、SOP、沓摺 : ステンレス製	アルミ製額縁D70、水切り : D105	水切り : D125

- 凡 例
- PW : 網入り磨き板ガラス
- FW : 網入り型板ガラス
- * 丁番はすべてステンレス製とする。
- * B - 2 : 着色陽極酸化塗装複合皮膜

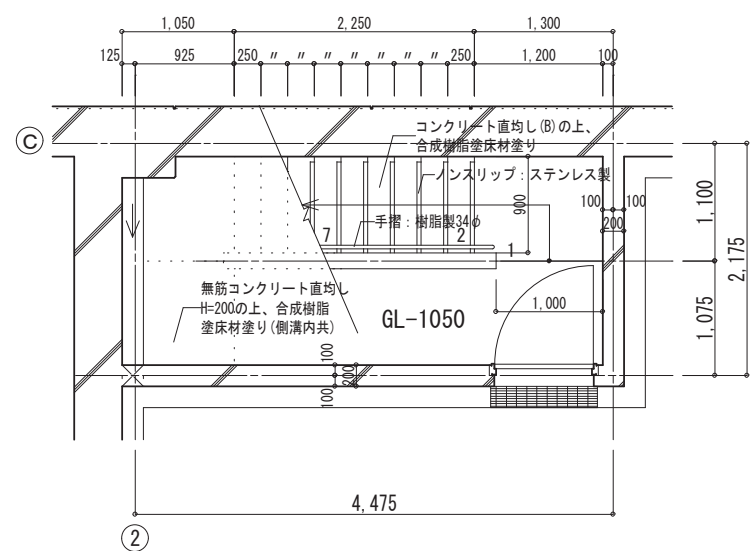


A 2 ⇒ A 3 版

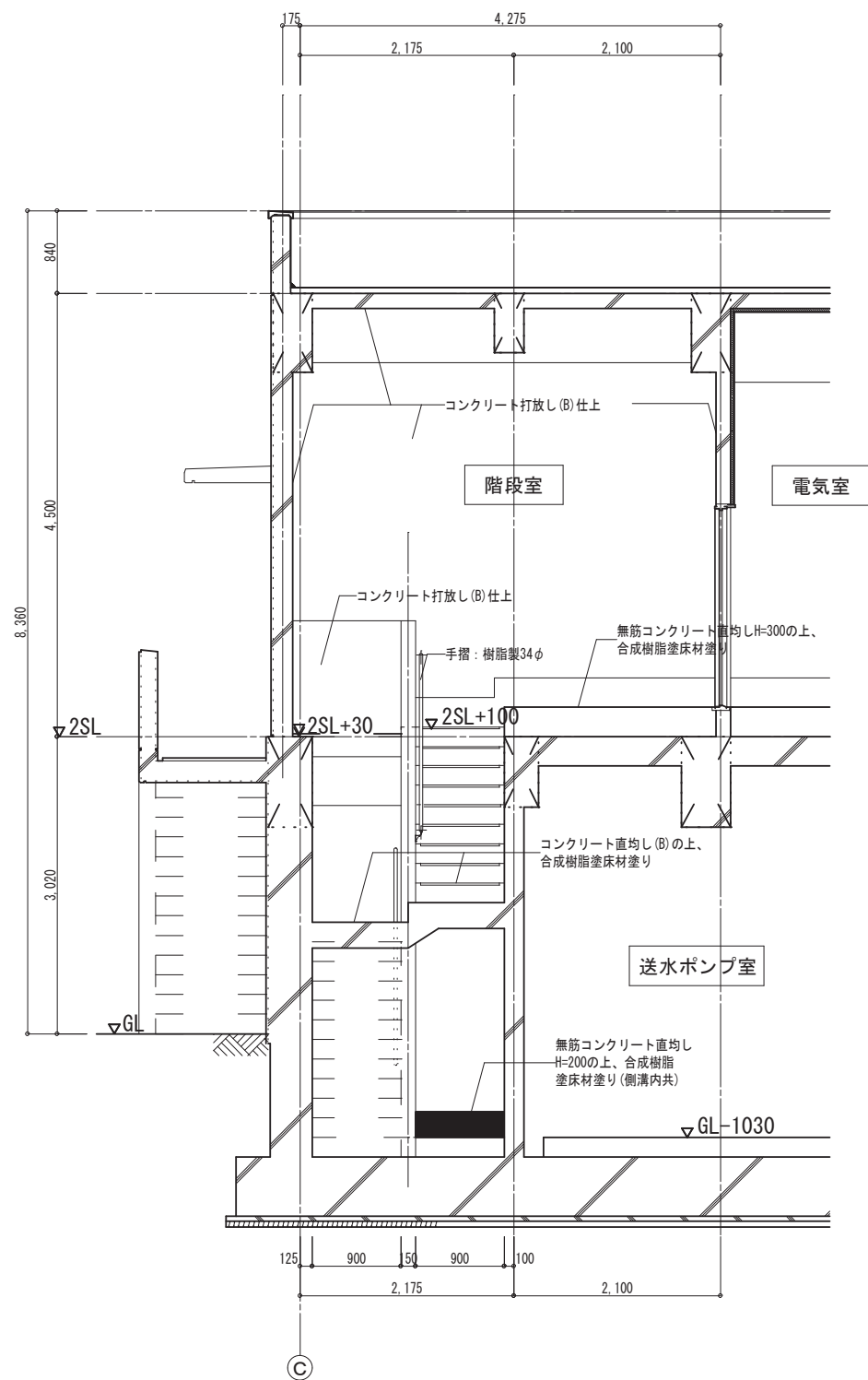
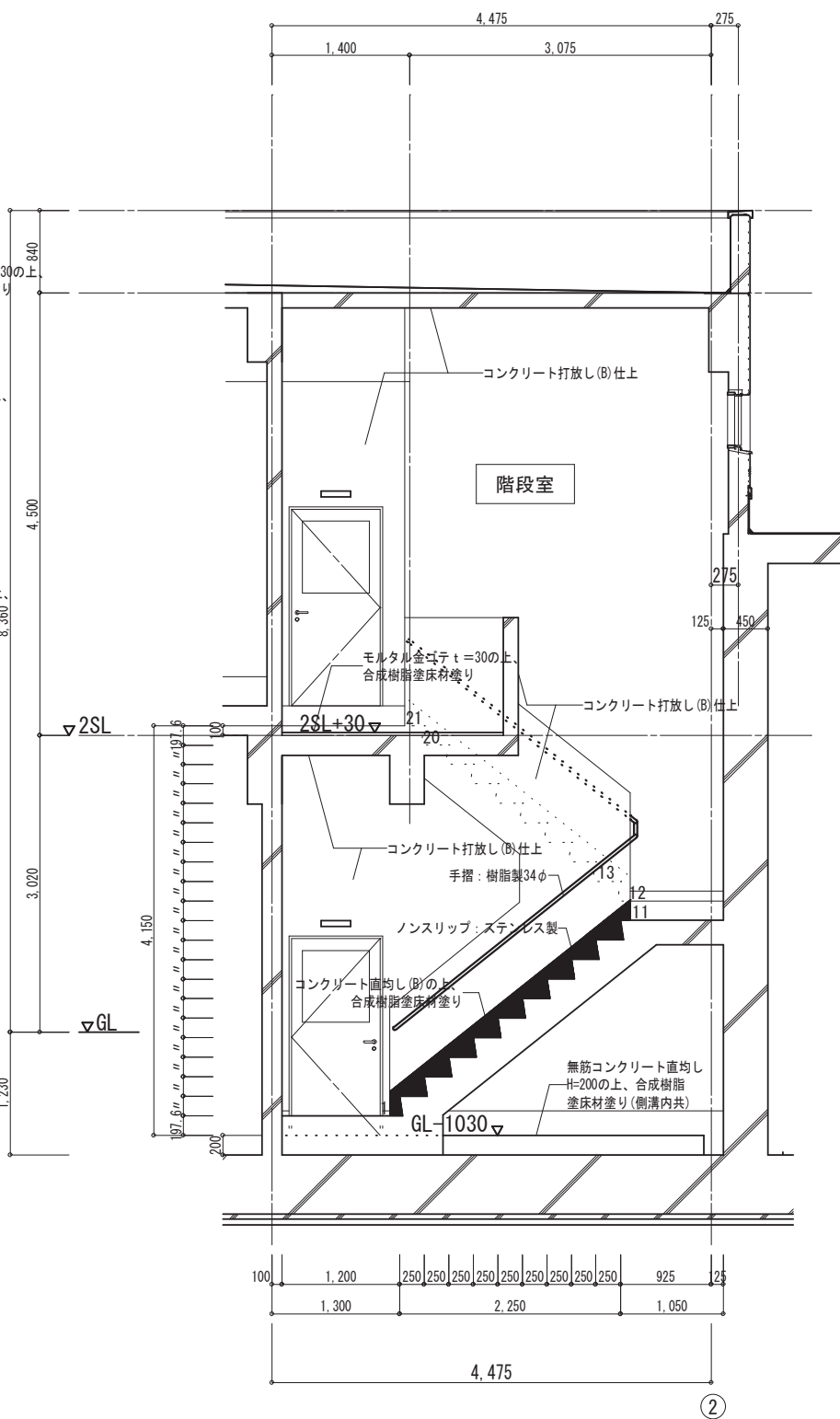
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	建具表、建具キープラン	縮 尺	1 : 50、200	分 割	A-17/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.		



2階平面詳細図 S=1:50

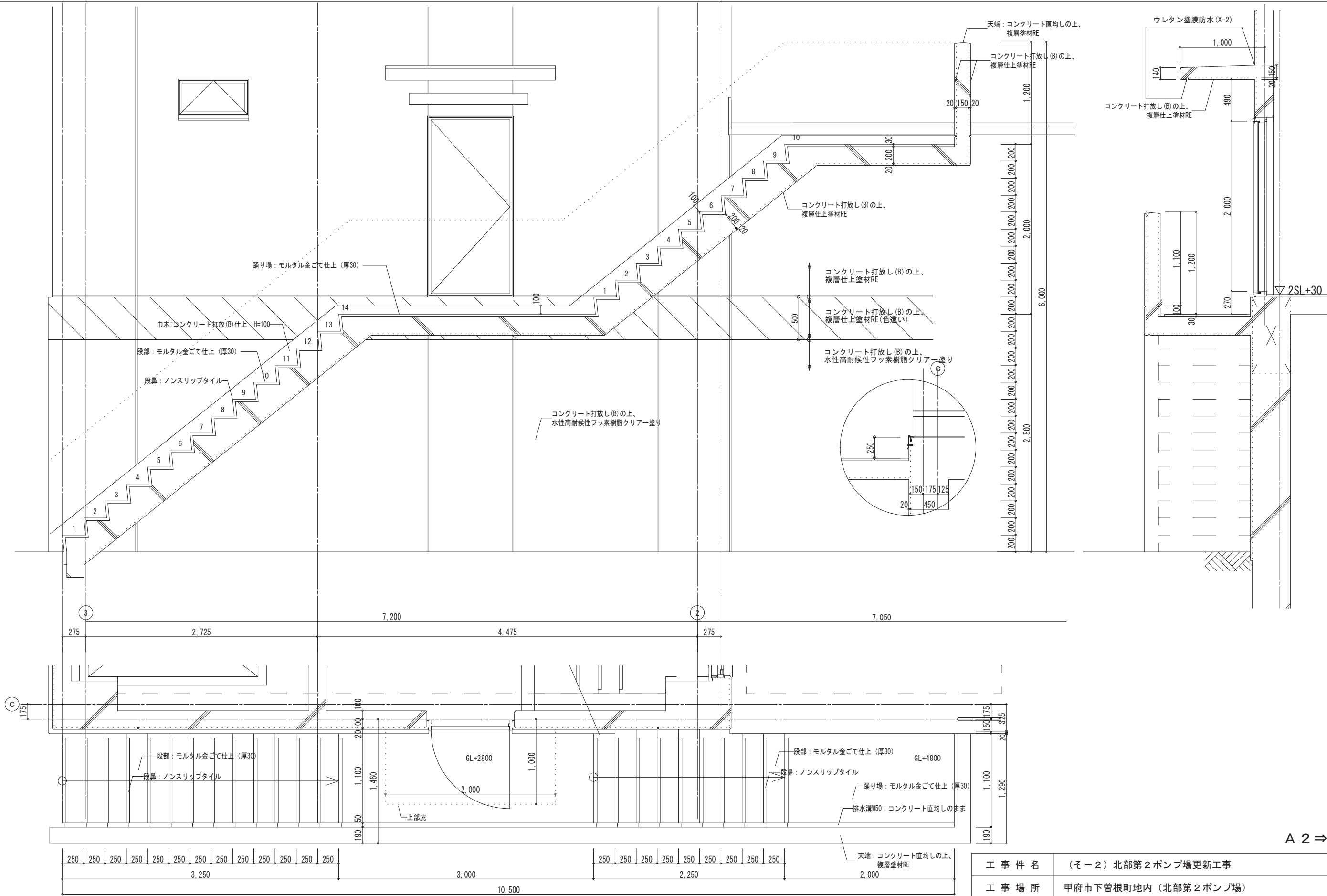


1階平面詳細図 S=1:50



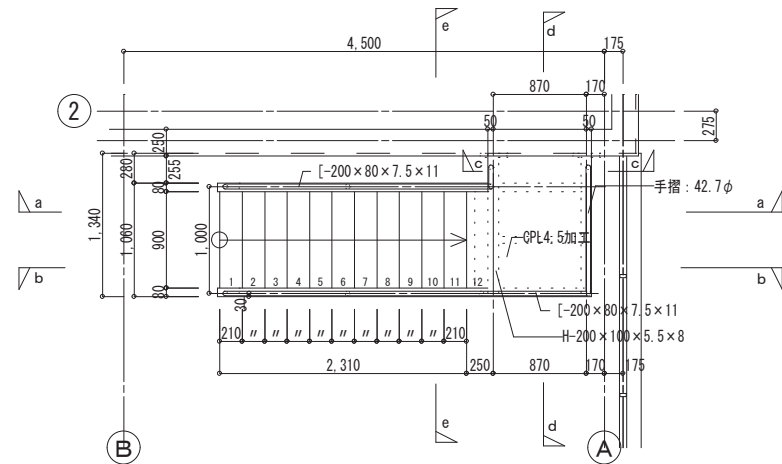
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所	甲府市下菅根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	内部階段詳細図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-18/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.		

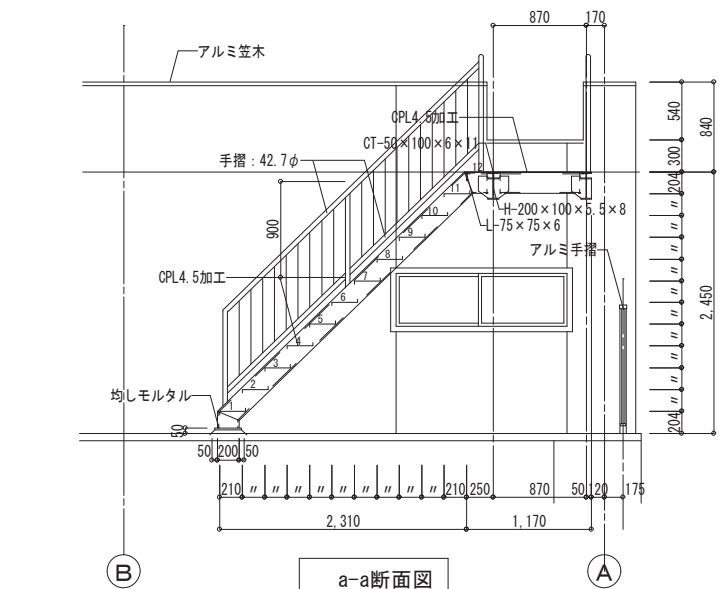


A 2 ⇒ A 3 版

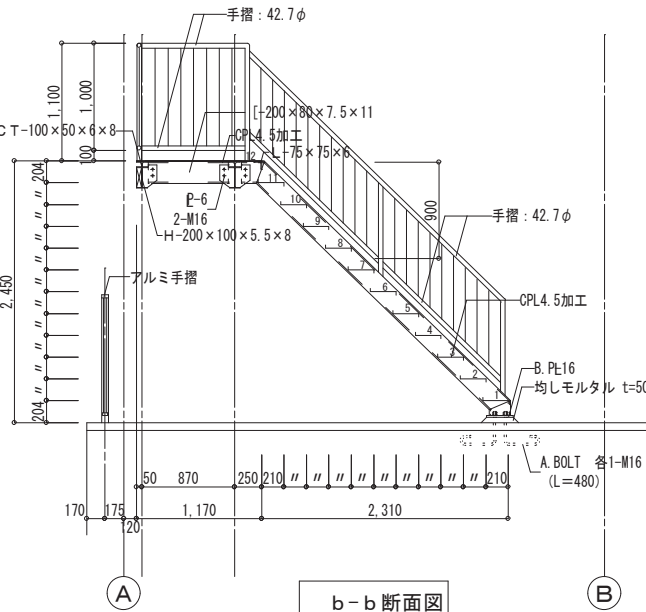
工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所		甲府市下菅根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名		外部階段詳細図 (1)	縮 尺	1 : 30	分 割	A-19/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.			



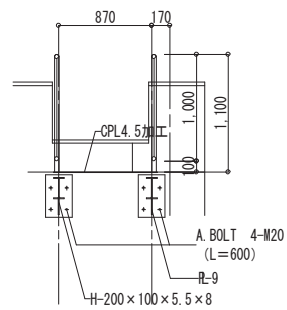
平面詳細図



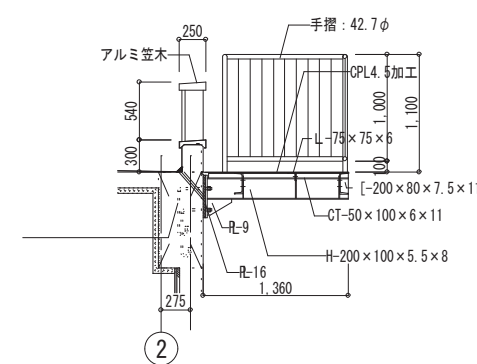
a-a断面図



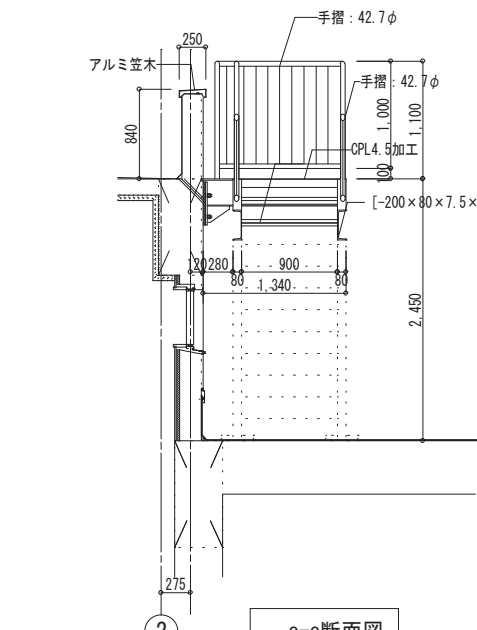
b-b断面図



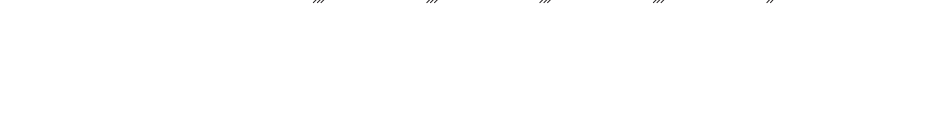
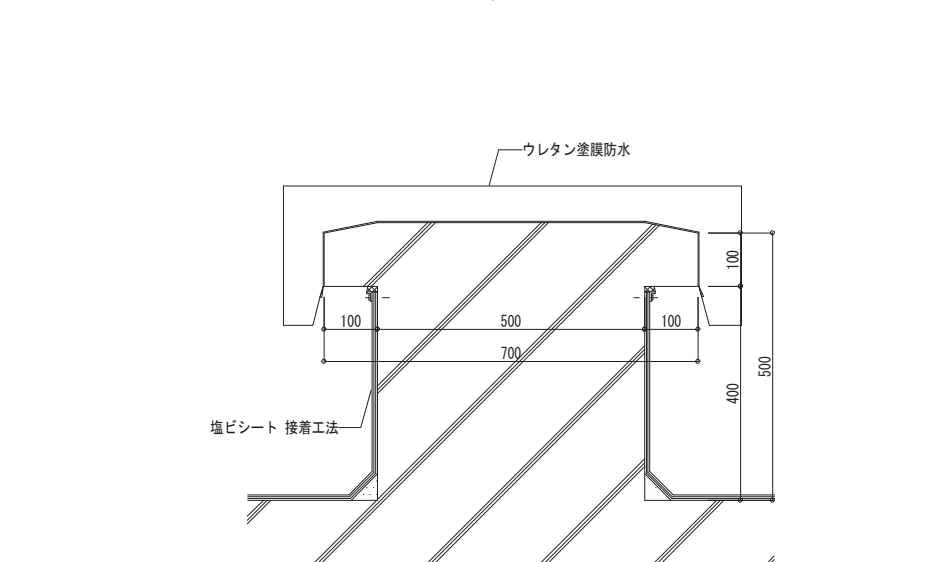
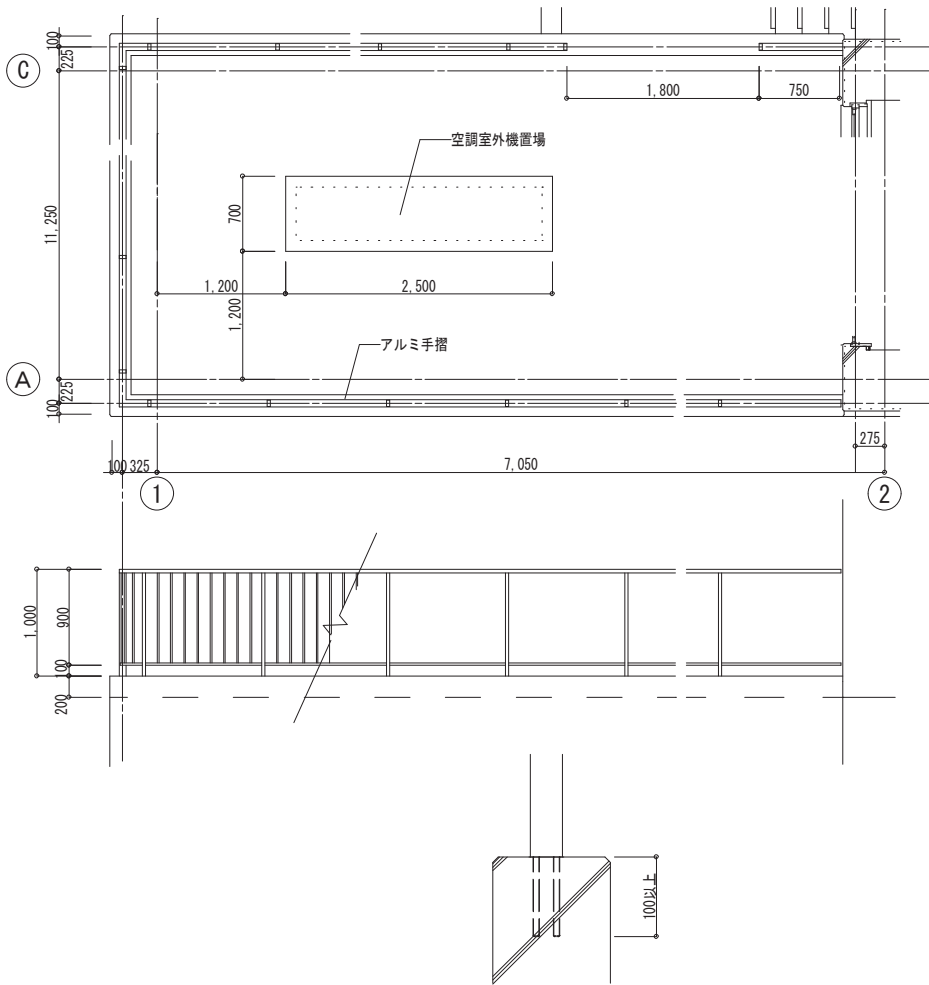
c-c断面図



d-d断面図

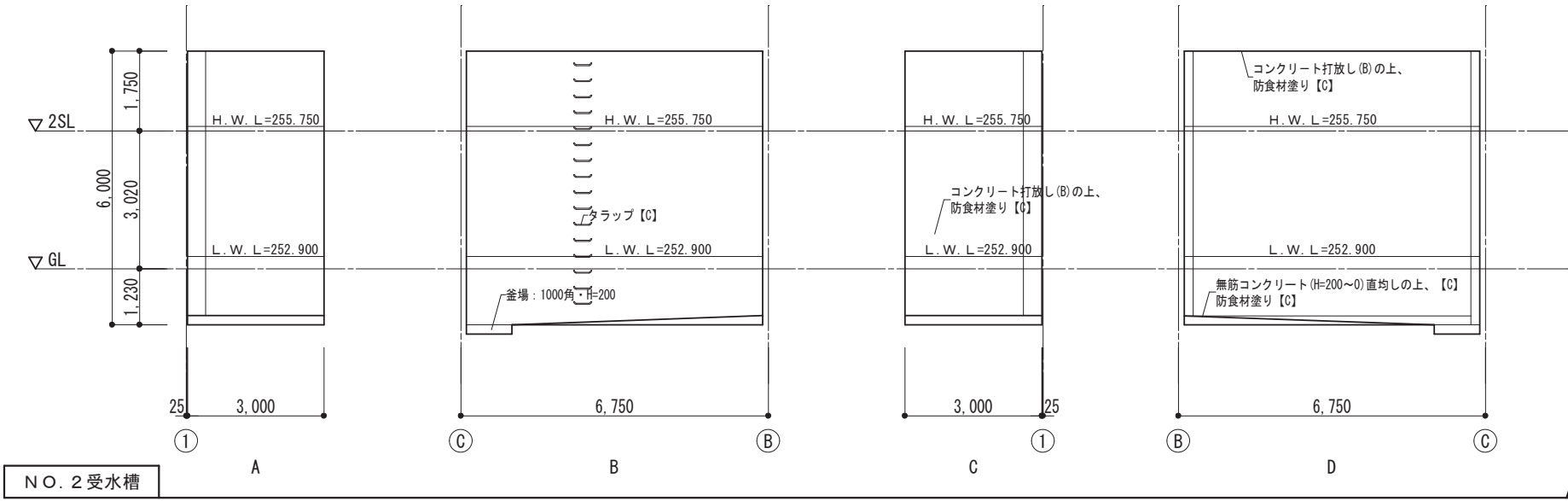
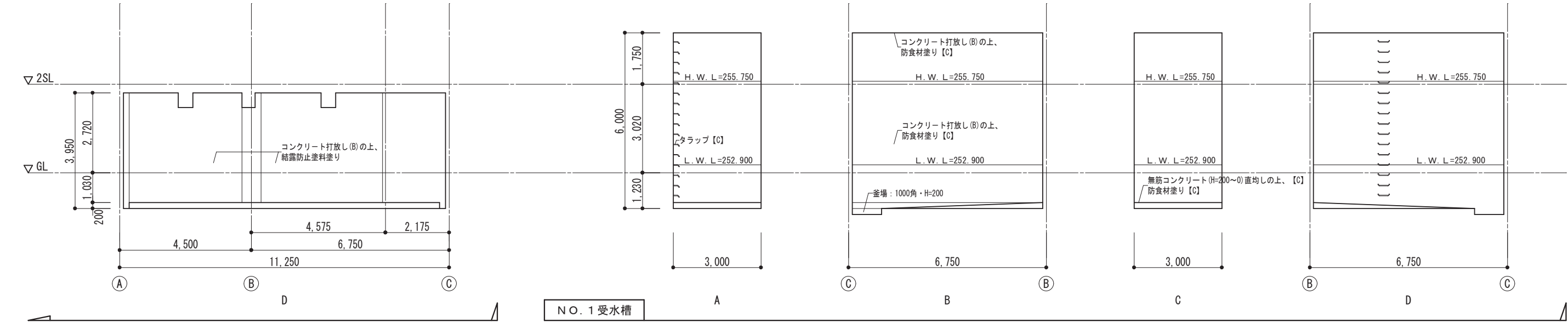
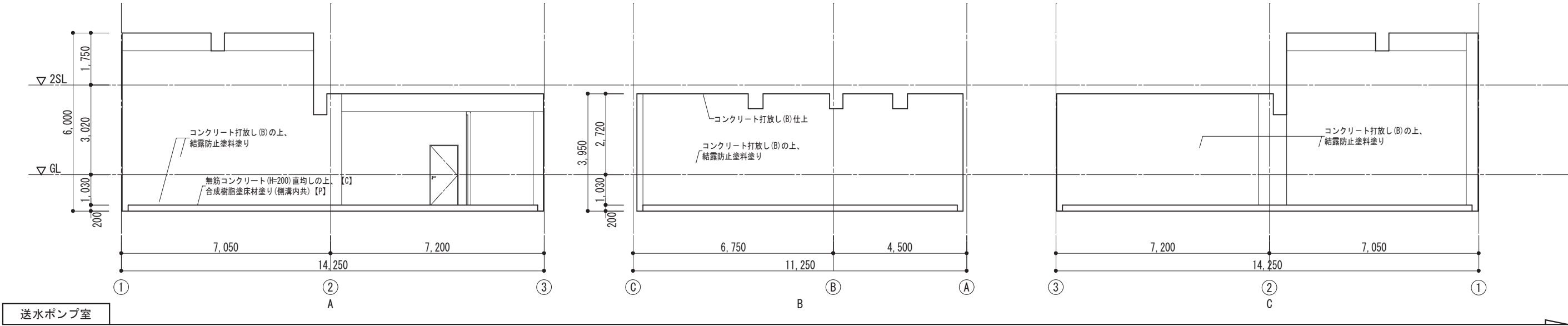


e-e断面図



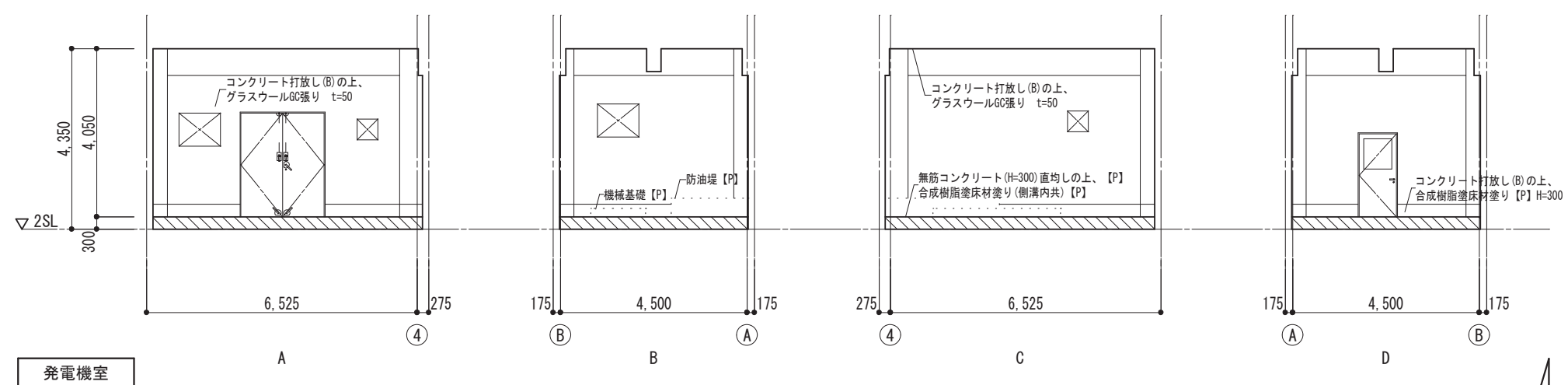
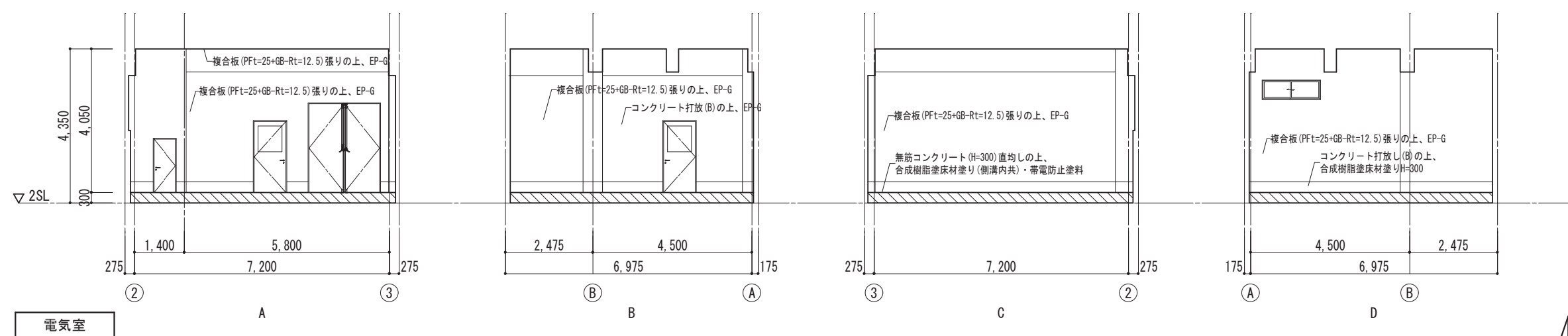
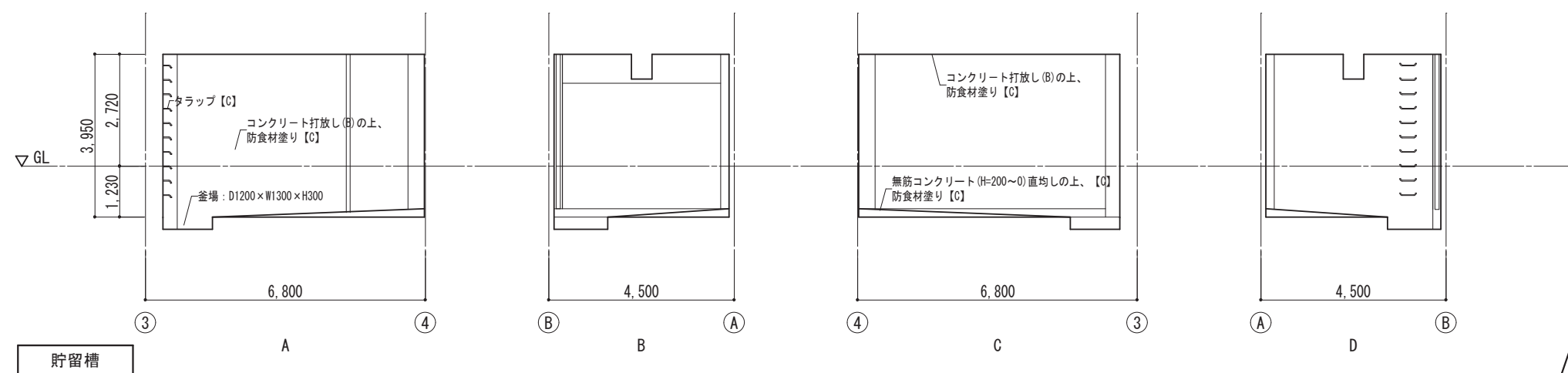
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	外部階段詳細図(2)	縮 尺	1 : 10, 50	分 割	A-20/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			



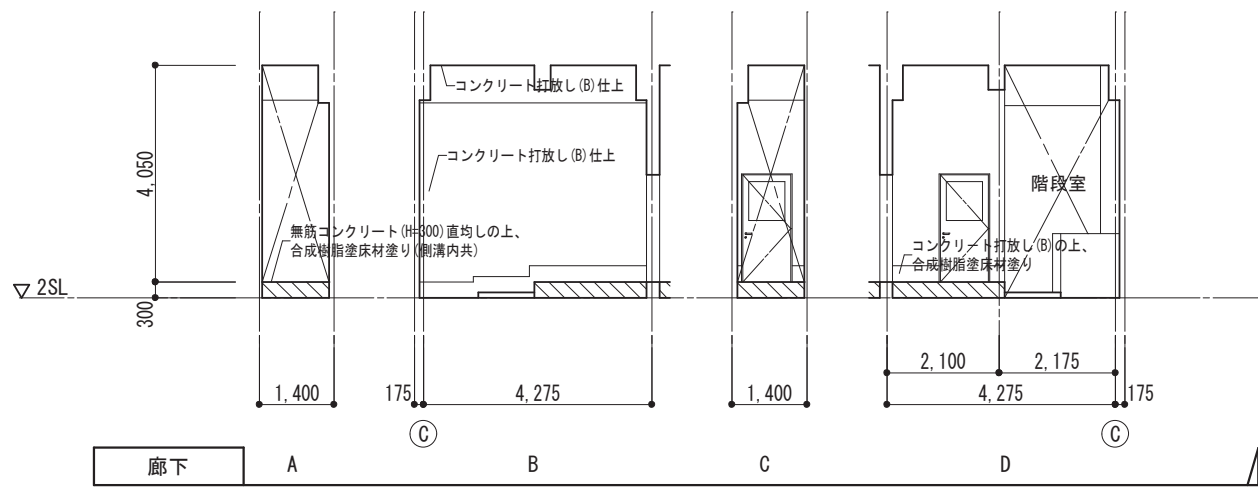
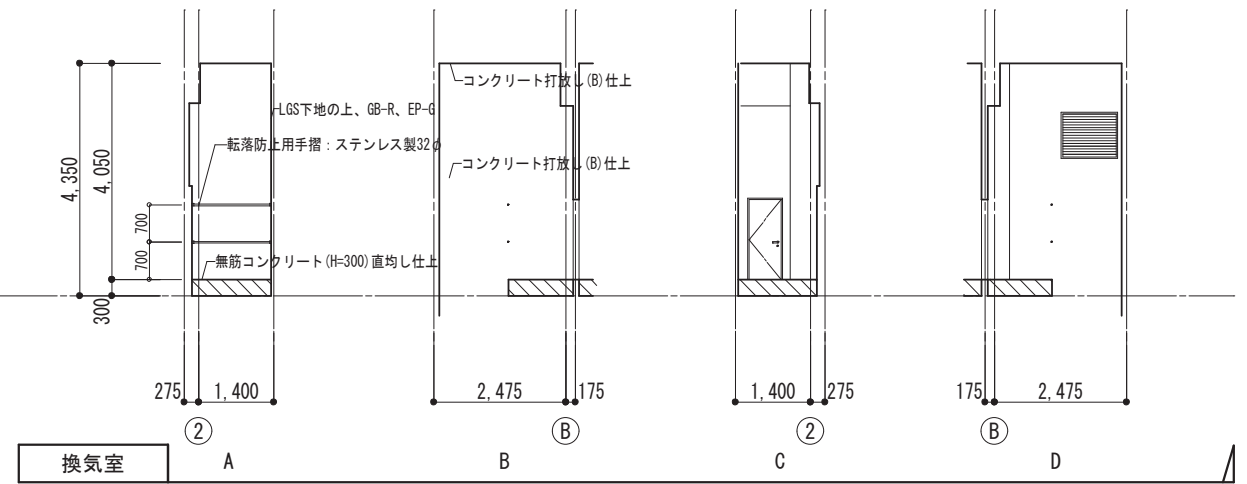
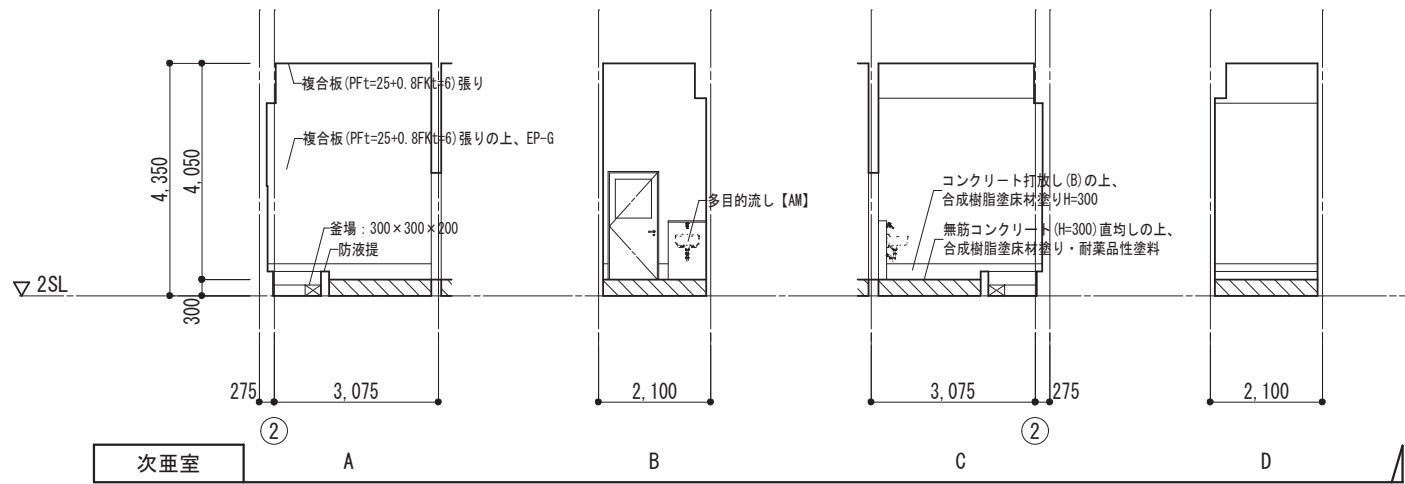
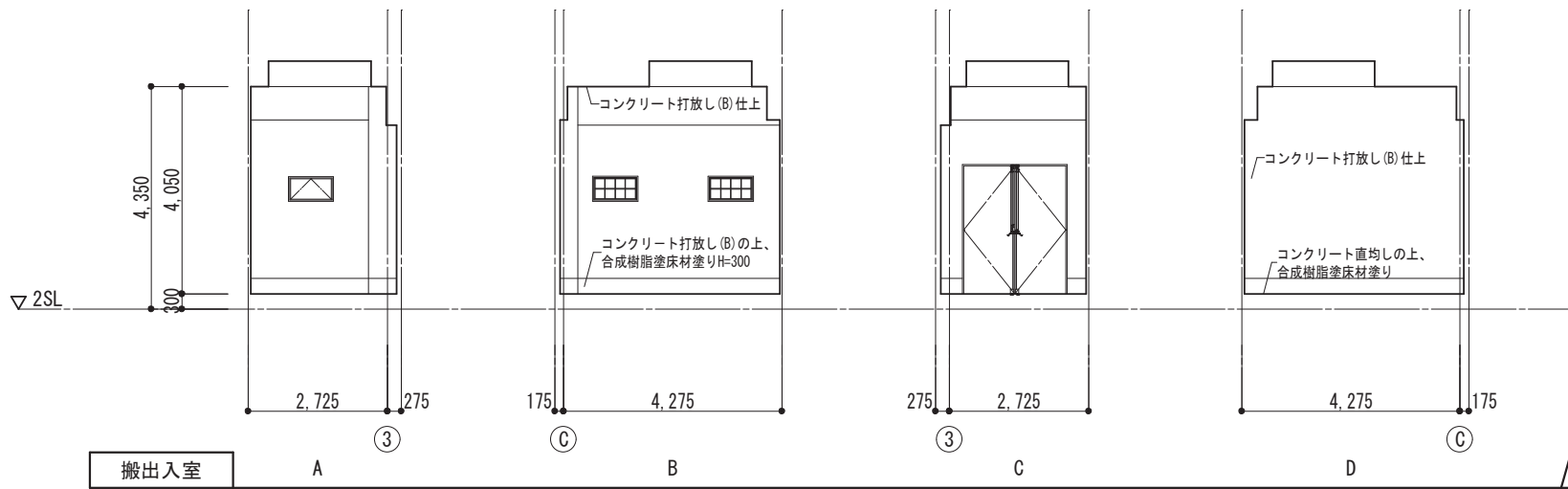
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	展 開 図 1	縮 尺	1 : 100	分 割	A-21/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.			



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曾根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	展 開 図 2	縮 尺	1 : 100	分 割	A-22/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			

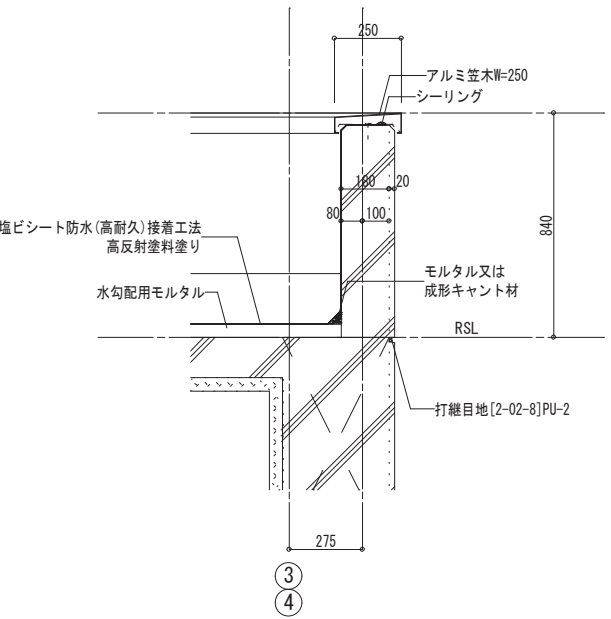


A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曾根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	展 開 図 3	縮 尺	1 : 100	分 割	A-23/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.			

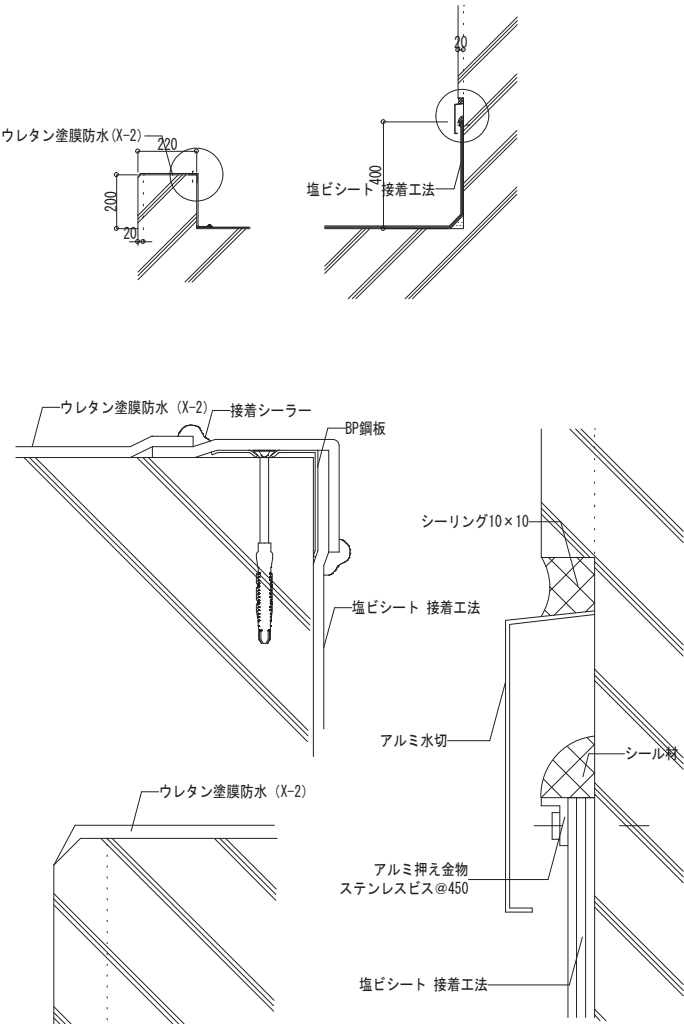
屋上パラペット廻り詳細図

S=1:20



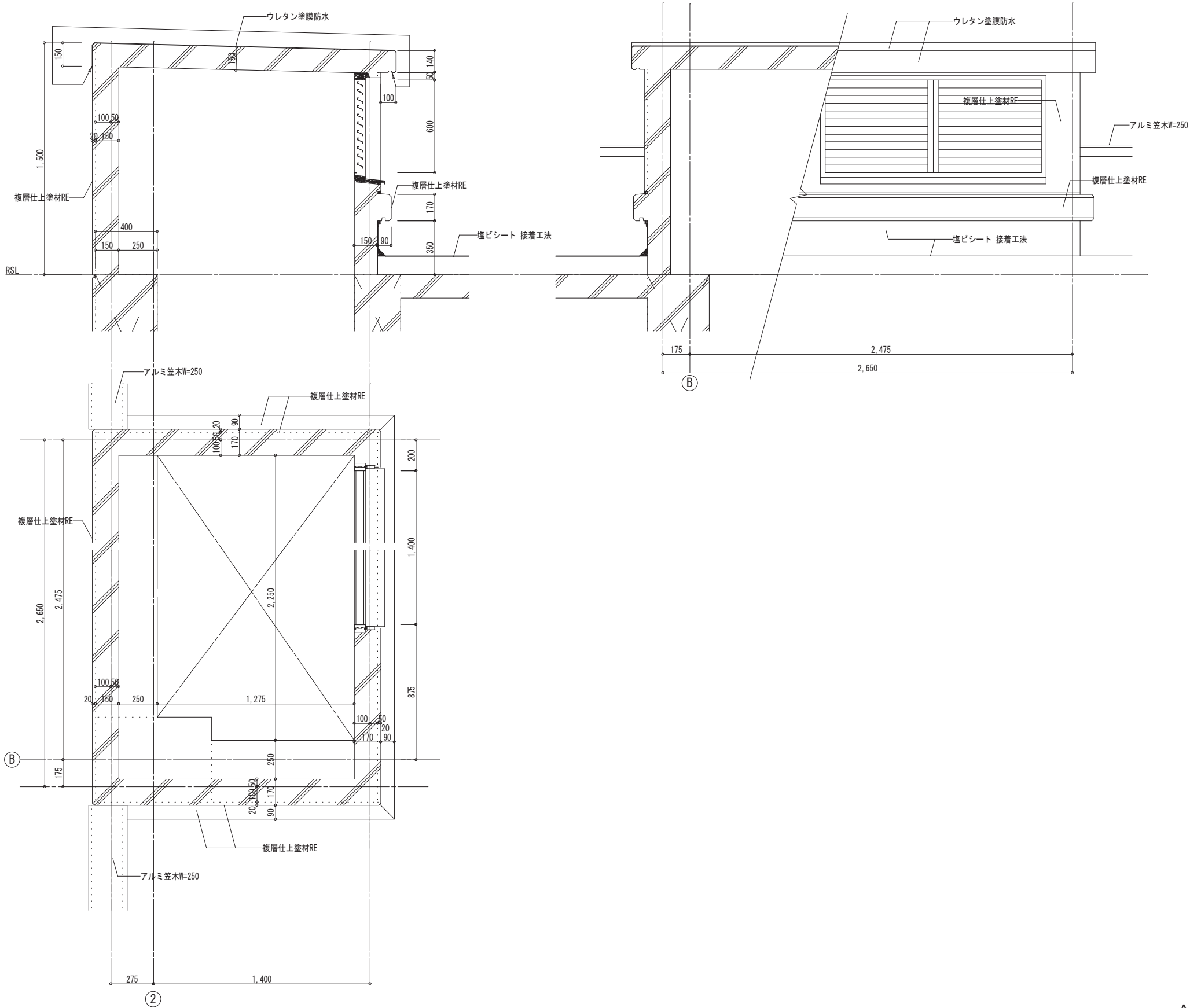
水槽上部：防水納まり詳細図

S=1:2・20



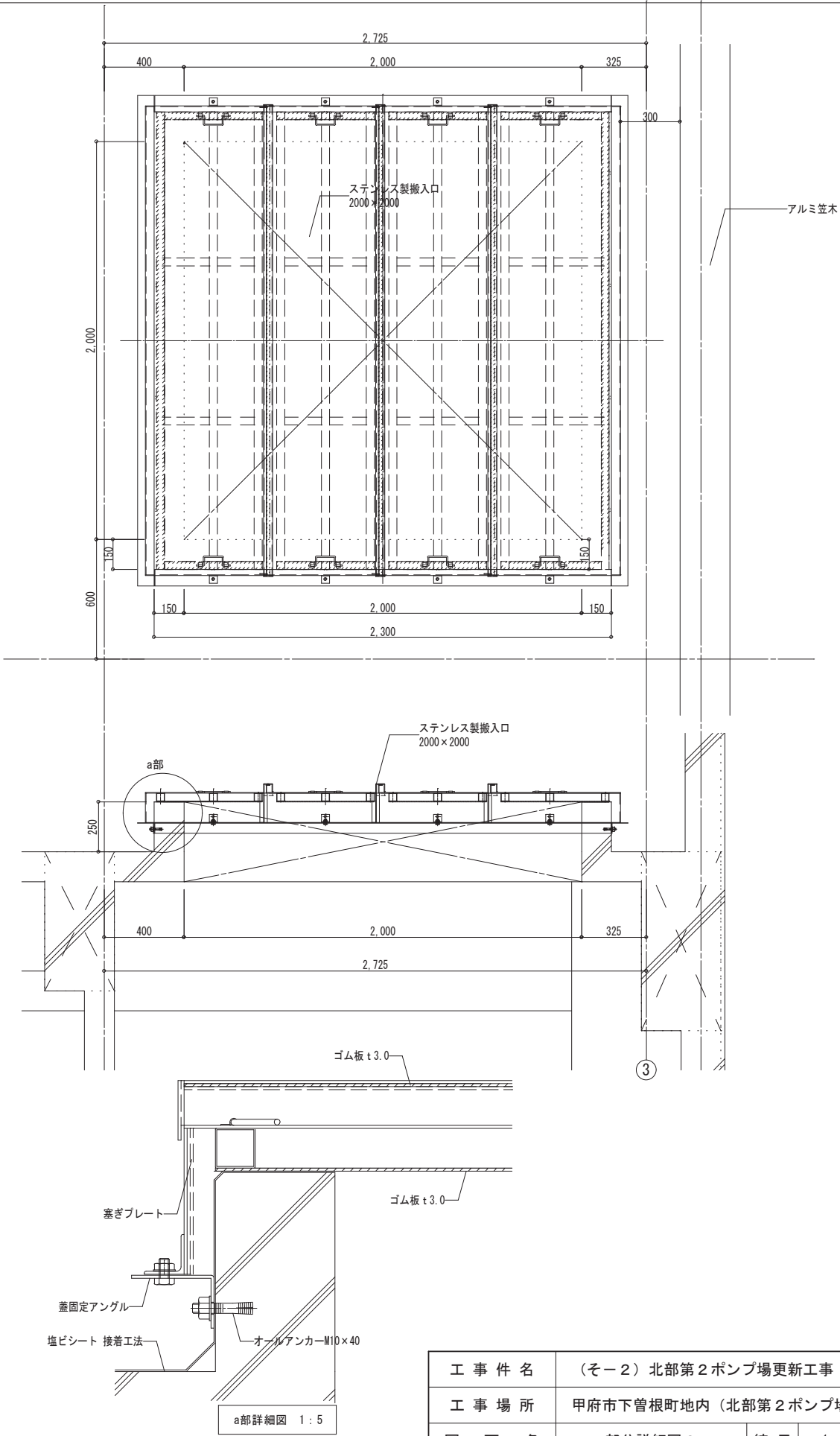
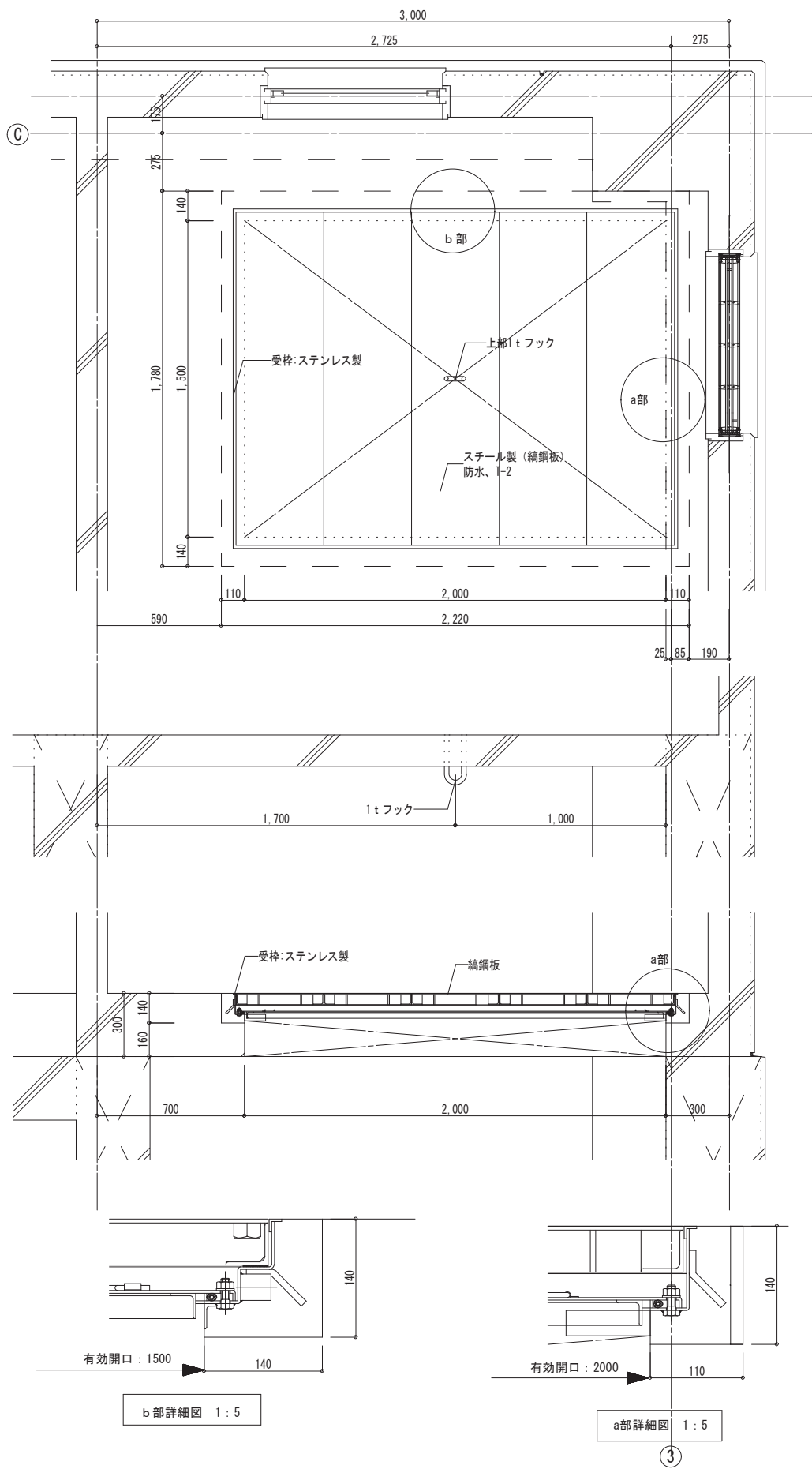
換気塔廻り詳細図

S=1:20



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	部分詳細図 1	縮 尺	1 : 2, 20	分 割	A-24/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.			

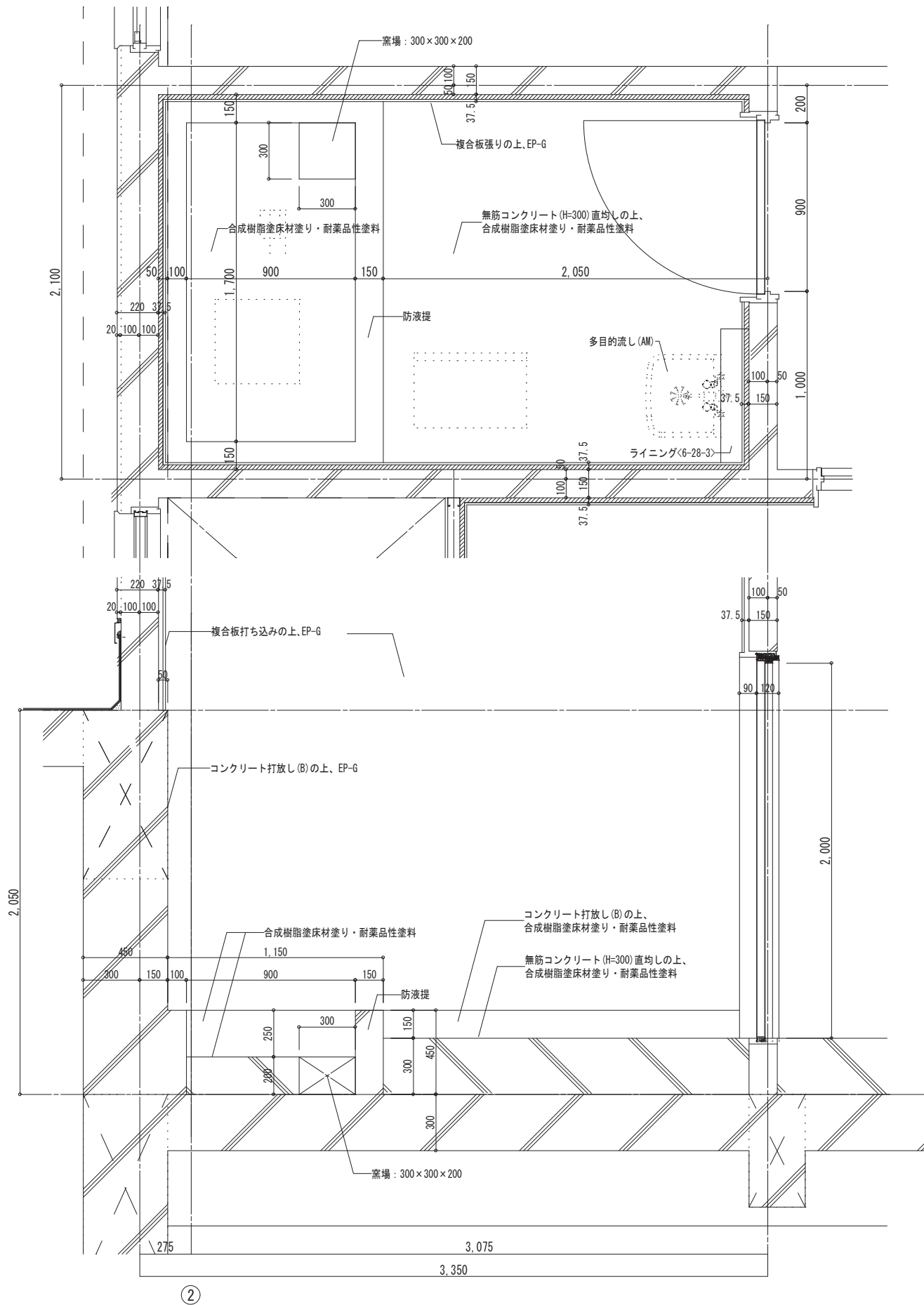


A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	部分詳細図 2	縮 尺	1 : 5, 20	分 割	A-25/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.			

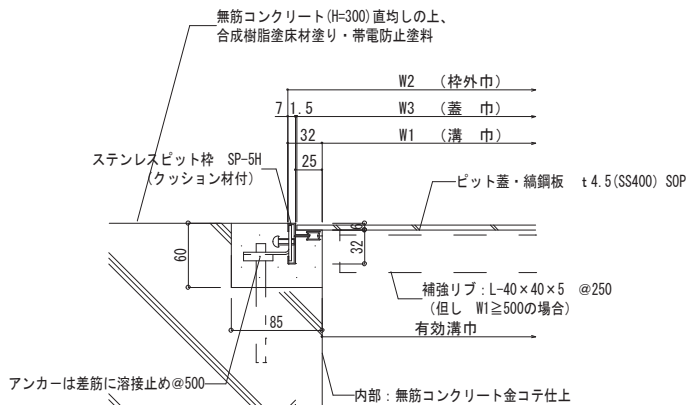
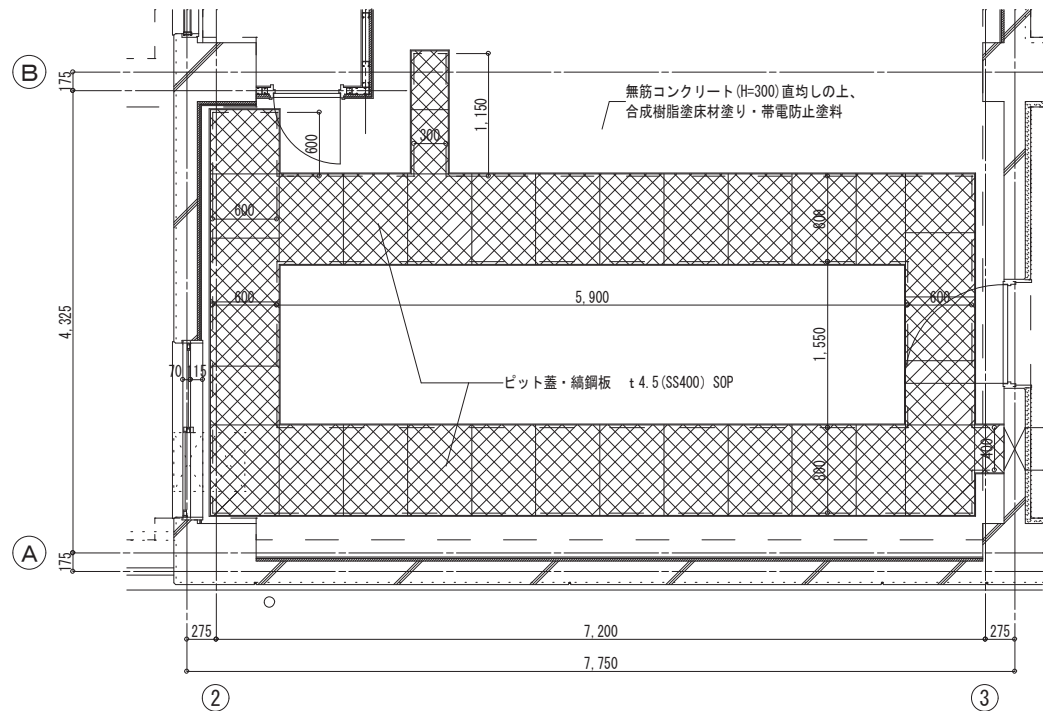
次亜室廻り詳細図

S=1:20



電気室ピット廻り詳細図

S=1:5. 50



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	部分詳細図 3	縮 尺	1 : 5, 20, 50	分 割	A-26/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.			



符号	実管寸法	スリーブ寸法	床	壁	レベル	数量	備考
C-7	φ 200	φ 350		○	GL-780	1	機械・電気工事
C-8	φ 150	φ 300		○	GL-620	1	機械・電気工事

工 事 件 名	(そー２) 北部第２ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第２ポンプ場）					
図 面 名	1階 貫通孔位置図（参考）	縮 尺	1：50	分 割	A-27/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6－そー２		マイクNo.		

新構造設計特記仕様 その1

・修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1. 本仕様の適用範囲

- (1) 本仕様の適用範囲
本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm²以上 60 N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。
- (2) 仕様書等の優先順位
設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

2. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所
- (2) 工事種別
■新築 □増築 □改築 □
- (3) 構造設計一級建築士の関与 □必要 □必要としない
□ 法第20条第二号（□RC造高さ 20 m超 □S造 4 階建以上 □木造高さ 13 m超 □その他）□
- (4) 階数
- | | | |
|------|--------|------|
| 地下 階 | 地上 2 階 | 塔屋 階 |
| 地下 階 | 地上 階 | 塔屋 階 |
| 地下 階 | 地上 階 | 塔屋 階 |

構造種別	該当階等	架構特徴等
■鉄筋コンクリート造 (RC)	基礎 1 階～ 2 階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)	階～ 階	□制震建物
□鉄骨造 (S)	階～ 階	□塔状建物
□		□
□		□
□		□

- (6) 主要用途
□事務所 □共同住宅 □病院 □店舗 □倉庫 □ □
- (7) 屋上付属物
□キュービクル kN □高架水槽 kN □広告塔 kN □煙突 m
□太陽光発電設備 □ □ □

- (8) 設計荷重
(a) 主な積載荷重 (N/m²)
- | 室名 | 床用 | 架構用 | 地震用 |
|----|----|-----|-----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

- (b) 1次設計用地震力
C₀ = 0.2 Z = 1.0 Rt = 1.0 K (地下) = 0.097 (H=1.25)
- (c) 風荷重
地表面粗度区分 III 基準風速 V₀ = 30 m/sec
- (d) 雪荷重
■垂直積雪量 55 cm ■設計用雪荷重 0.02 kN/m² □
- (e) 特殊の荷重及び仕上材
□エレベーター kN 基 □受水槽 kN □エスカレーター □ □ □

- (9) 構造計算ルート
X方向ルート - (1) Y方向ルート - (1)

- (10) 一次設計時層間変形角
X方向 1/ rad Y方向 1/ rad

- (11) 付帯工事
□門扉 □擁壁 □駐輪場 □機械式駐車場 □

- (12) 特定天井
□有 ■無

- (13) 屋根、床、壁
- | 材種 | 型式 厚 その他 | 使用箇所 | 仕様・構法 |
|--------------------|----------|---------|-----------------------|
| ALC (JIS A 5416) | 厚 | □壁 □床版 | □スライド □ボルト止め □ロッキング □ |
| □ハーフPca版 □Pca版 | 厚 | □壁 □床版 | □ |
| 折版 | H= 厚 | □屋根 □ | □ |
| 特殊デッキプレート 大臣認定 () | 型式 厚 | □屋根 □床版 | □ |

3. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

適用箇所		設計基準強度 F _c = N/mm ²	品質基準強度 F _{ck} = N/mm ²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ = kN/m ³	備考 (使用部位)
階	部位					
1	■柱 ■壁 □ ■梁 ■床版 □	24.0	24.0	8~12	24.0	水槽に関わる部分
2	■柱 ■梁 □ ■床版 ■ □	24.0	24.0	18	24.0	
	□柱 □梁 □ □床版 □					
	□柱 □梁 □ □床版 □					
	□柱 □梁 □ □床版 □					
	□柱 □梁 □ □床版 □					
	□床版 □ ■基礎 ■地中梁	24.0	24.0	8~12	24.0	
	□					
	土間コンクリート □					※本仕様適用外
	捨てコンクリート ■ 18.0			15		※本仕様適用外
セメントの種類		■ポルトランドセメント (■普通 □中熱 □低熱 □) () □高炉セメント (□A種 □B種 □C種) () □ ()				
細骨材の種類		□砂 ■山砂 □砕砂 □				
粗骨材の種類		□砂利 ■碎石 □ □				
水の区分		■水道水 □地下水 □工業用水 □				
構造体コンクリート強度を 保証する材齢		材齢 (■28日 □56日 □91日 □) 養生 (■標準 □現場水中 □現場封かん □) ()				
単位水量		■ 185 kg/m ³ 以下 □ 175 kg/m ³ 以下 □				
単位セメント量		■ 270 kg/m ³ 以上 □				
混和剤		■ AE減水剤 □ 高性能減水剤 □ □ □ □				
空気量		■ 4.5 % □ 3.0 % □				
塩化物量		■ 0.3 kg/m ³ 以下 □				
水セメント比		■ 65 % 以下 □ 50 % 以下 □				

- (2) コンクリートブロック (□ JIS A 5406)
□ A種 □ B種 □ C種 厚 □ 100 □ 120 □ 150 □ 190 使用箇所 (□ □)

鉄筋	種類	使用径 mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295	D10~D16	RC躯体全て	■重ね継手 ■ガス圧継手
	□ SD345			□溶接継手
	■ SD390	D19~D25	RC躯体全て	□機械式継手
	□ SD490			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□大臣認定番号 MSRB-
	□ 785			
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	□			
	□			
	□			

注1) SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2) 各継手の使用詳細については本仕様書の2の9、(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。

種類		使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A □SN400B □SN400C			□有 □無	JIS G 3136
□SN490B □SN490C □			□有 □無	JIS G 3136
■SS400 □SS490 □		外部階段	□有 □無	JIS G 3101
□SM400A □SM490A □			□有 □無	JIS G 3106
□BCR295 □TSC295 □			□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□BCP235 □BCP325 □			□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□STKR400 □STKR490 □			□有 □無	JIS G 3466
□SSC400 □ □			□有 □無	JIS G 3350
□ □ □				
溶接材料 □ □ □				JIS Z
□ □ □				

- (5) ボルト等
■高力ボルト
□F10T (JIS B 1186) ■S10T 大臣認定番号 () (■M16、□M20、□M22、□M24、□)
□溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号 () (□M16、□M20、□M22、□M24、□)
□
□ボルト (JIS B 1180) M M □ 4.8(4T) □ □
■アンカーボルト (構造用アンカーボルト)
■SS400 M L= mm ナット (□シングル、■ダブル)
□ABR400 M L= mm ナット (□シングル、□ダブル) (JIS B 1220)
□ M L= mm ナット (□シングル、□ダブル)
□頭付スタッド (JIS B1198)
φ= L= mm 使用箇所 □柱 □大梁 □小梁
φ= L= mm 使用箇所 □柱 □大梁 □小梁

4. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画			
■有 (■敷地内 □近隣)		□無 (調査計画 □有 □無)	
調査項目	資料有り	調査計画	調査項目 資料有り 調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験 標準貫入試験
水平地盤反力係数の測定			土質試験 物理探査
試験堀 (支持層の確認)			平板載荷試験 液状化判定
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験 P S 検層

注) 上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

- (2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土質	N 値	標準貫入試験						調査地番
			10	20	30	40	50	60	
GL ▽									○位置図
									○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
									○孔内水位 GL- m
									○近隣データの調査地番と 設計地番とは約 mの距離がある
									○備考 (土質試験の内容等) □ □ □ □ □

注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

5. 地業工事

- (1) 直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験堀 □有 □無
深さ GL- m、支持層- 、長期許容支持力度 kN/m² 載荷試験 □有 □無
- (2) 地盤改良 □浅層混合処理工法 □深層混合処理工法 □
深さ GL- m、長期許容支持力度 kN/m² 載荷試験 □有 □無
注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする

- (3) 杭基礎 □支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
■施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
■支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭種	材料	施工法	備考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート F _c スランプ セメント量 単位水量	N/mm ² cm以下 kg/m ³ kg/m ³	□オールケーシング □リバースサーキュレーション □アースドリル □拡底杭 □拡頭・拡底杭 □鋼管補強杭 □ □深礎 □手掘 □機械掘

既設杭・杭種	種類	材料	施工法	備考
□PRC	□I種 □II種 □III種 □	鋼材■SKK490	■埋め込み	認定 号 第 年 月 日
■PHC	■A種 □B種 □C種 □	鋼材□	□打ち込み	
□鋼管	□	コンクリート■FC85	□	
■SC	■	コンクリート■FC105	□	

杭仕様 ■施工計画書承認 ■杭施工結果報告書
試験杭 (■有・□無) (□打ち込み・□載荷・□孔壁測定) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「JASSG 2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□ 一社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場 □製作要領書 ■工作図 □施工計画書
□認定工場 (大臣認定 S H M R J グレード)
■材料規格証明書※、または試験成績書
■鋼材 ■高力ボルト □特殊ボルト □頭付スタッド
※一社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■社内検査表 □
- (3) 工事監理者が行う検査項目
(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
□現状検査 □組立・開先検査 □製品検査 □建方検査 □
- (4) 接合部の溶接は下記によること
■ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□ 日本建築学会「溶接工作規程、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
□ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
■ 溶接部の検査 (検査結果は工事監理者に報告すること)

5) 接合部の検査					
■ 溶接部の検査 (検査結果は工事監理者に報告すること)					
検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	
□完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	% 個	% 個	()	※平成12年建設省告示 第1464号第二号による (目視及び計測) (注) 東京都の要綱に 基づき必要となる建築 物の場合に実施する
	超音波探傷検査	% 個	% 個	()	
	内質検査 (注) □硬さ試験	% 個	% 個	()	
	□示温塗料塗布	% 個	% 個	()	
	マクロ試験・その他	個	個	()	
■	外観検査 (※)	100% 個	% 個	()	
第三者検査機関名		(都知事登録 号)			
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

- 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)
軸力導入試験 □要 □否 高力ボルトすべり係数試験 □要 □否
□ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後のずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
■ トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

- (6) 防錆塗装
□ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K 5621、□JIS K 5625、□JIS K 5674、□ (フォースター ☆☆☆☆) を使用し、2回塗りを目安とするが、実状に応じて決定すること。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料
□

7. 設備関係

- 建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講ずること。
■ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
■ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を目安とする。

□

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
□

A 2⇒A 3版

新 構造設計特記仕様 その2

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正值から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。

軽量コンクリートについてはJASS5の14節によること。

表9.1 コンクリート圧縮強度(N/mm²)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 F _c	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm ²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
----------------------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

呼び強度〔JIS規格品〕	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※
--------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

※印は規格外

(b) 品質と施工

- 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
 - 標準 □長期 □超長期
 - (本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。)
- コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
- 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
- レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
- 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準強度が36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。
- コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。
- コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。
- コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
- 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
- コンクリート打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

- コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮強度試験方法)もしくはJIS A 1107(コンクリートからのコアの採取方法)による。
- i) 高強度コンクリート
 - 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。
 - 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。
 - 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
 - ① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
 - ② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。
- 調合管理強度は、以下による。
$$H F_m = F_c + m S_n \quad (N/mm^2)$$
$$H F_m : \text{高強度コンクリートの調合管理強度} \quad (N/mm^2)$$
$$F_c : \text{コンクリートの設計基準強度} \quad (N/mm^2)$$
$$m S_n : \text{高強度コンクリートの構造体強度補正值で JASS5 による。}$$
- 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
$$H F \geq H F_m + 1.73 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$
$$H F \geq 0.85 H F_m + 3 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$
$$H F : \text{高強度コンクリートの調合強度} \quad (N/mm^2)$$
$$\sigma_H : \text{高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差} \quad (N/mm^2) \text{ で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、} 0.1 (F_c + m S_n) \text{とする。}$$

ii) 普通コンクリート

- 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。
- 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 ⁽¹⁾	判定基準
標準養生 ⁽²⁾	28 日	$X \geq F_m$
コ ア	91 日	$X \geq F_q$

ただし、X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)

F_m：コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q：コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

〔注〕(1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所、乾燥しないように養生して保管することができる。

* 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場中養生供試体によることができる。

その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

* コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。

その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$F_m = F_q + m S_n \quad (N/mm^2)$

F_m：コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q：コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

m S_n：標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正值 (N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。

$F \geq F_m + 1.73 \sigma \quad (N/mm^2)$

$F \geq 0.85 F_m + 3 \sigma \quad (N/mm^2)$

F：コンクリートの調合強度 (N/mm²)

σ：使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1F_m の大きい方の値とする。

(d) 検査

- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。3回の試験で 1検査ロットを構成する。高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあげた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
- 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の選搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあげた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c) 調合および構造体コンクリート強度による。
- コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名	(都知事登録 号)
代行業者名	(登録番号 号)

代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(2) 鉄 筋

(a) 施工

- 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。
- 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D (16) 以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D (19) 以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D () 以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D () 以上	

注) (1) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

- 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
- ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
- 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
- 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

- i) 鉄筋の種類・径の検査
- 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。
- ii) 配筋の検査
- 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。
- iii) 鉄筋継手部の検査
- 各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5 鉄筋継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり (30) 箇所又は () %	JIS Z 3062:2014による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0005:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波測定検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0003:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241:2011による

注) 1 抜取り 1 検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。

注) 2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備 考
		検査機関	施 工 者		
■	全数	全数	()	()	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	()	
□	全数	—	全数	()	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	()	()	

- 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。
- 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。

試験機関名	(都知事登録 号)
検査機関名	(都知事登録 号)

(3) かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。
- 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7 設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋 内	屋 外 ⁽²⁾	屋 内	屋 外 ⁽²⁾
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 ⁽¹⁾	30	40	(30)	(40)

直接土に接する柱・梁・壁・床および基礎の立上り部分、擁壁の壁部分	50
基礎、擁壁の基礎・底盤	70
水に接する部分	80

注) (1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

- 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型 枠

- 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9.8 型枠存置日数 昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種 類 部 位	せ き 板		支 柱			
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、梁下	スラブ下		梁下	
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種
コンクリートの材令 (B)	15℃以上	2	3	4	6	8
	5℃～15℃	3	5	6	10	12
	5℃未満	5	8	10	16	15
コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm ²	設計基準強度の50%		設計基準強度の		
				85%		
				100%		

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあつては 5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm²以上。

注) 1 片持ち梁、底、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。

注) 2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛替え後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。

注) 6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。

注) 7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

A 2⇒A 3版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事									
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第2ポンプ場）									
図 面 名	新構造設計特記仕様 その2 縮 尺	—	分 割	S- 2/22						
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 ーそー2	ㄇｲﾝNo.							

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d・・・異形鉄筋の呼び名に用いた数値（径） D・・・部材の成、又は鉄筋内法直径
- @・・・間隔 r・・・半径 C・・・中心線 L_o・・・部分間の内法距離 h_o・・・部材間の内法高さ
- S T・・・あばら筋 H O O P・・・帯筋 S. H O O P・・・精強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

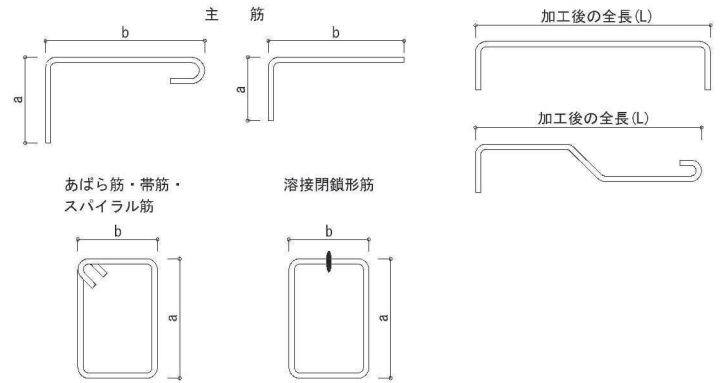
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295	D16以下	3d以上
	135°	SD345	D19～D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
		SD490	D25以下	6d以上
			D29～D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
- (2) スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
- (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
- (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
- (6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差

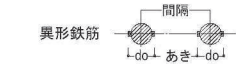
項	目	符 号	許 容 差
各加工寸法 (1)	主 筋	D25以下	± 15
		D29以上D41以下	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5
加工後の全長		L	± 20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。

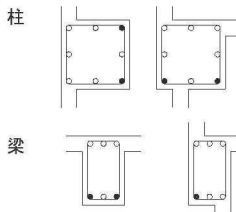


(4) 鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
- b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）
- d. 単純梁の下端筋
- e. その他、本配筋標準に記載する箇所

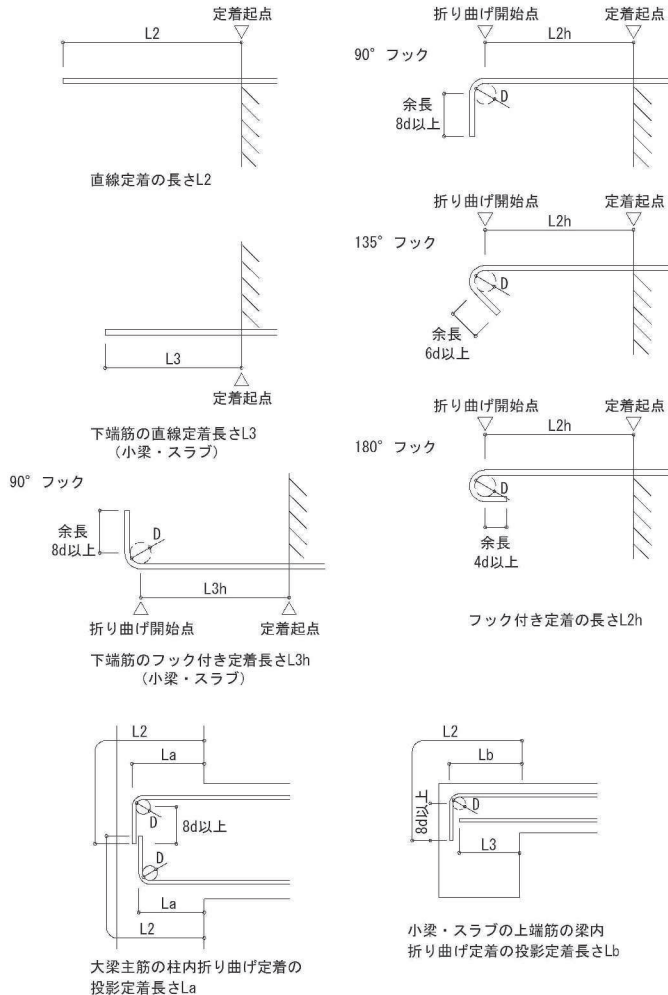
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



(5) 定着長さ（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)	一 般				小梁下端筋	スラブ下端筋
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La (3)	Lb		
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d
	21	35d	25d	15d	15d		
	24～27	30d	20d	15d	15d		
	30～36	30d	20d	15d	15d		
	39～45	25d	15d	15d	15d		
	48～60	25d	15d	15d	15d		
	48～60	25d	15d	15d	15d		
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d
	21	35d	25d	20d	20d		
	24～27	35d	25d	20d	15d		
	30～36	30d	20d	15d	15d		
	39～45	30d	20d	15d	15d		
	48～60	25d	15d	15d	15d		
	48～60	25d	15d	15d	15d		
SD390	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d
	24～27	40d	30d	20d	20d		
	30～36	35d	25d	20d	15d		
	39～45	35d	25d	15d	15d		
	48～60	30d	20d	15d	15d		
	48～60	30d	20d	15d	15d		
	48～60	30d	20d	15d	15d		
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—		
	39～45	40d	30d	20d	—		
	48～60	35d	25d	20d	—		
	48～60	35d	25d	20d	—		

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
- (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
- (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
- (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



(6) 継手

■重ね継手（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

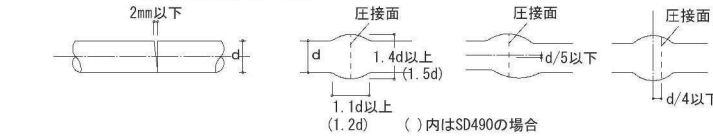
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
- (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
- (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

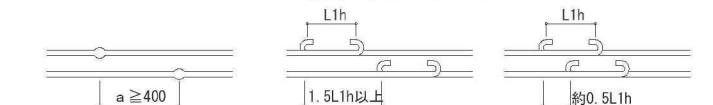
■継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手



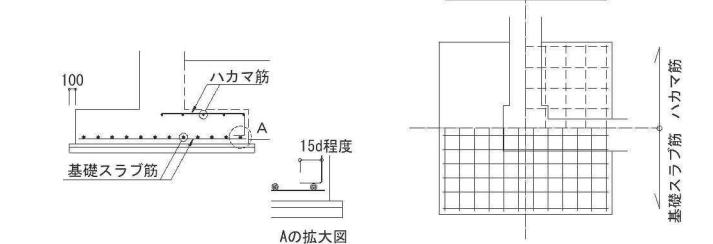
- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

3. 杭・基礎

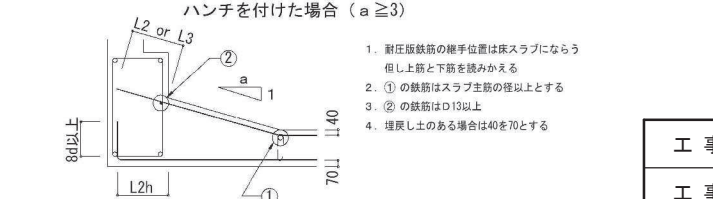
（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

(1) 直接基礎

①独立基礎



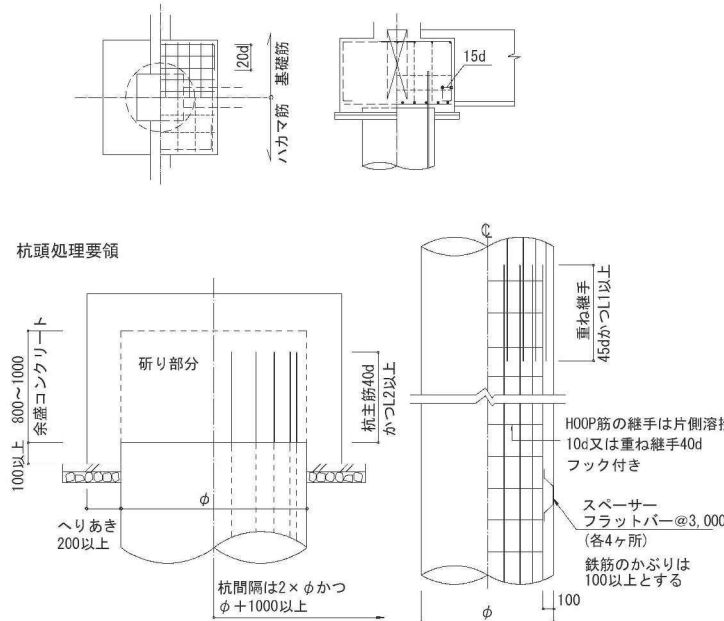
②ベタ基礎



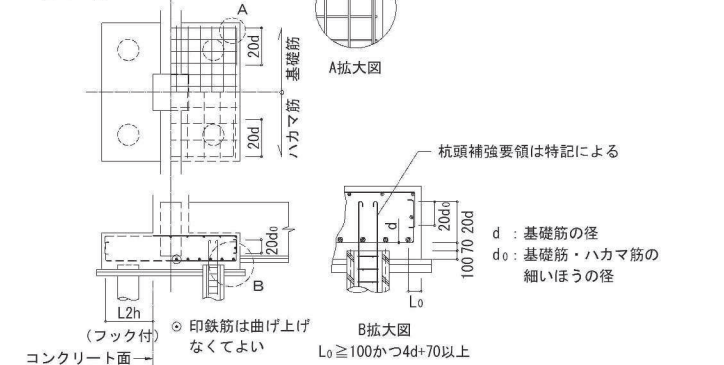
- 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう但し上筋と下筋を錯みかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40を70とする

(2) 杭基礎

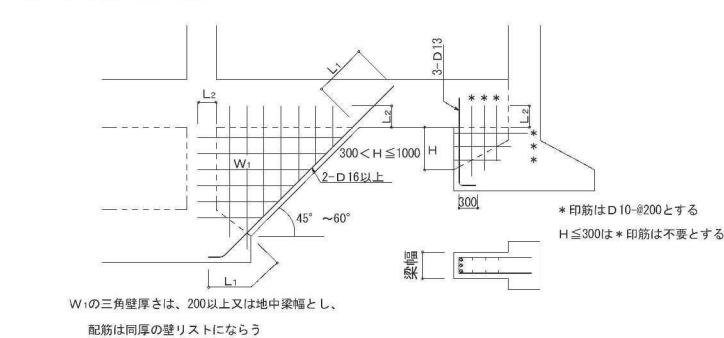
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第2ポンプ場）				
図 面 名	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図(1)	縮 尺	—	分 割	S- 3/22
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マケNo.		